

14
221

宗教哲學目次

緒論

宗教思想ノ發達

宗教研究法



附
ル
ラ
イ
マ
ル
ユ
ス

カ
ン
ス

ロ
ン
ン

シ
ヤ
ン
ツ
ス
ツ
ー

マ
ロ
ン
グ
ラ
フ
マ
ン
ド

一三三

一

五

八

二四一六八

六八一二九

二九一三六

三八一四二

四三一四八

四八一五二

五二一五七

五七一六一



緒論	一六三—一六四
第一章 宗教の發達	一六四—一七四
第二章 宗教の組織	一七四—一八六
第三章 宗教の社會	一八六—二三三
第四章 宗教の歴史	二三三—二三七
第五章 宗教の哲學	二三七—二五五
第六章 宗教の未來	二五五—二六六
第七章 宗教の比較	二六六—二七三
第八章 宗教の實踐	二七三—二七七
第九章 宗教の藝術	二七七—二八三
第十章 宗教の科學	二八三—三一一
第十一章 宗教の政治	三一一—三三六
第十二章 宗教の經濟	三三六—三七六

宗教哲學

館主 井上圓了 講述

水谷捨太郎 筆記

緒論

(宗教思想の發達)

是ヨリ余ガ理論的宗教學ヲ講述セントスルニ方リ、先ツ宗教哲學ノ起原ヲ陳ズベシ、抑宗教ヲ以テ一ノ哲學トシテ研究スルニ至リシハ最新ノ「ニ」今ヲ去ル凡ソ二百年前ニ始マレリ、然レモ宗教ト哲學トハ元來密着ノ關係ヲ有スルモノニシテ、互ニ分離スベカラズト雖モ、其思想發達ノ順序ニハ自ラ先後アリ、今宗教ヲ以テ一ノ組織アル學問トセズ、單ニ宗教ト云フ思想上ヨリ言フ時ハ、哲學思想ヨリ先キニ發達シ、是ヨリ哲學思想生シ來レルモノナリト云フベシ、凡ソ何ノ國ニアリテモ皆神代史ナルモノアリ、此レ最モ古キ歷史上ノ思想ヲ以テ其國ノ宗教ヲ組ミ立ツルモノナリ、例セバ印度國中最モ古キ開闢說ナル「バラモン」教ガ同國ノ宗教トナレル如キ、ペルシヤノ拜火教ガ同國中最古ノ開闢說ニシテ、同ク

(三)

其國ノ宗教トナレル如キ是ナリ希臘國ニアリテモ太古ノ神代史ヲ以テ宗教トヒ
 リ彼ノソクラテス氏ガ自害ヲ命セラレシハ實ニ氏ガ哲學思想ヲ以テ之ヲ改良セ
 ント試ミシニヨル此ニ由テ之ヲ觀ルニ宗教思想ノ發達セシハ最モ古キトニシテ是
 レヨリ哲學思想ノ發生スルニ至リシ者ナリ之ヲ要スルニ宗教ト哲學トハ其思想
 發生ノ期限ニハ前後ノ差アリト雖モ其發生ノ原因ニ至リテハ更ニ異ナルトナシ
 今其所以ヲ尋ヌルニ人間ノ此世ニ在リテ智識ノ未ダ開クザル時ニ方リテヤ風雨
 雷電ノ變晝夜ノ交替寒暑ノ來往其他百般ノ天災地變一トシテ奇異ナル思ヒヲ爲
 ササルナシ此不思議ノ念即宗教及哲學思想ノ胚胎スル處ナリ而シテ人ノ最大有
 力者ヲ立テ此等不測ノ出來事ヲ以テ其仕事ニ歸スルニ至リ始メテ宗教ヲ形成ヒ
 シ者ナリ然リ而シテ人智一ト開ク其有力者ハ果シテ如何ナル者歟神ナルモノハ眞
 ニ實在スルモノナル歟ヲ疑フニ至リ此ヲ研究シテ益有神ノ說ニ安ゾズル能ハズ
 遂ニ宇宙萬物及其變化ノ原因ヲ既知界中ニ定ムルニ至レリ是レ即希臘ノタール
 ス氏ガ始メテ水ヲ以テ之ガ原因トシタル所以ナリ爾後哲學者相繼テ起リ皆宇宙
 以內ニ其原因ヲ求メ或ハ空氣或ハ火或ハ地風等各考定スル所ニヨリテ其說ヲ異

ニスルニ至レリ是ニ由テ之ヲ觀レバ宗教思想ト云ヒ哲學思想ト云ヒ共ニ同原因
 ヨリ起リタルヲ知リ又其先後ノ次第ヲモ知ルベキナリ然ラバ其哲學思想ナルモ
 ノハ先ヅタールス氏ヲ以テ鼻祖トナスベシ氏以前ニアリシモ幾分カ其思想ノア
 リシトハホトマールノ詩ヲ視テモ知ルヲ得ト雖モ是亦宗教思想ヨリ發生セシモ
 ノナリタールス氏以後宗教ト哲學トハ反對ノ勢ヲ以テ進步シ哲學ハ恰モ宗教ノ
 敵手トナリタル有様ナリシ今其兩者ノ關係ヲ以テ一首ノ歌ヲ作ルニ譬ヘンカ宗
 教ノ方ニアリテハ恰モ古人ノ詠シ置キシ上ノ句ヲ取りテ之レニ強ヒテ下ノ句ヲ
 附會セントスル如ク哲學ノ方ニテハ上ノ句其者迄テ更作シテ新クニ今日ニ適ス
 ル一首ノ名歌ヲ作り出サントスルガ如シ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ宗教ハ保守ナリ
 哲學ハ改進ナリ

タールス氏以後哲學者續々輩出シテ哲學思想ヲ振起シ其天神ニ與フル解釋ノ如
 キハ大ニ一般人民ノ信スル所ト異ナリシヲ以テ自然ノ勢世間ノ宗教ト互ニ抗排
 セサルヲ得サルニ至レリ是ヲ以テソクラテス氏ハ一身ヲ犧牲ニスルニ至リシモ
 其後哲學者前後相繼テ起リ哲學思想一層發達シテ遂ニ宗教思想ヲ壓伏スルニ至

然ルニ形勢一變羅馬ニ入ルニ及ビ、宗教ノ勢漸ク加ハリ、遂ニ哲學ヲ凌駕スルニ至レリ、今其理由ヲ探クルニ、當時羅馬ハ哲學思想甚淺クシテ、實際ノ事ハ大ニ發達シタルモ、希臘ノ如キ理論上ノ學問ハ復タ見ルベクモアラズ、故テ以テ從來發達シ來リシ哲學思想ハ全ク地ニ落チタルナリ、此時ニ際シ耶蘇生レテ羅馬及希臘ノ宗教ヲ併ヒ大ニ改良ヲ加ヘ、其徒弟ノ盡力ニヨリ更ニ一層ノ勢力ヲ増セリ、其初メ羅馬ハ耶蘇教ヲ嚴禁セシテ以テ久ク勢力ヲ得サリシモ、内部ヲ顧ミレバ之ヲ信奉スルモノ日一日ヨリ増加スルニ至レリ、

國民ノ氣風既ニ耶蘇教ニ歸向スルノ時ニ方リコンスタンチン帝位ニ即キ、專ラ國民ノ葵心ヲ牽カント欲シ、先キノ禁令ヲ解キタリ、是ニ於テ耶蘇教大ニ盛ニシテ其勢世界ヲ支配スルニ至レタ、然ルニ中世ノ末葉ニ及ビ、煩瑣學派ナルモノ起リテ、古來ノ宗教ヲ妄信セズ種々ノ解釋ヲ試ミ、此ニ理屈ヲ加ヘ、稍學術的ニ論究スルニ至リシガ、近世ノ始メ此學益發達セリ、是即チ宗教ヲ學問的ニ研究モシ初メナリトス、

(宗教研究法) 宗教ヲ研究スルノ法ニ派ニ分ル、其一ハ宗教ヲ宗教トシ、他ノ學問

ト全ク異ナルモノトシテ、研究スベシト云ヒ、他ノ一ハ宗教モ他ノ學問ト同一ノ道理ニヨリテ研究スベシト云フ者是レナリ、尙之ヲ詳述セシニ前者ハ元來宗教ナルモノハ理學哲學等ト其性質異ナルモノナキハ、哲理中如何ナルトアルモ此ニ依テ説明スルヲ能ハズ、全ク神ノ感通ニ賴リテ吾人ノ正ニ其真理ヲ悟入スルモノナリト主張ス、此法近世ノ初年ニ起リタルモノニシテ神智教(秘密教)ノ如キ是レナリ、其人心ノ上ニ神ノ感通ヲ待チテ萬事ヲ知ルト云フヨリ名ヅクルモノニシテ、原語ノ Theosophical, Mysticism 是レナリ、故ニ此ヲ以テ學術上ノ研究ト言フベカラス、又宗教哲學ト稱スルヲ得ズ、何トナレバ吾人ノ有スル學術思想ニ依テ研究スルモノニ非ラザルヲ以テナリ、先ツ直覺的宗教心トモ名ヅクベキ想像的ノ考ヲ以テ講究スルモノナレバナリ、後者ニアリテハ全ク之ト異ナリ、万有自然ノ道理ニヨリテ真理ヲ探究スルモノニシテ論理的討究ナリ、此法ノ始メヲナシ、モノヲスピノザ氏トナス、スピノザ氏以前哲學的ニ神ノ何タルヲ説キシ人ナキニアラスト雖モ、此等ノ人皆神ノ性質如何ヲ説キ盡スヲ能ハザリシヲ以テ、宗教哲學首唱ノ名ハスピノザ

宗

教

哲

學

氏ニ歸セザルヲ得ザルナリ、抑スピノザ氏等ノ論ズル神ハ想像上ノ神ニアラズ、易ノ大極ノ如ク、佛ノ真如ノ如キ理想ノ意義ニシテ、此神ト物心ノ關係如何ヲ説クニアリ、此點ヨリ觀レバ、宗教哲學ノ研究ハ、恰モ純正哲學ニ異ナルヲナキガ如シト雖、純正哲學ハ其範圍頗ル廣クシテ物心神ノ三昧ヲ通シテ説明シ、宗教哲學ハ重ニ神ノ如何ニ關シテ説明スルモノナルヲ以テ其範圍頗ル狹シ、換言スレバ宗教哲學ハ純正哲學ノ一部ニ過ギザルナリ、

凡ソ神ニ就キテノ説、古來其變遷甚シク、太古ニアリテハ多神教説ニシテ、遠クハ日月星辰ヨリ、近クハ禽獸草木ニ至ルマテ皆之ヲ神トセリ、後世ニ至リ其多神教説ニ満足セズ、此等多神ヲ包括シテ一大神トナシ、且之ヲ遠キニ求メテ宇宙以外ニ置キ、此ニ歸スルニ世界ノ創造萬物ノ主宰ヲ以テセリ、然レドモ此一神ト萬物トノ關係ヲ説明スルニ至リテ亦満足スルヲ得ズ、遂ニ一變シテ古説ニ復シ、此世界ハ神ナリ萬事萬物皆神ナラザルナシトスルニ至レリ、此ヲ皆神教ト稱ス、然レドモ其神説ノ起點ナル多神ト、終點ナル皆神トハ其説自ラ異ナリ、前者ニアリテハ日月山川草木禽獸等其現實物ヲ以テ神トナシタルヲ以テ、遂ニ進メテ一神説トナリシモノナ

宗

教

哲

學

レドモ、後者ハ萬物ノ真本體ヲ意味スルモノナレバ、此神ハ純然タル絶對、若クハ理想、若クハ真如若クハ不可知的ノ名稱ヲ附シテ可ナルモノナリ、

上述ノ如ク太古野蠻ノ時既ニ多神教アリ、一轉シテ一神教トナリ、再轉シテ皆神教トナレリ、其多神ト皆神トノ似テ非ナル如斯ト雖、而カモ一神トノ如キ甚シキ差異アルニアラズ、此ニ由テ之ヲ觀ルニ神ニ就テノ思想ハ、或ハ進ムガ如ク、或ハ退クガ如ク、其進ムヲ退クト云フカ、退クヲ進ムト云フカ何レナルヤヲ疑フニ至ル、然レト云フコトヲ解シテ循環ノ度數ヲ重ヌルモノナリトス、此事タル獨リ宗教上ニ止マラズ、喻ヘバ政治ノ上ニ於テモ支那ノ昔シ八元八愷ヲ四方ニ徵シテ治ヲ彌ケシメシコアリ、是恰モ今日代議士ヲ諸國ニ招集スルト同シク、只國家ノ狀態古今單複ノ差アルノミ、之ヲ要スルニ宗教哲學ノ研究ハ古今同一ト云フベカラザルモ、稍古ニ似タル處アリ、唯其異ナルハ古代ハ空想ニ本キテ起リ、今日ハ推理ニヨリテ知ルノ別アルノミト謂フベシ、

以上宗教ヲ研究スルノ二法、即第一ハ宗教ヲ宗教トシテ研究スル法ト、第二ハ宗教ヲ

哲學トシテ研究スル法トアリ第一ハ第二ヨリ先キニ起リシ神智教ニシテ第二ハ
スピノザ氏ヨリ始マリシヲ説クリ以下神智教ニ就キテ少シク述ブル所アラソ
トス神智教ハ神知秘密ヲ義トスルヲ以テ左ニ之ヲ神智教ト名クベシ

(八)

(神智教) 今日ニ於テモ或ル宗教家ハ此神智教ノ研究ノ方法ヲ取ルモノアリ其法
吾人ノ心中ニ別ニ宗教心ヲ設ケテ神ト感通シ以テ宗教ノ真理ヲ觀ズルモノニシ
テ即チ神ノ啓示ヲ以テ宗教ヲ立ツルモノナリ此神智教中有名ナル一人ヲマイス
テルエカールト氏トス氏ハ獨乙ノ人ニシテ第十四世紀ノ初年ニ宗教學者トナリ
テ世ニ現ハレタリ今其說ニ依ルニ天帝ハ此世界ヲ離レテ別ニ遠ク存在スルモノ
ニアラス常ニ此世界ト關係ヲ保チ此世界ノ内部ト相通シテ存スルモノナリ又吾
人ノ精神ナルモノハ全ク神ノ一部分ナリ故ニ此精神上ニテ神態ヲ觀察シ又神ト
交感スルヲ得ト是レ氏ノ說ノ大要ナリ氏又耶穌教ノ三位一體說ヲ唱フ其考フル
所ヲ觀ルニ三位一體ハ獨リ神ト耶穌トノ上ニアルノミナラス一切ノ人間ト神ト
ノ間ニモ精靈ノ感通アルモノナリ天ニ在ル處ノ神地ニ居ル處ノ人同ク神ニシ
テ其天ニ在ルモノハ親ナリ地ニ居ルモノハ子ナリトシ以テ三位一體說ヲ廣ク世

間一般ノ人間ニ及ボシ天帝ノ子ハ獨リ耶穌ノミニ限ルニ非ラズ全人類悉ク天帝
ノ子ナリト説クリ氏ハ又神ハ造物者ナリト云フハ神ニ造ラレタル人間ノアル故
ナリ造ラレタルモノアル故ニ造リタルモノアルナリ即チ造物アレバコソ能造ノ
神アルナレ吾人ガ神ニ依リテ此處ニ存在シ神ニ依リテ此處ニ獨立セリ若シ神ナ
クンバ吾人此處ニアラザルト一般ニシテ若シ吾人ナカリセバ神アリト云フヲ得
ズ此二者相對立シテ其一ナクレバ同時ニ他ノ一モナシト云ヘリ此レ恰モ哲學ニ
所謂相對アレバコソ此コニ絕對アリトノ說ニ符合セリト云フベシ即相對ハ絕對
ニ依リテアリ絕對ハ相對ニ依リテアルモノナレバ二者互ニ其一ヲ缺クベカラズ
ト云フモノ是レナリ神ト人間トハ即此相對絕對ノ關係ト同一ニシテ神ヲ絕對ト
シ人間ヲ相對トスレバ此神ト人間トハ相待チテ存シ神ノ内ニ人間ヲ含ムト同時
ニ人間ノ内ニモ神ヲ含ミテ二者同一ノ關係ヲ有スルモノトナル故ニ氏ガ此世界
ヲ造リタルモノモ又造ラレタルモノモ皆其神ニ他ナラズ然ルヲ神外ニ人間ア
リ人間外ニ神アリト思フハ誤レリトナシタルハ全ク哲理ニ背ケル者ニアラズト
謂フベシ氏ハ又此神人歸一說ヨリ善惡論ヲ推演セリ凡ソ惡ナルモノハ吾人人類

(九)

テ以テ神ノ外ニ存スルモノト思フヨリ生ズル所以ニシテ善ナルモノハ吾人人類
 テ以テ其軀即神ナリト考フルヨリ生ズル所以ナリ吾人ノ心ハ全ク神ノ分子ニシ
 テ直ニ神ニ歸スルヲ以テ神ハ心ニ顯ハレ其心ハ即善トナレ也若シ神ト吾人ノ心
 トハ遠ク分離シタルモノトスレバ其心ハ已ニ神ニ背戾スルモノニシテ諸惡ノ隱
 ルハモノトナルト云ヘリ氏ノ此說ハ哲學上頗ル興味アルモノニシテ稍佛教所說
 ニ近キモノナリ今一步ヲ退キ世ノ通俗ニ稱スル所ノ神トハ如何ナルモノカト云
 フハ其所謂神ハ吾人ノ外ニ遠ク離レテ外界ニ存在スルモノニシテ其冥助ヲ受ク
 ルハ恰モ人間ガ此社會ノ或ル他人ヨリ恩惠ヲ受クルガ如シ即チ一國主或ハ富有
 ナル人或ハ高位高官ノ人ハ世人頻リニ此ヲ尊敬シ或ハ其ノ金力ニ頼リ或ハ其權
 カヲ借リ救助セラルト同マク神ハ此等高等人物ヨリモ尙數層上位ニ在マスモ
 ノナレバ此神ヲ崇敬スレバ助ケテ受クルモノト考ヘ以テ禮拜謹仕ス是即神ニ對
 スル通俗ノ說ニシテエカールト氏ノ說ヲ去ル遠シト謂ベシ
 吾人ヲ離レテ神ヲ離レテ吾人ナシ此世界ハ神ヨリ成ルモノナレバ神ハ吾
 人ノ全部分ナリ吾人ハ神ノ一部分ナリ神ガ一切万物ヲ包含スルト共ニ吾人一切

万物ヲ網羅包有スルモノナリト云フハ即チエカールト氏ノ說ニノ佛教ニ所謂真如
 ハ万物ヲ含ミ万物真如ヲ含ムト云フニ同マク吾人ノ心ハ神ノ一部分ニシテ若シ吾人
 ガ此世界ハ神ノミト考フル時ハ善ナリ之ニ反シテ神ノ外ニ存スルモノト考フル
 時ハ惡ナリ純然ノ善トハ吾人ガ全ク神ニ化セシテ云フ而シテ神化スルトハ神力
 ノ助ケニヨリテ此世界ノ念慮ヲ脫去スル事ニシテ吾人ガ之ヲナスニハ吾人ノ有
 スル智情意ヲシテ一途ニ繼メ其心ヲ安靜ニシ心中思念スル所ハ唯一ノ神徳ノミ
 トナスニアリ換言スレバ心中唯神ヲ念ズルモノニシテ万物及自己ニ愛着スル
 念ヲ除去スルニアリ如此スル時ハ吾人始メテ神ニ歸シ神ノ性質ニ變化シ又神ヲ
 見ルヲ得ルナリト說ケルハ全ク普通ノ耶穌教說ニ反シ佛教所說ノ只一心ニ阿
 彌陀佛ニ歸向スベシト云フニ近シト謂フベキナリ
 今氏ノ說ヲ見ルニ吾人々類ハ心ヲ神ニ一任スベシト云フ然ラバ即チ吾人ハ自己
 ノ心ヲ抹殺シ自己ノ身軀ヲ死物トナシ唯神命是レ從フト云フヲカト云フニ決シ
 テ然ラズ吾人々類ハ迎角外物ニ迷ヒ自己ニ執着シ萬物ニ愛戀スルモノナレ也是
 レ惡念ナルガ故ニ如斯不善ノ思想一切之ヲ除却シ唯真正ニ神ヲ念ズル時ハ自然

宗 教 哲 學

吾人ノ心ニ自由ヲ得ルモノナリ、吾人ノ心ニ自由ヲ得ズシテ唯神ニノミ支配セラル、ト云フニ非ザルナリ、要スルニ外物ニ惡念スルヲ斷滅シテ、一心ヲ信ズル時ハ、心中ニ自由ヲ得ルモノニシテ、決シテ初メヨリ器機的ニ神ノ支配ヲ受クルト云フニハ非ザルナリ、尙換言スレバ吾人ノ心ハ神ナル故ニ、心ヲ專ラニシテ神ナル一念ヲ置ク時ハ、茲ニ神ノ動作我心ノ上ニ發現シテ自由ヲ得ルト云フニアリ、而ルニ若シモ吾人々類ニシテ前ニ反シ神ヲ信ズルヲナク、外物ニ心ヲ奪ハル、時ハ長ク罪人トナリテ、復タ神ニ歸スルヲ得ザルモノトセリ、以上述アル所ニヨリテ、エツカールト氏所説ノ大要ヲ知ルベシ、其説當時ノ宗教家ト異ニシテ、宗教哲學ノ名稱ヲ附スルモ可ナリ、然レモ氏ハ未ダ宗教ヲ以テ哲學ト同一視シテ研究セシニアラス、宗教ヲ以テ理學哲學ト異ナルモノトシ、一種特別ニ研究セシヲ以テ、之ヲ神秘教ト名ゾクルナリ、

此ニ、カールト氏ノ説ハ日耳曼ニ於テ一般ノ學者ノ容ル、所トナリ、後ルードル氏ガ宗教ヲ改革セシモノ主トシテ此説ニ基キタルモノナリ、其ヨリ獨乙ノ宗教家此説ヲ探リテ曰ク、吾人ガ神ヲ思想上ニ浮アルヲ得ルハ、即吾人ノ心ガ神ニ達スル

宗 教 哲 學

ヲ得ルニヨリ、或ハ神ガ吾々ノ思想ニ達スルニヨル、果シテ吾々ノ心ガ神ヲ想像スルヲ得ルトセバ、則チ吾々ノ心ハ神ノ一部分ナリ、然ラバ即チ一切ノ人類其軀即神軀ニシテ、吾人々類ノ究竟目的ハ神ノ本軀ニ向ツテ進ムニアリ、故ニ此世界ハ不生不滅ナル神ノ世界ニシテ、所謂天國ナリト、之ヲ佛説ニ對照スルニ、我身ヲ離レテ佛ナク、此土ヲ離レテ極樂ナシト云フニ等シ、又曰ク吾人ハ神ヲ離レテ別ニ存スト云フ如キ一ノ私見ヲ抱キ易キモノナリ、此私見ハ所謂我ニシテ神ニアラズト、今試ニ人類ノ心ヲ二種ニ分チ、其一ヲ我心即神ト考フルモノトシ、他ノ一ヲ我心神ニ非ズト考フルモノトスルニ、若其考後者ニアレバ地獄或ハ惡魔ノ世界ニシテ、前者ニアレバ極樂世界ナリ、即神ニ背クモノハ全ク我ナル私見ニシテ、凡テノ罪惡ハ此私見ヨリ生ズルモノナリ、若シ之ヲ除キ去レバ、是即天國ナリ、極樂ナリ、然ルニ吾人ハ私見ヲ却クルヲ頗ル難クシテ、常ニ罪惡多シトス、若シ一心ヲ神ニ托シ、一心ニ神ヲ信ズル時ハ、神自ラ心中ニ顯ハレ、罪惡消滅シテ善良ニ化スルモノナルヲ以テ、吾人ハ常ニ神ト通シ、之ト同軀ナラン事ヲ勉メザルベカラズトセリ、獨乙ノ神學者中ニ一心ニ神ノ説アリ、曰ク、凡ソ人ニハ左右兩眼アリ、右眼ハ不生不滅ノ神軀ヲ見、左眼ハ神

宗 教 哲 學

所造ノ事々物々ヲ見ルナリ、此二眼同時ニ働ク事能ハズシテ、右ヲ働カス時ハ左眼働ク能ハズ、左ヲ働カス時ハ右眼働クヲ能ハズト以上ノ諸說皆神祕敎家ノ一般ニ唱フル所ニシテ、其軌ヲ一ニセリ、而シテ此論ハ後ニルーツル氏ノ宗教改革ヲ呼ビ起ス原因トナリシ事ハ、後段説ク所ニ由リテ知ルベシ、

畢竟エツカールト氏ノ宗教主義ハ客觀上即外界ニ宗教ヲ立テズシテ、主觀上即内界ニ宗教ヲ立ツルモノナリ、故ニ若シ其ノ説ニ從フ時ハ、主觀的ノミニ偏シ、從來ノ客觀上ニ成リ立テタル宗教ハ到底仆ル、外ナシ、何トナレバ神ヲ外界ニ存スルモノトシ、吾人ヲ離レテ遠ク獨立スルモノナリトスルヲ以テ、所禱禮拜ヲナスニハ靈像靈壇其他種々ノ儀式ヲ要スルモノナリト雖モ、神ヲ内界ニ求メ之ヲ主觀上ニ存立スルモノトスレバ、偶像儀式以テ禮拜スルノ要ナキノミナラス、耶蘇ヲ神子トシテ奉信スルヲ要セス、是ニ於テ彼ノ有名ナル宗教改革者ルーツル氏ハ其神學上ノ説ニ、ガールト氏ニ基キテ立論セシト雖モ、若シ全ク同氏ノ如ク主觀的ニノミ傾ク時ハ、宗教ヲ成立スルヲ能ハザルヲ以テ、之ニ從來行ハレシ客觀的ノ説ヲ加ヘテ二者相調和セシメ、大ニ宗教ヲ改良セリ、今其取捨折衷セシ所ヲ見ルニ、當時行ハレタリ

宗 教 哲 學

シ舊敎ニアリテハ麵包ト葡萄酒トヲ神前ニ供シ、麵包ヲ取リテ神ノ肉トシ、葡萄酒ヲ以テ其血トナシ、食シテ以テ眞ニ神ノ精靈ヲ受クルト信ゼリ、ルーツル氏ハ之ヲ改良シテ其解釋ヲ變更セシト雖モ、猶其儀式ヲ存シタリ、エツカールト氏ノ説ニアリテハ、耶蘇ヲ神ノ子トシテ之ヲ崇ムルヲ要セズト雖モ、ルーツル氏ハ之ヲ神ノ子トシテ古説ニ從ヒ、以テ三位一體説ヲ唱ヘシ如キ、其客觀ノ一部分ヲ存シテ主觀上ノ説ト相合シ、宗教ト哲學トヲシテ多小調和シタルモノト謂フヘシ、然リト雖モ他ノ宗教者ニアリテハ皆哲學上ノ討究ヲ去テ、只獨斷的ニ奔レリ、新敎ヲ唱フル者モ要スルニ皆從來ノ神説ヲ存シ、唯儀式的改良ニ止マレリ、サレバ新敎者中哲學思想アリテ其論見ルニ足ルベキモノ、概リルーツル氏ヲ除キテ他ニアルヲナシ、當時ノ宗教家皆カ、有様ナルニモ拘ハラズ、又一方ニ於テハエツカールト氏ノ説ヲ主張シテ秘密主義ヲ取ルモノアリテ、哲學的思想大ニ進歩セリ、其極端論者中有名ナルモノヲ擧グレバカスバトシ、ミンクフルド氏ヒベスチア、フランク氏、ブレンチー、ウアイグル氏、ヤコブ、ポイメ氏等ナリ、ヤコブ、ポイメ氏ハ千五百七十五年ニ生レ、千五百二十四年ニ没ス、其説後ニ至リテスピノサライブニツシヨッペン、ハウエル、ロッテニ

宗 教 哲 學

等獨乙哲學者諸氏ノ基礎ヲ成セリ、
 今氏ノ宗教論ヲ見ルニ神ハ如何ナルモノカト云フニ神其物ハ一定ノ性質ナク善
 ト云ヒ惡ト云フベキモノニ非ズ一定ノ場所ナク此處ニ在リ彼處ニ在リト云フベ
 キモノニ非ズ一定ノ智力感情等ヲ有セズ物欲モナクレバ愛憎ナシ其軀寂然トシ
 ラ不動唯一ノ意志ナリ意力ナリ絶對的意志ナリ而シテ其絶對的意志ノ内ニ全世
 界万物トナルベキモノヲ包含ス又無始ノ軀ニシテ其軀中無始ノ昔ヨリ萬物萬有
 ノ理ヲ備ヘタルモノナリ如此寂然不動無始無終不生不滅絶對的意志ノ軀ガ自ラ
 ノ力ヲ以テ自ラ開キ此萬有世界發現セシモノニシテ意志其物ニ於テハ善惡ノ性
 質ヲ有セザリシモ自ラ其軀ヲ開發セシヨリ茲ニ善ノ元素生シ次テ惡モ出デタリ
 其善惡ヲ生シタル軀是ヲ父トシ生出セラレタルモノ是ヲ子トシ父子ノ間ニ精靈
 傳ハリテ三位ニ軀ト成レリ此三段ノ作用ニ依リ生命及活動ヲ起シ茲ニ又愛ト智
 トノ二作用起レリト云フボイメ氏ノ說ヲ要スルニ太初ノ一軀自ラ開イテ善ヲ生
 シ善ヨリ愛ト智ヲ出シコレヨリ萬物萬境ヲ生ズト云フ恰モ易ノ大極陰陽ヲ生シ
 陰陽万物ヲ生ズト云フニ同サク又佛教起信ノ一心二門ノ開發ノ次第ニ均シ

宗 教 哲 學

夫レ然リ然ラバ何ノ故ニ一ノ軀ヨリ二作用ヲ起セシヤ又善ノミニテ可ナルベキ
 ニ何故惡ヲ生ゼシヤ又精神ノミニテ可ナルベキニ何故肉軀ノ如キ者ヲ生ゼシヤ
 神果シテ不善不惡ニシテ無形ノモノナレバ善惡及有形ノ物ヲ生ズル理由ナキニ非
 ズヤ精神ト物質トハ反對ノモノナリ而シテ若シ精神ガ肉軀ニ執着スル時ハ惡ヲ起
 スニ至ルトセバ何ノ必要アリテカハル肉軀ヲ生ゼシヤ
 右等ノ問ニ附キテボイメ氏ノ考ヘニテハ神ハモト善惡ナキモノナルモ軀ノ開發
 スルニ當リテハ善惡并存テ現示セサルヘカラス而シテ其開發ノ目的トスルモノ
 ハ善及精神ニアリト雖モ精神ヲシテ精神ヲラシメシモノハ精神ニ反對スルモノナ
 カルベカラズ故ニ有形的萬物出デタリ例ヘバ精神ヲ起サントスル時ハ同時ニ愛
 ヒラルベキモノヲ要スルガ如ク故ニ畢竟物質アリ外界スルガ精神善ナリ愛ナリ
 テ成リ立タシメシモノガ爲メナリ是レ猶上下左右前後等兩々相對スル如ク自然ノ勢
 止ムヘカラスナルニ出テタルモノナリ
 以上ノ說之ヲ要スルニ神ハ無始無終ノ唯一ノ意志ニシテ其内ニ万有ヲ含有シ而シ
 テ何カ一ノ作用起ルト同時ニ其軀二分シソレヨリ漸次分レテ遂ニ此世界ヲ成セ

リト云フニテ、加之ボイメ氏ハ神ガ此世界ヲ作シ、ニアラズ又神ノ外ニ之ヲ作
 リシモノアルニ非ズ、神ガ開クテ此現象トナリタルモノナレバ、此世界即神ナリト
 説クヲ見レバ、所謂太極開發説并ニ真如開發説ニ近シト謂フベシ、此説後世ノ哲學
 者ライブニツツセーリソングシツペンハ、エール、ロッチ、諸氏ノ哲學ノ基礎トナリシハ疑
 ナシ、然リ而シテ此開發説タルヤ未ダボイメ氏ノ説明足ラサル所アルノミナラズ、
 東西洋共ニ古今ノ哲學者并ニ宗教者ノ其解釋ニ困ム處ナリ、即チ如此開發ニヨ
 リテ善惡ノ別アリ、吾入ハ惡ニ追ハレ爲ニ善ヲ修セザルベカテザルニ至リ、遂ニ惡
 ヲ去テ、善ヲ取り、再ヒ其元始ニ皈リテ又寂然不動ノ意志ニ復スルト云フト雖也、
 其開發スルニ當リテ、何故ニ善ヲ目的トスルヤ、又何ノ爲ニ斯ク開發スルヤ、一、度開
 發シタルモノガ何故ニ歸源セザルベカラザルヤ、疑問尙コ、ニ止マラス、彼ノ善ヲ
 爲サンガ爲メニ惡アリト云ハ、惡ヲ爲サン爲メニ善スリト云フモ可ナルベキニ
 何故善ノミヲ主トスルヤ、又進ンテ惡ニ歸スルモノトスルヲ許サズシテ、善ニノミ
 進ムニ至トスレバ何ノ必要アリテ惡ヲ置キシヤ、此等ノ難問ハボイメ氏ノ説明未
 だ充分ナラザル所ニシテ、又東洋ニアラズ、支那ノ性理論中善惡ノ起源ヲ論定シ

佛敎ノ起信論中無明ノ起源ヲ論定スルニ當リテ、學者同様ニ其解釋ニ苦ム所ナリ、
 當時伊太利ニアリテ宗教上哲學上理學上共ニ有名ナルハ、ブルノ、氏ナリ、此人ノ
 論當時ノ宗教家ニ容レラレズ、死罪ノ宣告ヲ受ケ、火刑ニ處セラレタリ、ボイメ氏ハ
 神學ト哲學トヲ混同シテ區別ヲ爲サ、ヨリシガ、ブルノ、氏ハ二者各別ニ説ケリ、ボ
 イメ氏ハ神秘敎ノ原因ニ基キテ、宗教哲學ヲ説キ、ブルノ、氏ハ全ク神秘敎ヨリ獨
 立シテ宗教哲學ヲ論シタリ、ブルノ、氏ノ考ニテハ、哲學ハ人智ノ範圍内ニ於テ知
 得スルヲ得ベキ世界万有ノ道理ヲ研究シ、宗教ハ理外ニ立テ人智ヲ以テ探原スベ
 カラザル不可知物ノ真理ヲ天啓神示等ノ事ニ由リテ知ルモノナリトセリ、氏ハ如
 斯論者ナリシモ、當時ノ宗教的獨斷論者ニ非ラザルヲ以テ世ニ排斥セラレ、ニ至
 リ、シモ亦是非ナシ、氏ガ神ト万物トノ關係ヲ説クヲ見ルニ、万有皆神敎ニ傾ケルモ
 ノ、如シ、氏ノ神ニ就キテノ解釋ハ、宗教哲學トシテ哲理上説ク處ノモノ、神ハ極メ
 テ單純ナル絶躰唯一ノ躰ニシテ、中ニハ一切ノ智力、一切ノ情欲、一切ノ勢力、其ノ他
 所有性質ヲ完備シ、而カモ其區別ヲ見ズ、諸般ノ道理、諸般ノ動作ノ最上位ニスリテ
 吾人ノ思想智力ノ及バザル處ニ位スル絶對唯一ノ躰ナリト定ム、而シテ此世界ト

如何ナル關係ヲ有スルカヲ説クニ至リテハ、プラトーン氏ノ理想論ヲ基トシテ立論セリ、即チ絕對ノ理想ト此世界トハ直接ニ關係スルモノニアラズトシテ、世界的精靈ナル媒介物ヲ其間ニ立テヨリ、又プラトーン氏ノ如ク理想ニ三種類ヲ分チテハ、天神の理想(其精神)ニハ世界的理想(世界的精靈)ニハ個人的理想(個人精神)トス、此天神の理想ハ寂然不動靜止ノ智情意ノ作用ヲ顯サズ、世界的理想ノ媒介ニヨリテ個人的理想ノ上ニ關係ヲ生スル者ナリ、故ニ萬有事々物々ノ變化スルモ世界ノ發達スルモ皆此世界的理想ノ作用ヲ受テトス、而シテ其三個ノ理想其第一ニシテ各異ナルニアラズトナス、所謂三位一體説ナリ、其理想論プラトーン氏ノ哲學ニ基テ以上ハ此三位一體説モプラトーン氏ニ始マルモノ、如シ、然ルニ遠ク古代ニ於テ印度ノ婆羅門教ハ此説ヲ立テタリ、即曰フプラトーンハ最上絕對中性ノ神ナリ、此プラトーンハプラトーンナル男性ノ神トナリ始メテ世界ヲ作ルト、而シテ此世界トプラトーン及プラトーンハ其第一ナリ、即三位一體ナリ、此ヲ以テ之ヲ觀レバプラトーン氏ハ印度ノ説ヲ傳ヘ、プラトーン氏復タ之ヲ承クシニアラザルカノ疑ナキ能ハズ、プラトーン氏又世界的精靈ヲ説キテ曰ク、此ノ精神ハ世界ノ中ヨリ事々物々生出シ及ヒ變化セシムル勢力ヲ有

シ、此世界ヲ形成スル規模ヲ包藏セリ、故ニ其既ニ開發スルヤ事々物々ノ變化アルト、共ニ入獸草木山河等判然トシテ亂レザルナリト、此説アリスト、トトル氏ノ形質論ニ似タリ、其論ニ曰ク物ヲ造クルモノハ質ナリ、物發達シテ其形ヲナスモノハ形ナリ、此形質結合シテ萬化ヲ現スト、プラトーン氏ノ世界的精神モ要スルニ此形質結合説ニ近シ、此他、プラトーン氏ガ天神の精靈ヲ論スルハ、佛教中唯識ニ於テ真如凝然トシテ諸法ヲ作ラズト云フモノ、如ク、其世界的精神ヲ説クハ第八阿賴耶識ノ如ク、之ニヨリテ世界ノ現出セルハ阿賴耶識ヨリ方法ヲ開示スル如ク、彼是其説ノ近似スルヲ見ル

尙又、プラトーン氏ノ説ニ據ル時ハ、此世界ハ神ノ反射トモ謂フベキモノナリ、只其働ノ上ヨリ見ル時ハ所働ト能働トノ別アリテ、先キニ述フル如ク三昧各其名ヲ異ニスト、雖モ其本昧ニ至ツテハ別ニ差別アルコトナシ、所謂三位一體ナリ、故ニ裡面ヨリ論ズル時ハ氏ノ説ハ萬有神教ナリト云フベシ

善惡ニ就キテ氏ハ如何ナル考テ有セシ歟ト云フニ、世界ノ事々物々ハ皆善且ツ美ナリ、然ルニ惡ナルモノハアルハ、此世界ノ全昧ト一部分トヲ差別スルヲ以テナリ、

即此世界ヨリ一部分ヲ限界シテ獨立スルモノトスレバ是レ即惡ナリ、例ヘバ彼ハ自己ノ爲ナリ、是ハ自己ノ利益ナリト思惟スルガ如キハ、即チ全體ノ世界ノ外ニ別ニ獨立シタル自己アリト想定スルモノナルヲ以テ惡ナリトス、若シ之ニ反シテ自己ハ世界全體ノ一部分ナリ、之ニ據リテ現立スルモノナリト信スルハ善ナリ、是ヲ以テ利己心ノ惡ニシテ愛利心ノ善ナルヲ知ルヘシ、然ラバ其惡ナルモノ何ノ必要アリテ存在スルヤト云フニ、凡ソ善惡ノ此世界ニ併存スルハ止ムヲ得ザルノ事ニシテ、若シ此世界善ノミトナルニ至ラバ、世界進歩ノ終極ニシテ、即世界其目的ヲ達シタルモノト謂フベシ、然レモ今ヤ世界ハ進歩ノ途中ニアルモノニシテ、其進歩スルハ惡ノ爲テ之ガ刺戟トナルヲ以テナリ、然ラバ惡ハ此世界ノ發達進歩ニ必要アリト謂フベシ、故ニ若シ此世界ノ目的ヲ達セントセバ自利我欲ノ如キ感情ノ制裁ヲ脱シ、更ニ其上ニ向ツテ進マザルベカラズ、而シテ下等ノ感情ヲ去テ高尚ノ理想ニ向テ進ムニハ、教育ノ力ニ頼ラザルベカラズ、且ツ其目的ハ單ニ五官ノ感覺上ヨリ起ル下等ノ情欲ヲ去ツルニ止ラズ、精神上天地萬物ノ美ヲ求メテ絶對的最上ノ善ニ向フハ固ヨリ吾人ノ目的ナリ、而シテ此精神上ノ善ヲ養成スルニハ教育ノ力

ノミニテハ、到底及ブ所ニ非ルヲ以テ神力ニ依頼セザルベカラズ、吾人ノ感情ヲ制裁スル所ノ意力即勇力ハ吾人ノ力ニアラズシテ天啓ニ依リ神力ニ頼リテ得ラル、モノナリ、故ニ吾人ハ一ニ智識ヲ進ムル教育ト、一ニ意力ヲ働カシムル神力ト此二者結合セザレバ其目的ヲ達シ難シトス、是レヲ氏ノ善惡ノ解釋トナス、以上アルノト氏ノ説之ヲ要スルニ萬有皆神教ニシテ、作用上三種ノ躰ヲ立テタルトモ、其實ハ一ナルノミ、其一本躰ハ内ニ合藏スルカヲ以テシ、之レヨリ開發シタルモノ此レヲ世界トス、而シテ此理ヲ道德上ニ恰當セシメ、此世界万物ノ全體即チ神ナレバ其神ヨリ離ル、時ハ惡トナリ、神ト伴フ時ハ善トナルトセリ、畢竟ホイメ氏ノ秘密説ヲ今一段進歩セシメシモノニシテアルノト氏ハ神秘教ノ主義ヲ離レテ普通ノ智識道理上ヨリ宗教ヲ説キタルナリ、然レドモ氏ガ神ハ萬物ニ普偏スルモノニシテ萬物盡ク善ナリト云ヒ、又惡ハ萬有ノ一部分ニ向ツテ迷執スルニヨルト云ヒシ如キハ、猶ホ獨斷的ニ想定シ去リテ、未タ哲學上ニ一組織ヲ構成シタリト云フベカラズ、故ニ一種ノ宗教哲學トシテ一家ヲ開キタルハ、後シスヒノザ氏ヲ待タザルベカラザルナリ、

宗教哲學本編

(三四)

スピノザ氏ノ前ニ當リテ、カント氏物心二元論ヲ唱ヘシト雖モ、其關係ニ至リテハ充分ノ解釋ヲ盡サズシテ、遂ニ神ヲ想定セリ、而シテ其神ハ如何ナルモノナリヤノ解釋ニ至リテハ未タ哲學上ノ説明ヲ與ヘザリシガ、スピノザ氏ハ進ンテ之ヲ試ミ、是レ學者ガ大抵スピノザ氏ヲ以テ宗教哲學ノ祖トスル所以ナリ、

スピノザ氏宗教哲學

(スピノザ氏小傳、スピノザ氏ハ和蘭ニ生レナムステルダム府ニ住ス、其父祖猶太人種ニ屬スルヲ以テ、氏モ猶太教ノ神學ヲ講究セシガ、其見解ノ異ナル所アルガ爲メ、遂ニ破門セラレ、ニ至リ、轉シテ耶蘇教ニ入り、復タ神學ヲ研究シ、大ニカント氏及ブルノイ氏ノ說ヲ愛セリ、氏ハ一方ニアリテハ、哲學者ニシテ、又一方ニアリテハ、神學者ナリ、而シテ時ノ政治并ニ宗教ヲ改良セン事ヲ希望シ、政教論ヲ著セリ、然レモ其持論、當世ニ容レラレズシテ、其志ヲ得ズ、晩年遂ニ肺病ニ罹リ、テ遂ニ死ス、近世ノ宗教哲學ハ三大段ニ分レタリ、即チ左ノ如シ、
第一段 批判的宗教哲學

第二段 直覺的宗教哲學

第三段 理想的宗教哲學

批判的宗教哲學 批判的宗教哲學ハスピノザ氏ニ始マリ、カント氏ニ終ル、スピノザ氏ノ當時世間政治并ニ宗教ノ壓制ヲ受ケタリ、スピノザ氏思想ノ自由ヲ唱導シ、大ニ之ヲ改良セントセリ、氏ハ政治ノ改良、宗教ノ擴張ハ思想ノ自由ニ關スルヲ以テ、自由思想ニヨリテ、其道理ヲ論究セザルベカラズトセリ、故ニ千六百七十年ニ於テ政教論ナル一書ヲ著ハシ、世ニ公ニセリ、氏ノ考ニテハ、宗教ト哲學トハ其範圍ノ異ホレモノニシテ、宗教ハ哲學ノ附屬物ニアラス、哲學ハ宗教ノ附屬物ニアラス、哲學ノ目的ハ真理ニアリ、真理ハ道德上高有事物及其事物トノ關係、神及其神ト高有事物ノ關係ヲ說クニアリ、宗教并ニ神學上ノ目的ハ信順ニアリ、實際上神ヲ遵奉シ、道德善行仁心ヲ養成スルニアリ、換言スレバ、宗教并ニ神學ハ經典ノ事、基督ノ事、摩西ノ事、其他天啓ニ關スル事ヲ信念スルヲ目的トシ、哲學ハ此等諸般ノ事、皆理論上ニ推究シ、論理上ニ討尋スルヲ目的トス、故ニ宗教ト哲學トハ其考定スル所往々反對スル所アルナリ、然レモ道德上ノ目的ニ至リテハ兩者同一ノ點ニ歸着

(三五)

スルモノニシテ、宗教上ヨリスルモ哲學上ヨリスルモ異ナル事ナシト論シタリ、
 如斯ナルヲ以テ神學上ニ於テハ、經典中ニ神ガ世界ヲ創造セリ、或ハ神ガ万有ヲ作
 リタリ等ノ事アルモ、單ニ此事ヲ信ゼザルベカラズ、之ヲ信ズル時ハ即神ヲ信仰遵
 奉シタルモノニシテ、天惠ヲ受クルヲ得ルナリ、若シ之ヲ疑ヒ、疑フテ研究スレバ是
 レ神學ニアラズシテ哲學ナリ、斯ク宗教ト哲學トハ其區域ヲ異ニスルヲ以テ、哲學
 上如何ナル事ヲ研究スルモ、宗教上ニ少シモ障害ヲ與ヘザルナリ、即神ハ何處ニア
 リヤ、天地万有ハ果シテ神ノ働キナリヤ、若シ神ノ働キトセバ其神ハ如何ナルモノ
 ナリヤ、或ハ未來ニ於ケル賞罰ハ果シテ神ガ宰ドルモノナリヤ等ハ、哲學上ノ問
 題ニシテ智力上ノ作用ニ屬スルモノナリトシ、以テ宗教ト哲學ト其範圍ヲ分チ且
 ツ兩者ノ研究互ニ障害ヲ及ボササルモノナリトセリ、氏曰ク經典ハ無學無智ヲ罰
 セズシテ不信不順ヲ罰スト、又曰ク人ノ順不順ハ其說ノ眞偽ニヨリテ判定スベカ
 ラスト、又曰ク確實ナル議論ヲ抱ク人必ズシモ確實ナル信者ニアラズト、其言皆宗
 教ト哲學ト異ナリト云フノ意ヲ含マザルナシ、畢竟氏ノ如此說ヲナセシハ世間ニ
 於テ哲學ヲ以テ宗教ヲ講究セントスルモノ之ヲ非難シ攻擧スルモノアルニ由リ豫

メ之ヲ防ガントシ、哲學上ノ議論ハ宗教上ニ關セズ、宗教上ノ信仰ハ哲學上ニ之ヲ
 批難スヘカラズト論シ、以テ世ノ批評ヲ拒ギシモノナランカ、
 スピノザ氏ハ上陳ノ如ク、宗教ノ實際ニアリテハ神ニ信順シテ說ノ可否ヲ正スニ
 及バズ、理論ニアリテハ眞理ニ適スルヤ否ヤヲ正スモノナレバ、實際ト理論トハ一
 致セズ、又神ヲ信ズルト信ゼザルトハ實際上ニ關スル故ニ理論ニ長ズルト否トニ
 ヨリテ判スベキニアラズ、故ニ哲學上宗教ヲ論究スル時ニ於テハ信ト不信トヲ問
 ハズ、自由ニ研究シテ可ナリ、若シ實際ニ當ルニ於テハ道理ノ有無ニ拘ハラズ之ヲ
 遵奉スベシ、古ヘノモセスガ神ヨリ受ケシト云フ十戒ノ如キ、理論上到底之ヲ信ズ
 ル事能ハズ、然レドモ實際上之ヲ信ズルニ於テハ只其命ニ從順スベキノミ、何トナ
 レバモセスアラハムノ如キ豫言者出テ、神命ヲ受ケシト云フモ、是其人ノ道理
 力智力ニヨリテ然ルニアラズシテ、只其人ノ直覺作用ニヨリ感情ニヨリテ然ルモ
 ノナレバナリ、又其豫言者ナルモノハ智識ノ多少ニ由リテ豫言者トシテ尊ブニア
 ラズ、畢竟豫言者ト吾人トノ區別ハ道德上ノ性質ト并ニ感情トニ由リテ爲スノミ
 決シテ智力上ニ區別アリトスベカラズ、豫言者ノ如キハ想像力ニ富ムモ道理力ニ

宗 教 哲 學

富マズ、學者哲學者ハ道理力ニ長ズレモ想像力信仰力ニ乏シ、而シテ此豫言者ハ想像上神ヲ現出シ、之ヲ人情風俗ノ上ニ持チ來リテ有形上ニ畫出セルモノナリ、故ニ學者トシテ是レヲ考フル時ハ到底信ヲ置ク事能ハザルナリ、換言スレバ豫言者ハ宗教上ノ感情ニ強キモ智力ニ乏シ、故ニ自己ノ智力ヲ以テ實際ニ當テ籍ムル時ハ學者ノ眼ヨリ見テ信ズル能ハザルモノ多ク、甚シキニ至リテハ抱腹絶倒セシムル事モアリ、是レ學者ト宗教者ノ異ナル所ナリ、若シ哲學者トシテ出テタル時ハ片言寸事ノ豫言者ヲ信ズベキ必用ナシ、何トナレバ苟クモ哲學者ナル者ハ豫言者ヨリ先キニ智力ノ數歩ヲ加ハタルモノナレバナリ、然レモ其品行嚴正ニ道德端肅等ノ實際ニ至リテハ、哲學者ノ理論家モ豫言者ノ實行家モ共ニ一致セザルベカラズトス、如此理論ト實際ノ各別ヲ説キ、只道德品行上ノ實際ニ於テノミ、學者モ豫言者モ一致セザルベカラズト説キタルハ、即スピノザ氏ガ宗教上ノ考ナリ、

此レヨリ尙スピノザ氏ガ宗教ニ附テノ解釋ヲ述ベノニ、先ヅ人ガ宗教ヲ信ツ之ガ支配ヲ受ケテ道德品行ヲ正サシ爲メニハ、神律ニ服從セザルベカラズト云ヘリ、氏ノ言フ所ノ此神律トハ如何ナルモノナルカ之ヲ理論上ニ論究セバ如何ナルモノ

宗 教 哲 學

ナリヤト云フニ、氏ノ著述ニ係ル處ノ政教論トモ云フベキ書ノ第四篇ニ於テ此事ヲ説ケリ、其考定スル所ニ據レバ、神律ハ最上ノ善即チ神ノ眞智眞愛ヲ其單一ノ目的トスル者ナリト云フ、而シテ其律ハ一國一民ニ限ルニアラズシテ、人間一般ニ適用スルモノナリ、氏又曰ク最上ノ善ハ最上ノ智識中ニ成立スベキヲ以テ、吾人ノ智モ善モ此神ノ善ト智トニ屬スルモノナリト、氏ガ此考ハ善ト智識トハ離レタルモノニアラズシテ、善ハ智識ニ依リテ成リ立ツモノトシタルガ如シ、氏ハ如此神律ヲ解釋シテ人民一般ノ説ト大ニ其解釋ヲ異ニセリ、一般ノ解釋ニアリテハ古來ノ傳説聖經等ニ據リテ之ヲ眞トシ以テ神ヲ信ゼシモ、氏ハ智識ニヨリテ神ノ德ヲ知ルモノトシ、而シテ智識ハ吾人ノ思想作用ニ依リテ成リ立ツモノナレバ、神ノ德并ニ神ノ性質ハ天啓ニ依ラズ智識上道理上ニテ研究セザルベカラズトナセルハ、氏ハ哲學上宗教ヲ論究スル旨趣ナリ、從來一般ニ神ヲ以テ自然外ノ理即理外ノ理トシタリシガ、スピノザ氏ハ之ヲ道理以內ノモノトシ、人間ガ此自然ノ上ニ於テ智識ヲ得、其智識ヲ以テ神ノ性質ヲ研究スルヲ得ルモノトセシハ、是レ氏ノ宗教哲學ヲ獨立セシメタル所以ナリ、又神ハ智ト意ト相別レタルモノニアラズ、合一シテ作用ヲナス

モノナレハ、神ト此世界ノ關係上ヨリ相別レタル如ク現ハレタルモノナリ、神律ハ即此智モ意モ共ニ一體トナレル神ノ本體ノ恒久不變ノ眞理ノ外ニ別ニ存スルモノニアラサレハ、世界ノ事物并ニ人間ノ間ニ現存スルモノナリ、故ニ世界万有人間及神ハ決シテ相離レタルモノニ非ザルナリ、今神ノ躰ヨリ現ハレタル神ノ規律ハ、世界ト人間トノ間ニ普及スルト云フ以上ハ、是レ神ノ規律ハ天地萬有ノ規律ナリト謂フベシ、是ニ至リテ神律ノ解釋ハ自然即天地萬有ノ理ト一致スルモノニシテ、世間一般ニ解釋スル所ノ神律ト異ナル所以ナリ、

今夫レ一般ノ通俗說ニ神ヲ理外ト立テタルハ、神ハ此世界ノ外ニアリト認識スルニヨレリ、然ルニスピノザ氏ハ神モ世界モ同一ナリ、天地萬有ノ間ノ必然或ハ肝要ト稱スルモノハ、即チ神ノ規律ナリ、若シ神ニシテ自然律ニ反スルアレバ、是レ全ク神ノ性質ニ反シタルモノナリ、又々若シ神ガ萬有ノ間ニ現ハル、モノナレバ、是レ自然ノ道理ト同クシテ、決シテ理外ノモノニ非ズ、然ルニ世人ガ神ハ自然ノ規律ヲ左右スルヲ得ルト思フハ、全ク自然ノ規律ノ何物タルヲ知ラザルニ坐スルノミト云ヘリ、上述ノ如キ解釋ヲ施シ自然ノ規律ト神律ト一致セシメシハ是從來ノ

宗教家ノ說ヲ一變セシメシ所ニシテ、又スピノザ氏ノ功績顯著ナル所ナリ、夫レ神ハ萬有事物ノ外部ノ原因ニアラズ、内部ノ原因ナリ、其作用ハ隨意ノ取捨ニ出デズシテ、自然ノ間ニ必然ノ理ニヨリテ顯ハル、モノナリ、蓋シ事物ニ原因結果ノ必然ノ關係存在スルハ、其規則ガ神ノ規律ニ基キテ成リ立テルヲ以テナリ、是レ即チスピノザ氏宗教哲學ノ原理ニシテ從來ノ神秘教或ハ耶蘇教等一般ノ解釋ト異ナル所ナリ、一般ノ說ニアリテハ神ハ事物ノ外部ニアリテ外部ヨリ働キテ與フルモノトシ、スピノザ氏ハ原因結果ノ規則ニ從テ事物ノ變化スルハ、事物ノ内部ヨリ其勢力ノ發スルモノトセリ、此事ハ尙後ニ至リテ詳述スル所アルベシ、

以上說ク所ハスピノザ氏ガ宗教哲學ヲ說クニ至レルノ順序即チ宗教哲學ハ曾テ一個ノ哲學トシテ解釋スルモノナカリシニ、スピノザ氏其途ヲ開キシ須序ヲ説明セシモノナリ、今又茲ニ宗教哲學上スピノザ氏ノ前後ニ於ケル思想ヲ比較スルノ必要アルヲ以テ、先ゾ氏ノ哲學上ノ所說トデカールト氏所說トノ差異點ヲ指示シ次ニアルノト并ニエツカールト氏所說トノ差異點ヲ舉示スベシ

抑モデカールト氏ガ神ヲ立テタルハ物心二元論ヲ唱ヘシニ因ルモノニシテ、物心兩

宗 教 哲 學

存シ、而カモ相反對シタル性質ヲ備ヘタリトセシニ、其性質ノ反對シタルモノガ如何シテ結合シ、如何シテ相關係スルカ、是ヲ説クニ如何セバ可ナランカト言フニ至リテ、其相結合シ互ニ契合シテ作用ヲ爲スハ神ノ力ニ因ルトシ、遂ニ神ヲ借リテ物心相關ノ理由ヲ附シタリ、而シテ此神ハ一種格段ノ性質ヲ具フル神ニシテ、物心二者ノ外ニ成立シ、以テ二者ノ上ニ働クヲ説キタリ、然ルニ未ダ其神ト物心トノ關係トニ就キ解釋ノ明瞭ナラザルヨリ、其弟子キユーラン及マレアラシシ諸氏之ヲ説キ明カサントセリ、キユーラン氏ノ考フル所ヲ見ルニ、凡ソ吾人が外物ヲ視ルハ神ガ物心ヲ結合スルニヨル、吾人が思考スルニ方リテ其思考スル所ノ對當ノ物件ノ規ハル、ハ神ノ作用ニヨリ始メヨリ神ガ物心二者ノ契合ヲ計リタリシテ以テ、二者相關係シ互ニ契合スルナリト言ヒ、其師説ヲシテ一層強ク一層詳カニナラシメタリ、而シテマレアラシシ氏ハ尙此レニ満足セス、神ガ其働キヲ物心ノ上ニ與フルハ勿論世界盡ク神ノ内ニアリテ現見シ、我人亦神ノ内ニアリテ動作シ思考スルナリト云ヘリ、是ニ至リテアカルト氏ノ説ハ其極端ニ違セリ、此レニ反對セシモノハ即チスピノザ氏ナリ、氏ノ考ハ神ガ物心二者ノ外ニアリテ一ノ成立ヲ有スルモノナルヲ疑ヒ、論究ノ結果此世界ノ本體即チ神ナリ、物心ノ本質即チ神ナリト云フニ至ル、是ヲスピノザ氏ノ本質ニ歸論ト稱ス、是ニ於テアカルト氏ノ神トスピノザ氏ノ神トハ大ニ異ナレリ、スピノザ氏ノ神ハ物心ノ内ニアリ、アカルト氏ノ神ハ物心ノ外ニアリ、一ハ外ヨリ内ニ働キテ與フルモノ、一ハ内ヨリ外ニ發動スルモノトス、而シテ其物心ノ本體ハ絕對無限唯一ノ體ナリトスルモノ即チ所謂本質ナリ、然ラバ物心二者ハ本質ニ對シテ如何ナル關係ヲ有スルカト云フニ、コレ本質ニ屬シタル附屬性ナリ、換言スレバ神ハ絕對無限ナリ、而シテ物ト心トノ二種ノ屬性ヲ以テ吾人ノ考ニ現ハル、モノナリト云フ、果シテ然ラバ何故無限ノ神ガ二種ノ屬性ノミナリヤ、若シ僅カニ二種ノ屬性ノミトスレバ神ハ無限ニ非ズシテ有限ノモノナルニ非ズヤト云フニ對シ、曰ク物ト心トハ屬性中ノ二種ノミ、物心ノ外無量無限ノ屬性アリト雖也、其吾人ノ知識思想ノ中ニ顯ハル、モノハ物心二者ノミ、故ニ吾人ハ唯此二ヲ知リテ他ヲ知ラザルナリト、如此物心二屬性ノ吾人ノ思想上ニ顯ハレタルヲ説ケリ、而シテ其物心二者ノ性質ハ如何ト云フニ至リテハ全く相異ナルモノトシテ區別セリ、而カモ全く獨立シタルニアラスシテ神ニ附屬シ、附屬シ

宗 教 哲 學

存シ、而カモ相反對シタル性質ヲ備ヘタリトセシニ、其性質ノ反對シタルモノガ如何シテ結合シ、如何シテ相關係スルカ、是ヲ説クニ如何セバ可ナランカト言フニ至リテ、其相結合シ互ニ契合シテ作用ヲ爲スハ神ノ力ニ因ルトシ、遂ニ神ヲ借リテ物心相關ノ理由ヲ附シタリ、而シテ此神ハ一種格段ノ性質ヲ具フル神ニシテ、物心二者ノ外ニ成立シ、以テ二者ノ上ニ働クヲ説キタリ、然ルニ未ダ其神ト物心トノ關係トニ就キ解釋ノ明瞭ナラザルヨリ、其弟子キユーラン及マレアラシシ諸氏之ヲ説キ明カサントセリ、キユーラン氏ノ考フル所ヲ見ルニ、凡ソ吾人が外物ヲ視ルハ神ガ物心ヲ結合スルニヨル、吾人が思考スルニ方リテ其思考スル所ノ對當ノ物件ノ規ハル、ハ神ノ作用ニヨリ始メヨリ神ガ物心二者ノ契合ヲ計リタリシテ以テ、二者相關係シ互ニ契合スルナリト言ヒ、其師説ヲシテ一層強ク一層詳カニナラシメタリ、而シテマレアラシシ氏ハ尙此レニ満足セス、神ガ其働キヲ物心ノ上ニ與フルハ勿論世界盡ク神ノ内ニアリテ現見シ、我人亦神ノ内ニアリテ動作シ思考スルナリト云ヘリ、是ニ至リテアカルト氏ノ説ハ其極端ニ違セリ、此レニ反對セシモノハ即チスピノザ氏ナリ、氏ノ考ハ神ガ物心二者ノ外ニアリテ一ノ成立ヲ有スルモノナルヲ疑ヒ、論究ノ結果此世界ノ本體即チ神ナリ、物心ノ本質即チ神ナリト云フニ至ル、是ヲスピノザ氏ノ本質ニ歸論ト稱ス、是ニ於テアカルト氏ノ神トスピノザ氏ノ神トハ大ニ異ナレリ、スピノザ氏ノ神ハ物心ノ内ニアリ、アカルト氏ノ神ハ物心ノ外ニアリ、一ハ外ヨリ内ニ働キテ與フルモノ、一ハ内ヨリ外ニ發動スルモノトス、而シテ其物心ノ本體ハ絕對無限唯一ノ體ナリトスルモノ即チ所謂本質ナリ、然ラバ物心二者ハ本質ニ對シテ如何ナル關係ヲ有スルカト云フニ、コレ本質ニ屬シタル附屬性ナリ、換言スレバ神ハ絕對無限ナリ、而シテ物ト心トノ二種ノ屬性ヲ以テ吾人ノ考ニ現ハル、モノナリト云フ、果シテ然ラバ何故無限ノ神ガ二種ノ屬性ノミナリヤ、若シ僅カニ二種ノ屬性ノミトスレバ神ハ無限ニ非ズシテ有限ノモノナルニ非ズヤト云フニ對シ、曰ク物ト心トハ屬性中ノ二種ノミ、物心ノ外無量無限ノ屬性アリト雖也、其吾人ノ知識思想ノ中ニ顯ハル、モノハ物心二者ノミ、故ニ吾人ハ唯此二ヲ知リテ他ヲ知ラザルナリト、如此物心二屬性ノ吾人ノ思想上ニ顯ハレタルヲ説ケリ、而シテ其物心二者ノ性質ハ如何ト云フニ至リテハ全く相異ナルモノトシテ區別セリ、而カモ全く獨立シタルニアラスシテ神ニ附屬シ、附屬シ

ナガラ二者其性質ヲ異ニセリト云ヒ以テ其區別ヲ立テタリ、然ルニ何故其反對シタル物心二者が能ク契合スルヤ、已ニ反對シタルモノナラバ契合スル等ナキニ非スヤト云フニ至リテ茲ニ神ヲ立テタルハ即チデカールト氏ナリ、相反スル二者互ニ成立スルヲ得ルモノニシテ譬ヘバ木葉ノ形ト色ト互ニ異性質ニテアリナガラ一木葉上ニ成立ツト、同マク物心二者相異ナリト雖モ、本質一躰上二者互ニ契合兩立スルモノトスルハスピノザ氏ナリ、而シテスピノザ氏ハ此二屬性中種々無量ノ物ヲ合ムトシ之ヲ解シテ、モードト云ヘリ、之ヲ譯スレハ佛教中ノ万法ノ義ナリ、此万法ト本質トノ關係ハ恰モ波ノ海水ニ於ケルガ如ク、水ナル本質ガ種々ノ波ナル万法トナリ現ハレテ、物心二者ノ上ニ万有萬境ノ形象ヲ示スモノナリトス、此説明ニヨリテ見ル時ハデカールト氏ノ二元論ナルニ反シテスピノザ氏ハ一元論ナリトス、之ヲ要スルニスピノザ氏ハ其哲學ヲ組織スル規模并ニ論究法ハデカールト氏ニ取レリ、其故ハ神心物ノ三段ヲ立テ其關係ヲ説キタルモ、又數學上ノ考ヘヨリ思想ノ上ニ定メタル原理ヲ事々物々ノ上ニ適合セシメントシタル所謂演繹論法モ二ツナガラデカールト氏ト同一ナレバナリ、然レモ其哲學ノ規模ヲ充タス所ノ實材料

ハ却テデカールト氏ニ據ラズシテ、ブルノイ氏ニ據レリ、加之猶太教ノ宗教哲學及ヒ神秘教説ヲモ幾分カ取ル所アル者ノ如シ、即ブルノイ氏ハ萬有神教ヲ説キスピノザ氏亦然リ、然レモ又互ニ異説アリ、ブルノイ氏ハプラトロー氏ヲ繼承シテ神ト世界トノ關係ニ三種ノ理想ヲ立テ、結極其三種ノ躰即一ナリトシ、此一躰ノ上ヨリ觀レバ万有差別ナクシテ一理平等ナリトス、然ルニスピノザ氏ハ万有神教ヲ立テナガラ物心二者平等ニ非ズトシ、飽クマテ其區別ヲ保チテ神ノ屬性ナリトセリ、之レ其二氏異ナルノ一點ナリ、次ニ尙其兩氏ノ異ナル要點ハブルノイ氏ハ一方ニ於テハプラトロー氏ヲ取リシガ、一方ニ於テハアリストトール氏ノ形質論ヲ取レリ、此論曩キニ既ニ略述セシ如ク、物ニハ形ト質トアリテ、質ノ變化スルハ豫メ定リタル形アリテ之ヲ充タサノガ爲ナリト云フニアリ、ブルノイ氏此論ヲ取リテ世界ノ上ニ考ヘ世界ノ万物ニハ一定ノ目的アリテ之ニ向ツテ進行スルモノナリトセリ、之ヲ目的論ト云フ、例ヘバ大工ガ家ヲ建ツルニ豫メ其構造法ヲ圖ニ製シテ一定ノ規模ヲ立テ、此レニ則トリテ工ヲ起スガ如ク、此世界ハ神ガ目的ヲ定メ圖取リテナセシモノニシテ、万物ノ變化ハ其神ノ豫期セシ形ヲ取ルモノナリト云フ、近世ノ始メニ

於ケル彼ノコバニカスガリレオガッセルニョート等ノ諸氏亦多少如斯考
 テ抱ケリ、然ルニスピノザ氏ハ全ク之ニ反對シ、世界ハ決シテ最初ヨリ一定ノ目的
 アルニアラズ、物心ニハ物心其者ノ規則アリテ之ニ從テ進ミ、万物亦因果ノ規律
 アリ、之ニ從テ變化ヲ生ズルモノナリト云フ、此因果論ハ今日學術上ノ根底トナ
 レルモノニシテ、之ヲ近世哲學上ニ説キシハ實ニスピノザ氏ナリトス、其目的論ヲ
 打破シテ因果論ヲ立テタルハ千古ノ卓見ト謂フベシ、
 スピノザ氏論ヲテ曰ク、世界ハ神ノ圖取ニ依テ其形ヲ取ルト云フ所ノ目的論ハ
 即宗教上ニ謬誤ヲ傳フル原因トナレリ、世人之ヲ信ズルニ由テ因果ノ關係ヲ知ラ
 ズ、因果ノ關係ヲ知ラザルニ由リテ、唯神ニ依憑シ神ニ阿諛シテ幸福ヲ得シトスル
 ノ考ヲ生ズルニ至ル、加之天災地變其他ノ不幸ヲ以テ人間ノ惡ナルニ因ルトナシ、
 只管神ニ追從シ神ノ寵愛ヲ得レバ、茲ニ神ノ良導ヲ受ケテ、カ、ハル災害ヲ免ル、モ
 ノナリトノ妄信ニ陥イルナリ、甚ダジキニ至リテハ人間ガ若シ神ノ喜悅ヲ買ハザ
 ルニ於テハ、神ハ人間ノ到底避クベカラザル害毒ヲ被ラシムル事アリト思惟スル
 モノアリ、然ルニ若シ因果ノ理法ヲ知ラバ如斯迷夢ヲ醒シ、目的論ヨリ來ル所ノ妄

信ハ直チニ消散スルヲ得ベシト、此レスピノザ氏ガ當時ノ宗教及ヒ學說ノ上ニ卓
 立セシ所以ナリ、

因ニ云フ今日我國ニ行ハル、迷信的占筮觀理開運術ノ如キハ全ク此因果必然
 ノ理法ヲ知ラザルニ由リテ行ハル、ナリ、若シ此理法ヲ知ラバ一般ノ妄信ヲ破
 リ、妄信ニ依テ徒消スル幾多ノ金錢ヲ以テ有益ノ資ニ充ツルヲ得ベシ、其一般人
 智ノ未ダ此處ニ至ラザルコト是非ナク、

上來段ヲ重テスピノザ氏ガ宗教哲學ヲ説クニ至リシ順序、並ビニ他説トノ比較
 ヲ陳述セリ、是レヨリ氏ガ宗教哲學ノ本論ニ入ラントス、

スピノザ氏ノ宗教哲學本論

スピノザ氏先ヅ神ノ義解ヲ下シテ曰ク、神ハ絕對無限ノ神ナリ、其絕對無限ノ神ハ
 萬有事物ノ眞性質ヲナリ、之ヲ本質ト稱ス、故ニ神ハ即本質ナリ、其神又無限ノ屬性
 ヲ有ス、而シテ其絕對無限ノ神神ハ現實ニ存在スルナリ、今之ヲ證センニ神神ハ絕對
 無限ニシテ、亦絕對無限ノ力ヲ備ヘタリ、然ルニ若シ現實ニ存在スル能ハズトセバ、
 之レ無限ノ力ヲ備フト云フヲ得ザルナリ、何トナレバ茲ニ有限ノモノ、例ヘバ人身

宗 教 哲 學

家屋ノ如キモノアラソニ其物質ニ現存スルニ非ズヤ有限物スラスクノ如シ况ソ
 ヤ無限物ニシテ現存セザルノ理アラソヤ若シ絶對無限ノ物質在セズト云ハヤ相
 對有限ノ物亦現存セザルハ勿論ナリ若シ此世界ニ現存スルモノ一モナシトモソ
 カ尙可ナリ若シ現存スルモノアリトモソカ必ズ先ヅ無限物ヲ數ヘザルベカラズ
 サレバ世界一切ノ事物一モ現存セザルカ或ハ無限ノモノ現存スルカ何レカ其一
 ニ居ラザルベカラズ然ルニ世界ノモノ皆現ニ存在セリ豈無限物ノ現存スルナカ
 ラゾヤ此現存ハ必然ニシテ打破ス可ラザル理ナリト又曰ク神ハ無限ノ力ヲ備フ
 ルモノナルヲ以テ其現存スルニハ現存スル所以ノ力ヲ有セザルベカラズ即チ神
 ハ無限絶對ノ力ヲ以テ現存スル所謂無限絶對ノ躰ナリト又曰ク物ニシテ現存ス
 ルコ能ハザレバ完全ト云フヲ得ズ完全ナレハ必ズ現存スベシ今神ハ完全ナリ故
 ニ必ズ現存セザルヲ得ズト此論法ノ推理ハ確實ナルモ其前ニ臆定セル論案ハ確
 實ナラサルハ論ヲ待タズシテ知ルベキナリスピノザ氏ハ數學上ノ考ヨリテカ
 ト氏ニ同シク演繹論法ヲ用イタリ數學的論法ハ實ニ確實ナルモノナレバ其運用
 ノ如何ニヨリテ不完全トナル即チ此論法ハ吾ガ思想中ニ臆定セル一眞理ヲ基礎

宗 教 哲 學

トシ之ヲ外界ノ事物ニ當テ箝メ以テ如此ト斷定スルナリ例セバ一部分ハ全躰ヨ
 リ少ナシトハ數學上ノ原理原則ニシテ我輩決シテ其道理ヲ疑フコト能ハス實ニ思
 想上明瞭ナル眞理ナレハ之ヲ原則トシテ諸規則ノ眞偽ヲ判定スルコトヲ得ルモ一
 切ノ事柄皆此ノ如ク思想上ニ明瞭ナルヲ以テ現存上確實ナリト斷言スルヲ得ズ
 若シ此ノ如ク想定スルレハ是レ獨斷的ニ傾クモノナリ何トナレバ其思想中ニ定
 メタルモノハ眞理ト斷シテ何故ニ其眞理ナルヤテ疑ハザレバナリ蓋シテカ
 氏が己ノ思想ニ明瞭ナル者ハ實際ニモ亦確實ナリト獨斷的ニ思考セシ論理法ヲ
 承クテスピノザ氏モ神ハ無限ノモノト始メニ斷定シ故ニ神ハ現存スト云フ而シ
 テ何故ニ神ハ無限ノモノナルカヲ疑ハズ亦更ニ其證明ヲ與ヘサルナリ故ニ其考
 ハ今日ヨリ見レバ決シテ論理上正シキモノニ非ザルナリスピノザ氏又曰ク絶對
 無限ノ躰ハ一ツヨリ多カルベカラズ故ニ此世界ニ神躰ヲ離レテ別ニ物アリト云
 フヲ得ズ一切万物悉ク絶對ノ躰中ニアリ若シ此外ニアリトセバ絶對ノ躰ノ外ニ
 別ニ一物アリトセザルヲ得ズ然ルレハ絶對ニアラス此理ヨリススピノザ氏ハ推演
 シテ神ハ外部ニアラスシテ内部ニアリト云フ神ハ外ニアリテ世界ニ働クトセバ

神ト世界トハ二物ナリ、然レドモ神ノ外ニ世界ナク、絶對ノ外ニ物ナキヲ以テ、内部ニアリテ外部ニアルモノニ非ズト論定セリ、スピノザ氏又自由意志論ヲ説破シテ曰ク、神ハ自由意志ヲ有シ、右セント欲シテ右シ、左セント欲シテ左シ、其意志自由ニ發動シテ自由ニ動作スト信ズト雖モ、神ハ決シテ如斯モノニアラズ、神ノ作用ハ因果ノ原則ニ依リ必然ノ理法ニ從フテ顯ハル、モノナリト以テ從來ノ自由意志論ヲ變テ必然論トセリ、併シナガラ氏必ズシモ神ノ自由ヲ説カザルニアラズ、世人ノ一般ニ自由ト云フハ神ガ勝手ニ規則ヲ左右シ理法ヲ變易シ、其欲スル儘ニ外部ヨリ作用スルト云フモノナレドモ、スピノザ氏ノ稱スル自由ハ之ニ異ナリ、神ハ決シテ外ヨリ壓制ヲ受ケズ、神外ニ万物ナキヲ以テ、神ガ外部ヨリ壓制セラレ、事ナシ、即神ハ自己ノ内部ノ力ニテ活動セリ、自體固有ノ性質規則ニ從ヒ運動シ作用セリ、故ニ神ハ自由ナリト云フナリ、即チ神ハ如何ナル動作、如何ナル變化ヲ万物ノ上ニ爲スモ、皆自體固有ノ因果ノ規則ニ依リテ然ルモノニシテ、恰モ三角形ノ内角ノ總和ハ二直角ニ等シト云フ幾何學上ノ定義ハ、三角形固有ノ規則ニシテ、其三角形ガ如何ニ變化スルモ苟クモ三角形タル以上ハ此規則ニ依ラザルヲナキト、一般ナリ、

神ハ完全ト云フハ何處マデモ因果ノ軌道ヲ外レズ、無始ヨリ無終ニ唯ダ一ノ必然ノ理法ヲ以テ其作用ヲ一貫スル故ナリ、然ルニ一般ノ人ノ考ノ如キハ神ハ人間ノ如ク左右前後是非善惡皆自己ノ意志ニ任セテ發作スルモノトシ、只神ハ人間ヨリ其意志ノ數層優等ニ位スルノミト考ヘ、人間ヨリ推シテ神ノ性質作用ニ論究スルハ大ナル誤リナリ、若シ斯クノ如ク人間ニ智アリ意アリ、神ニモ智アリ意アリ、人間モ神モ其性質異ナルナシト云フ、是レ恰モ星宿ニドグト名クルモノアルヲ以テ獸類ノドグト其實異ナルナシト想像スルニ同シキモノナリト云ヒ、大ニ世人ノ自由意志論ヲ排斥セリ、

凡ソ智ト云ヒ意ト云フモノ神ノ本質ニアラズ、本質自體ハ智ト意トテ離レタルモノニシテ、智ト意トハ神ノ屬性ナリ、又物質ノ動靜モ神ノ屬性ナリ、本性ヨリ云ヘハ物質ノ動靜ハ物質上ニ於テノ屬性ナリ、延長性ノ上ニ於ケル神ノ屬性ナリ、智ナリ意ナリハ思想上ノ神ノ屬性ナリ、換言スレバ一ハ物質ニ屬シ、一ハ心性ニ屬スル屬性ノ顯現ナリ、若シ智ト意トハ眞ニ神ガ備フルモノトセバ物質ノ動靜モ神ハ備ハザルヲ得ズ、獨リ意志ノミ神ノ性質ニシテ物質上ノ性質ヲ神ニ備ヘズトスルノ理

アヲツキ然ルニ物質上ノ性質ハ神ノ本性ニアラズトセバ、智モ意モ神ノ本性ニ非
 スト云フハ、スピノザ氏ハ如此論ヲ來テ世人ノ或ハ神ニ延長的性質ヲ具スル
 ナ説サルモ、獨リ思想的性質ヲ有スルヲ説キ、此二者同一ニ神ノ本體ニアラスシテ
 其屬性ナルヲ知ラサルモノナシテ其理ヲ了解セシメントセリ、
 氏ノ所論中ニテ最モ草見ト稱スベキ點ハ、古來ヨリ學者及ヒ宗教家等ノ盛ニ主張
 セシ自由意志説ヲ論駁シテ因果必然説ヲ主張セシニアリ、其説ニ曰ク内界モ外界
 モ畢竟其ノ本體タル神ノ屬性ナレハ、均シク唯一ノ規律即チ因果必然ノ理法ニヨ
 リテ支配セラレザルヲ得ズ、然ルニ外界ノミ必然ノ理法ニ檢束セラレテ、内界獨リ
 自由不羈ナルモノトスルハ不正ナル理論タルヤ明ニシテ此二者ハ均ク必然ノ理
 法ニヨリテ支配セララルハ、モンナリ、此内界ノ方チ名クテ思想或ハ道理ト云ヒ、外界
 ノ方チ名クテ物質或ハ運動ト云フ而シテ此ノ二者ヲ深ク推究シテ其ノ本源ニ溯
 シハ、均ク無限ノ本體ニ達シ、無限ノ道理、無限ノ運動トナルモノナリ、而シテ其ノ
 無限ノ本體ニ達スルハ、即チ神自體ノ作用ヲ呈スルモノニシテ、此ノ神自體ノ作
 用ニ立種ク性質ヲ有ス、モト思想ト云ヒ、一ヲ延長ト云フ(此ノ區別ハ彼ノ度加多氏

及二元論ニ依リテモ、此ノ三種ノ性質ハ神自體ニ具有セル屬性ニシテ均ク
 無限ナル故ニ其ノ無限ナルモノヲ總括シテ無限性ノ思想或ハ無限性ニ延長ト
 稱スルハ、此ノ三種ノ屬性ヲ有スルヲ以テ無限ノ道理、無限ノ運動ノ二種ノ作用ヲ
 呈シ、此二種ノ作用ハ因果必然ノ理法ニヨリテ支配セララル、モノナレバ、物質上ノ
 運動或ハ静止ノ作用ノミ必然ノ理法ニ服從シ、内界ノ意志獨リ自由不羈ノ性質ヲ
 有シ、必然ノ理法ニ服從セストスルノ理アラズヤ、此レニ由リテ之レヲ觀レバ、意志
 ト物質トハ同等同權ニシテ均シク必然理法ノ配下ニ屬スルモノナレバ、意志獨リ
 自由不羈ノ性質ヲ有スルモノニアラザルヤ明ナリ、然ルニ古來ノ學者或ハ宗教家
 カ盛ニ自由意志説ヲ主張シテ以テ真理ナリト是認セルハ、不道理ノ理論タルヤ論
 テ俟テズ、明ナリト、此ノ如ク氏ハ古來ノ學者或ハ宗教家ニ反對シテ、嶄然頭角
 ヲ顯ハシ、因果必然説ヲ主張シ、哲學界宗教界ニ一大波瀾ヲ起シタルハ、實ニ氏ノ氏
 ナル所以ニシテ、後世氏ヲ推シテ必然説ノ元祖ト稱スルモ亦此點ニ存ス、
 而シテ氏ノ宇宙万有ヲ解スルニモ、前述ノ説ヲ演繹推論セルニ、外ナラス、曰ク宇宙
 万象ハ悉ク必然ノ理法ニヨリテ支配セララル、モノナレバ、其無限ノ始ヨリ此理法

宗 教 哲 學

天經過シテ來リ、又無窮ノ將來ト雖モ今日マテ進ミ來レル方向ニヨリテ進ミ、決シテ他ノ方向ヲ取テ進ムコト能ハサルモノナリ、然ルニ古來ノ耶蘇教社流ハ神ハ全智全能ナルヲ以テ自恣專擅ニ其ノ轍ヲ變シ其ノ方向ヲ易フルコトヲ得ルモノナリト云ヘリ、神ハ假令全智全能完全無欠ノモノナリトスルモ、決シテ自恣專擅ニ宇宙ノ方向ヲ變スルコトヲ得ルモノニアラス、何トナレバ神ハ無始無終不變不易ニシテ唯一ノ規律即必然ノ理法ヲ具有スルモノナレバ、其ノ意志即必然ノ理法ニ依リテ所定セル宇宙万象モ永久不變ニ唯一ノ方向ヲ取り、必然ノ理法ニ據リテ進マザルヲ得ズ、然ルニ若シ神ノ所定ニシテ從來ノ必然ハ將來ノ不必然トナルカ、如キ變遷常ナクモノトセシカ、神ハ完全無欠トスルコト能ハス、然ルニ神ハ完全無欠不變不易ナルモノナルカ故ニ、其ノ所定セル宇宙万象モ永久不變ニ唯一ノ理法ニ支配セラレ、モノナルコトヲ知ルベシ、此論ハ彼ノ度加多氏ノ形式ニヨリテ組織シ其ノ材料各種ナル元素ニヨリテ成立セルモノナリ、

而シテ氏ハ本體ニ關スル屬性ヲ論シテ曰ク、神ハ宇宙万有ノ本體ニシテ無限恒久ノモノナリ、而シテ又思想性ト延長性ト屬性ヲ具有ス、然レモ屬性ノ數ニ至リテハ

宗 教 哲 學

決シテ三者ニ限レルモノニアラス、何トナレハ神ノ體タルヤ無限性ノモノナレバ、其ノ體ニ屬スル性情モ亦無限ノ數ヲ具有セサルヲ得ズ、然レモ此ノ無限ノ屬性中ニテ吾人々類ノ可知界ニ屬スルモノハ單ニ思想性ト延長性ト二者ニ限り、餘ハ皆不可知界ニ屬スルモノナリ、而シテ此ノ二屬性ハ其範圍廣大ニシテ吾人ノ見聞覺知スルコトヲ得ル森羅万象ハ一トシテ此ノ範圍ヲ脱スルコト能ハシテ、此ノ思想性ノ大範圍中ニハ個々ノ觀念モ成立シ、延長性ノ大範圍中ニハ個々ノ物質モ成立スルモノナリ、其ノ個々ノ延長性ヲ總括シテ天神ノ延長ト云ヒ、個々ノ思想性ヲ總括シテ天神的ノ思想ト云フ、而シテ氏ハ又万有ヲ總括シテ三種ニ區別セリ、曰ク本質(Substance)由リ屬性(Attribute)曰ク方法(mode)ハ佛教ニテ眞如方法ト云ヘル方法ノ意ナリ、是ナリ、

前來述べ來レルカ如ク、氏ハ從來ノ宗教說ニ反對シテ其ノ上ニ改良ヲ加ヘテ、耶蘇教ヲシテ佛教ノ如キ觀ヲ呈シタリ、何トナレバ万有ノ本體タル神ヲ從來ノ宗教家ノ如ク宇宙万象ノ外ニ向ヒテ求めズ、宇宙内部ニ向ヒテ求めタルカ如キ、又宇宙ノ道理モ神ノ專擅ニ依リテ成立スルモ、ニアラス、唯一ノ規律即チ原因結果、必然ノ

理法シテナリテスルカ如キ點ハ佛教ト異ナルコトナクシテ、但タ佛教中ニハ此等哲學家ノ論定セル原理ヲ包含スルモ、其ノ論述スル所ハ系統的ノ組織ヲ有セズ、又之レヲ學ブモノモトラスラ舊條ヲ是レ守リ進取ノ氣力ナキヲ以テ、遂ニ今日ノ學問世界ニ適合セシムルコト能ハザルニ至レリ、豈遺憾ナラスヤ、故ニ佛教ヲ研究セシムルハ西洋ノ宗教哲學ヲ兼修スルハ、實ニ目下ノ急務ト謂フヘシ、

且ツ氏ハ物心同權論ヲ主張スルモノナレバ、此ノ物心二者ハ其間ニ關係ナクシテ、延長性ハ思想性ヲ支配スルノ權ナク、思想性モ延長性ヲ支配スルノ權ナシ、故ニ延長性ノモノハ延長部内ニテ關係シ、思想性ノモノハ思想部内ニテ關係スルモノナリト云ヘリ、此理ヲ應用シテ神ノ思想ト神ノ事業トハ同權ニシテ併行對立シ、主從ノ關係アルモノニアラサレバ、彼ノ耶穌教者流ノ神ノ思想ハ主ニシテ、其事業ハ屬性ナリト論スルカ如キ理ナク、單ニ思想部内或ハ事業部内ニテ主從ノ差別アルニ決シテ思想ト事業ト對立スル上ニハ主從ヲ別アルコトナシト説キテ、古來ノ宗教學者カ神ノ事業ヲ以テ其ノ思想ト附屬物ナリトシテ打破セリ、

氏ハ又本體ト屬性トヲ論スルニ、前ニモ辨述セルカ如ク、其屬性ハ可知界ニ屬スル

モノヲ物心二者ト區別シ、二者ハ同權同權ナルモノナレバ、兩者ノ間ニ輕重ヲ附スヘキモノニアラズ、換言セバ二種ノ屬性ヲシテ本體即神ニ對スルハ等シク是レ屬性ニシテ、全ク同權ナルモノナリト説キ、此理ヲ推演シテ一個人ノ上ニ付キテモ此ノ兩屬性アルコトヲ論セリ、其説ニ曰ク、身軀ト心意トハ全ク同權ナルモノナリ、何トナレバ身軀ハ神ノ屬性ナル延長性ノ一部分ニシテ、心意ハ其ノ思想性ノ一部分ナレバ、此ノ身軀ト心意トノ間ニ輕重ノ差アルコトナク、同權同權ナルモノナリ、既ニ同權同權併行對立セルモノナレバ、身軀ニシテ完全ニ發達スルハ心意モ亦相伴フテ完全ニ發達スルモノニシテ、外界ノ經驗ノ進歩スルト同時ニ内界ノ思想モ進歩スルモノナリト、此ノ點ヨリ見ルハ、氏ハ内外順應論ニシテ經驗論及ヒ唯物主義ヲ主張スルモノ、如シ、然レモ氏ハ唯物論ヲ主張セルモノニアラサレバ、其説ノ唯物論ニ陥ルヲ恐レ、此レヲ避ケンカ爲メ説ヲ立テ、曰ク、心意ハ外界ノ經驗ノ進歩スルト同時ニ進歩スルモノナリト雖モ、心意ニハ物質ノ具有セサル一種ノ力ヲ有セリ、此ノ一種ノ力トハ自覺ノ自覺、或ハ觀念ノ觀念トモ名クベキモノニシテ、心意固有ノ力ナレハ、外部ノ進歩ト隨伴スルモノニアラズト、以テ其主張スル形

而上學ヲ成立セリ、然レモ氏ノ此論タルヤ却テ自家撞着ヲ招キタル者ト云ハサルヲ得ス、何トナレバ心意ニ限リ一種特有ノカアリトスルモハ、外界物質トノ間ニ輕重ノ差ヲ生シテ、物心ハ同等同權ナル屬性ナリト云ヘル論ニ撞着スレバナリ、

次ニ氏ノ人智論ハ大ニ宗教上ノ智力及ヒ倫理說ニ關係スルヲ以テ茲ニ略述セシニ、氏ハ智力ヲ區分シテ三種トセリ、其ノ第一ハ感覺上ノ經驗ヨリ來ルモノニシテ、此ノ智力ノ中ニモ優劣ノ別アリ、劣ナルモノハ世間的ノ空想ニシテ不正無根ノ俗說妄想ヲ云ヒ、優ナルモノハ種々ナル事物ヨリ得タル概念ノ集合ヨリ成立セルモノニシテ、假リニ名クテ之ヲ類想ト云フ、第二ハ道理上ヨリ來ルモノニシテ之レヲ名クテ理性ト云フ、理性トハ經驗ヨリ得タル種々ノ概念ノ上ニアリテ人類共同ノ智識ナリ、第三ハ智識中ノ最上ニ位スルモノニシテ、此智識ハ神ニ關スル智識ナリ、此ノ智識ハ諸般ノ原理原則ノ從リテ生スル所ノ源泉ニシテ、實ニ確然明白ナル觀念ヲ生スルモノナリト云フ、氏ハ宗教ニ關スル心性作用ヲモ此分類ニ準シテ説明ヲ下セリ即チ左ノ如シ、

第一ハ罪徳等ニ關シテ世俗一般ニ抱ケル妄信思想ナリ之レ智識論ノ第二ニ準スルモノ、(第二ハ道理上ヨリ罪徳等ハ如何ナルモノナルヤヲ推考スル心性作用ナリ之レ智識論ノ第二ニ準スルモノ)、第三ハ宗教ニ關セル心性作用中ノ最上ノ位置ヲ占ムルモノナリ(之レ智識論ノ第三ニ準スルモノ)而シテ此智識ハ神ノ力ニヨリテ得タル智識ニシテ、此ノ智識ニヨリテ吾人ハ安心立命シ、以テ神ト同一躰ニ歸スルコトヲ得ルモノナリ、斯ク氏ハ智識ト宗教思想トヲ應合シテ説明セシハ、理論ト實際トハ隔然セルモノニアラズ、理論上ノ智識ハ即チ實際上ノ智識ニシテ、哲學ノ如キ最高ノ理論ヨリ得タル智識ハ實際上ニテモ最高ノ智識ナルコトヲ示セルモノナリ、併シ氏ノ此論ハ主張セル所以ハ智識ト意志トヲ同一視セシヨリ起リシモノナリ、詳言セバ古來ノ學者多クハ知力ト意志トヲ區別シ、智識ハ原因結果ノ理法ヲ推究スル心性作用ニシテ、意志ハ自己特有ノ自由作用ヲ有スルモノナリトセルモ、氏ハ意志ナルモノハ全ク智識上ノ斷定ニ過キスシテ、二者其原理同一ナリト信スルヨリ起ルモノナリ、

氏ハ又倫理學トハ如何ナルモノナルヤヲ解釋スルニモ前說ノ論法ニ準シテ、其說明ヲ降セリ、今其著倫理書ニ就キテ之ヲ見ルニ、其第三卷ニ愛情ヲ分チテ三種トセ

宗 教 哲 學

リ、曰ク所作用的愛情即チ外界ノ事物ニ由リテ惹起セラレシ愛情ニシテ、吾人ノ本情ニアラサルモノ、曰ク能作用的愛情即チ吾人ノ内部ニ存スル必然ノ理法ニ則テ活動スル精神作用之ヲ名ケテ願望ト云フ、曰ク合神の愛情即チ神ニ關スル愛情ニシテ、吾人ハ此情ニヨリテ神ト同一體ニ歸スルモノニシテ、語ヲ借リテイハヤ吾人ヲシテ成佛得道セシムル所ノ者はナリトス、

第一所作用的愛情トハ、憐愍等ノ如キ、外界ト感覺トノ爲ニ精神ヲ支配セラル、ヨリ起ル不道徳的ノ愛情ヲ云フ、凡ソ人類ノ目的トスル點ハ、自己ノ生存ニアリテ、此目的ニモ或ハ道徳ニ適合スル者アリ、或ハ道徳ニ適合セサル者アリ、而シテ其道徳ニ適合セサル目的トハ、憐愍ノ如キ所作用的愛情ニシテ、若シ人此愛情ノ爲メニ制御セラル、ハ、其ハ精神ノ自存ヲ失シ、又獨立自由即チ内界ニ存スル因果必然ノ理法ニ隨フノ自由ヲ失スルニ至ラン、(氏ノ自由トハ因果必然ノ理法ニ隨順スルニ際シ他ヨリ障礙ヲ禁ムルヲ云フ)又入ハ自己ノ生存ヲ目的トスルモノナレバ、憐愍ノ如キ所作用的愛情ヲ恣ニスルハ、人々相戰ヒ強食ハ弱肉ノ有様ヲ呈シ、却リテ自己ノ生存ノ道ヲ失スルニ至ラメ、故ニ吾人ハ倫理學ニ於テ人ハ憐愍ノ奴隷トナ

宗 教 哲 學

リシキニ如何ニシテ此羈絆ヲ脱スルコトヲ得ルカ、又如何ニシテ外界ノ制御ヲ離レ獨立自由又境ニ達スルコトヲ得ルカ等ノ問題ヲ講究セザルベカラズ、

第二ニ能作用的愛情即チ願望トハ所作用的愛情ノ上ニ位シ、精神内ニ存スル必然ノ理法ニヨリテ起ル作用ニシテ、外界ノ事物ニヨリテ惹起セラル、モノニアラス、吾人呼ビテ徳トナスモノハ精神固有ノ能作用ヲシテ其勢力ヲ隆盛ニシ、外界ノ羈絆ヲ離レ、憐愍ノ奴隷タルコトヲ脱スルニアリ、此徳ナルモノハ、基礎トスル點ハ自己ノ生存ニアリ、自己ノ生存ヲ離レテ吾人ハ成存スルコト能ハサルモノナリ、而シテ憐愍ト云ヒ願望ト云ヒ等シク自己ノ生存ヲ目的トスルモノナレバ、若シ憐愍ノミヲ逞クスルハ吾人ハ爭鬪ノミヲ事トシ、却テ自己ノ生存ヲ害スルモノナリ、故ニ吾人ハ勉メテ憐愍ヲ制シ、其生存ヲ補助スル願望ナルモノヲ發達セシメサルベカラズ、凡テ道徳ニ合シ自己ノ生存ヲ補助スルモノハ善ニシテ、之レヲ害スルモノハ惡ナリ、而シテ道徳上ヨリ自己ノ生存ニ關シ、善ヲ助ケ惡ヲ避クルノミナラズ、情緒上ニテモ生存ヲ損傷スルモノヲ制セサルベカラズ、故ニ能作用的愛情ハ道徳ニ適合セルモノナレバ、此力ニヨリテ所作用的愛情ノ如キ不道徳ナルモノヲ制セサルベ

宗 教 哲 學

カラズト、斯ク氏ハ道德ノ目的ヲ以テ自己ノ生存ニアリトシ之ヲ補助スルモノヲ善トシ妨害スルモノヲ以テ惡ナリトスル點ヨリ見ルハ、氏ハ自利主義、若クハ主我主義ヲ主張スル經驗派、或ハ自利派ト其轍ヲ同クセルモノ、如シ然レモ氏ハ全ク彼ノ經驗派、自利派トハ異ナレモナリ、何トナレハ彼ノ經驗派若クハ自利派ノ如キモノハ善惡ノ標準ヲ感覺上ノ經驗ヨリ取り來ルモ、氏ハ感覺上ノモノハ皆所作用ニ屬スルモノナレバ道理ニ適合スルヲ能ハサルモノニシテ、精神内ニ存スル能作用即チ道理力ヲ以テ感覺上ノ躰欲ヲ制抑セサルヘカラスナルモノナリト論シテ、道理心ヲ以テ倫理道德ヲ標準トセリ、是レ氏ハ自身ノ保全ヲ以テ目的トスルモノナルモ經驗派等ニ屬セズシテ道理派ニ屬スル所以ナリ、

氏ノ倫理說ニ於テ一種特有ノ性質トスベキ點ハ道理ト愛情トヲ結合セルニアリ、古來ノ學者多クハ道理ト愛情トハ相反對セルモノナレバ、道理ヲ以テ愛情ヲ制セサルヘカラストセラルモ、氏ハ所作用的愛情ノ如キハ外界ノ爲メニ起リシモノナレバ道理ニ適合セルモノナリトスルヲ能ハサルモ、精神内ニ起ル愛情即チ能作用的

宗 教 哲 學

愛情ハ精神内ニ存スル必然ノ理法ニ從リテ生スルモノナレハ、決シテ道理ニ適合セザルモノナリトスルヲ能ハズト、是レ氏ノ倫理說ノ長所ナリ、而シテ一長アレハ一短アリ、一得アレハ一失アルハ、現象界ニ於テ免カルヘカラス事情ニシテ、氏ノ說モ其長所ナルト同時ニ其短所アルヲ見ル、今茲ニ其短所ヲ略述セン、

氏ノ倫理說ニ就キテ短所トスヘキハ、單ニ理論上ノ道理ノミヲ取リテ實際上ノ道理ヲ放擲セシニアリ、換言セハ精神上ニ存スル道理ノミヲ取リテ社會上ニ表現セラル事實ヲ顧サルニアリ、何トナレバ道理ニハ理論上ト實際上トノ二種アリテ共ニ輕忽ニ附スベキモノニアラズ、然ルニ單ニ理論上ノ道理ノミヲ求メ、實際上ノ道理ヲ排スルニ至ルハ、自然ニ世間ト關係ヲ絶チ、避世脫俗ノ境ニ入り、空寂無爲ノ位置ニ達セサルベカラス、既ニ避世脫俗ノ傾向ヲ有シ、退守ノ一方ニ偏倚セシモノナレハ、之ヲ呼ビテ完全ナル倫理トスルヲ能ハサルヤ明ナリ、氏自ラモ亦厭世脫塵ノ主義ヲ取リ、世外ニ逍遙セノヲ樂ヒタルモノ、如シ、是レ恰モ支那ニ於テ老莊派カ、孔孟派ノ實際的一方ニ偏シタルニ反對シ、理論的一方ヲ主トシ、避世脫塵以テ虛無自然ノ本躰ニ上達セノヲ樂ヒタルト同一一般ナリ、畢竟氏ノ倫理ノ理論一偏ニ

傾キタルハ全ク其形而上哲學ノ主義ヨリ流レ來ワシモノナリ、何トナレハ氏ハ形而上學ニ於テ内界ト外界ノ區別ヲ立テ、物質ト云ヒ心意ト云ヒ、均シク本體ノ屬性ニシテ二者併行對立シ同等同權ナルモノナレバ、内界ハ決シテ外界ノ爲メニ制限セラレベキモノニアラズ、故ニ吾人ハ勉メテ内界ノ獨立ヲ保存シ、外界ノ關係ヲ遠離シ、精神ヲ安靜ニセサルベカラズト、此ノ如ク外界ノ關係ヲ絶チ、精神ノ安靜ヲ主トスルモノハ純全ナル道德ト云フベカラズ、何トナレバ一個人ノ道德ハ成立スルコトヲ得ルモ、社會上ノ道德ハ決シテ成立スルコト能ハサレバナリ、又他ニ一ノ原因アリテ氏ノ所論ニ影響ヲ及シタルモノアリ、何ソヤ曰ク氏ノ生活上ノ情態是レナリ、氏ハ普通世俗ノ信スル宗教ヲ奉セズシテ、一家獨立ノ說ヲ立テタルヲ以テ、世間ヨリハ異端ヲ以テ目視セラレ、且ツ氏ハ猶太人種ニ屬スルヲ以テ、社會ヨリモ排斥セラレ、其心中オノツカラ鬱々タルモノアリシナルヘシ、其感想ヤ遂ニ發シテ氏ノ哲學及ヒ倫理上ニ表現セシ者ナルヤ疑ヲ容レズ、而シテ此ノ退守主義ハ後厭世論者ノ巨魁タルシハシムカハ、氏ノ所論ヲ誘起スルノ原因トナリシモ亦明カナリ、氏ハ又赫慾ノ奴隸タルノ境遇ヲ脫離シ、精神ノ自由獨立ヲ得ルノ手段ハ如何ニ

可ナラソカテ其倫理書第五卷ニ論セリ、其意ニ曰ク、吾人ニシテ道理的知識ニヨリテ考察ヲ降シ、以テ明瞭ナル觀念ヲ喚起スルモ、假令外界ニ接スルモ赫慾ノ如キモノハ爲ニ抑制セラレ、コトナク、赫慾ハ却テ明白ナル觀念ノ爲ニ消滅スルコト恰モ霜露ノ朝陽ニ於ケルガ如シ、凡テ外界ヨリ來ル觀念ハ善ト稱スベキモノニアラサルモ、明瞭ナル觀念ノ精神中ニ盛ナルニ從ヒ、外界ノ觀念モ一變シテ精神上ノ善ニ版スルモノナリ、此明瞭ナル觀念ハ必然ノ理法ニヨリテ起リ、道德上ノ情操モ必然ノ理法ニヨリテ起ルモノナリ、例ヒバ憫憐ノ情ノ如キハ力ノ弱キモノヲ憫ムモノナレド、人ノ初メテ生レシキ其體力弱小ナルモ之ヲ憫ム情起ラサルハ必然ノ理法ニヨリテ然ルナリ、此ノ如キ明瞭必然道理的觀念ヲ名クテ能作用的愛情トハ云フナリ、然レド此道理的愛情ヲ以テ愛情中ノ最モ完全ナルモノトスルコト能ハズ、何トナレバ尙ホ外界ノ版納經驗ニ關係ヲ有スレハナリ、故ニ此愛情ノ上ニ第三合神の愛情即寂靜無爲ノ愛情アリ、此情ハ神ノ觀念ニ基キ起ルモノニシテ、最高ノ位置ヲ占有スルモノナリ、而シテ此情ハ神ガ自身ヲ愛スル情ノ分賦シテ吾人ニ有スルモノナ

宗 教 哲 學

レバ、神モ吾人モ更ニ異ナルヲナク、神ノ吾人ヲ愛スル情モ、吾人カ神ヲ愛スル情モ、合同一致シ、神ト吾人トハ同躰無別ノ境ニ達スルモノト云フベシ、是レ神ノ吾人ヲ愛スル情ハ、吾人ノ精神上ニ有シ、吾人ノ神ヲ愛スル情ハ、又神ノ心意中ニ有スルヲ以テ合同一致スルヲ得ルモノナリ、此合同一致ハ即吾人ノ安心立命ニシテ、神ノ救助ヲ得タルモノナリト云フ、此ノ如ク氏ハ神ノ愛ニヨリテ外界ノ慾念ヲ脱シ、神ヨリ得タル智ト情トヲ確知スルトキハ、万有ノ本躰即神ト一躰ニ皈スルヲ得ト説キタルヲ以テ見レバ、氏ノ所論ハ耶蘇教所談ノ天神救助ヲ説カズシテ、却テ佛教所談ノ成佛得道ヲ説キタルカ如シ、又氏ヲ以テ万有神教ヲ主張スルモノナリト認定セルモ、其説ノ佛教ニ近キヲ知ルベシ、

前述三種ノ愛情ヲ概言スレハ、第一躰慾的愛情、第二道理的愛情、第三合神の愛情ニシテ、此中第三ハ氏以前ノ神秘教派ノ論者カ神ハ道理以外ニ存シ、人智ヲ以テ測度スルコト能ハサルモノナリト論ゼルニ反對シ、吾人ハ神ノ一部分ナルヲ道理上ヨリ批判的ニ證明セシモノナリ、此ヲ以テ氏ノ宗教學ヲ名クテ批判的宗教哲學トハ云フナリ、

宗 教 哲 學

上來媿々講述シ來リシモノハスピノザ氏ノ宗教哲學ヲ概論セルモノナリ、是ヨリ進ミテ氏ノ著書政教論ト倫理學ニ於テ宗教ニ關スル見解ノ相反スル所アルヲ以テ其點ノ一二ヲ示シ、且ツ之ヲ批評シ、其局ヲ結ビ而シテ後氏以后哲學者ノ宗教哲學ニ論及セン、

政教論ニ於ケル宗教説ト、倫理學ニ於ケル宗教説トハ、大ニ反對セル方向ヲ取レリ、第一ニ神ヲ論スルニ就キ、政教論ニテハ神ハ秘密的ノモノニシテ、道理以外ニ存シ、吾人ノ得テ知ルベキモノニアラズト説キ、倫理學ニテハ神ハ因果必然ノ理法外ニ存スルモノニアラズシテ、宇宙万有ノ本躰即神ナリト説キタリ、第二ニ精神不滅ヲ論スルニモ、政教論ニテハ吾人カ其一生ノ間神ヲ信セズ、慾情惡心ヲ起シ、外界ノ爲ニ制セラル、其精神ハ肉躰ト結合セルヲ以テ、肉躰ノ死亡スルト同時ニ、其精神モ消滅ニ皈シ、決シテ神ノ恩惠ヲ蒙リ其精神ヲシテ永久不滅ナラシムルコト能ハス、故ニ若シ精神ノ永久不滅ヲ願ハバ、勉メテ外界ノ慾念ヲ遠離シ、誠心誠意以テ神徳ト合躰セサルヘカラス、然ルルハ假令肉躰ハ腐朽シ去ルモ、精神ハ肉躰ヲ離レテ獨立セルヲ以テ永久不滅ナルヲ得ルナリト説ケリ、然ルニ倫理學ニテハ吾人ノ

宗 教 哲 學

精神ハ本體即神ノ精神ノ一部ヲ分賦シテ占有スルモノナレハ、神ノ精神ニシテ消滅セザル限リハ、吾人ノ神ヲ信スルト否トニ關セズ、吾人ノ精神モ永久不滅ノモノナリ、然レハ肉體ニ關係セル精神作用即感覺記憶想像等ノ如キモノハ、肉體ノ腐朽ト共ニ消滅ニ皈セサルヲ得ズ、故ニ一個人ノ上ニ於テ肉體ニ制セラル、部分ト、獨立セル部分トノ二種ノ精神ヲ分チ、其一ハ滅亡、其二ハ不滅ナリト定ムルナリ、此論ニヨリテ氏ハ智者學者ノ多ク死ヲ怖レサルハ其精神ノ中ニ不滅ノ部分多ク存スルニヨリ、愚者ノ死ヲ怖ル、ハ滅亡ノ部分多ク存スルニヨルト云フ、第三ニ宗教ヲ信スルトニ就キ、政教論ニテハ神ヲ信スルニハ道理或ハ智力ヲ以テスベキモノニアラズシテ、單ニ默信服從セサルヘカラズト云ヒ、倫理學ニテハ智力或ハ道理ヲ離レテ神ノ救助ヲ得ントスルモ決シテ得ヘカラサルモノアリト云フ、第四ニ肉體上ノ情慾ヲ制スルニ就キ、政教論ニテハ肉體的愛情ヲ制スルニハ、一層強キ情即神ノ情ヲ假リテ抑制セサルベカラズト説キテ、自己以外ノ神ニ向ヒテ救助ヲ求メ、倫理學ニテハ不道理的ノ愛情ヲ制スルニハ道理の愛情ヲ以テスベシト説キテ直接ニ自己ノ精神内ニ向ヒテ之ヲ求メタリ、第五ニ政教論ニテハ總テ耶穌教ノ歴史中

宗 教 哲 學

ニ記載セル天神ノ示現及ヒ奇行奇跡ハ全ク信シテ疑フベキモノニアラズ、此信仰ニヨリテ神ノ恩惠ヲ蒙ルトテ得ルモノナリト説キ、世人ヲ善道ニ導キ政治上ノ平穩無事ヲ以テ目的トセリ、倫理學ニテハ假令其歴史中ニ記載セル天啓奇跡ト雖モ道理ニ合セサルモノハ悉ク排斥シ、單ニ智力道理ヲ以テ神ノ救助ヲ期セザルベカラズト論シ、世間ヲ脫離シテ精神ノ本體ニ皈シ、寂靜無爲ノ境ニ達スルヲ以テ目的トセリ、一人一個ノ思想ヲ以テ同一ノ事ヲ論スルニ、斯ノ如ク兩書相反對セルハ豈又不思議ナラズヤ、是レ一ハ徹頭徹尾哲學上ノ道理ニヨリテ推論シ、一ハ全ク實際上ヲ主トシテ立論セルニヨルモノナリ、然レモ一步ヲ進メテ考察スルニハ、相互一致ノ點ナキニアラサルナリ、第一ニ倫理學ノ目的ハ世人ノ迷フ所ノ肉體上ノ情慾ヲ斷滅シ、精神上ノ自由ヲ發揮セントスルニアリ、政教論ニテモ肉體上ノ情慾ヲ去リテ單ニ世人ヲシテ道德界中ニ導キ入ラシメントスルニアレハ、兩者其皈ヲ一ニセリト云フベシ、第二ニ倫理學中ニテモ情ヲ制スルニハ情ヲ以テセザルヘカラズ、即不道理的ノ情ヲ制スルニハ、道理的ノ情ヲ以テセザルヘカラザルトテ論シ、政教論ニテ

ハ下等ノ情ヲ制スルニハ、上等ノ情ヲ以テセサルヘカラザルヲ論セリ、此ノ情ヲ以テ情ヲ制スルノ一點ニ至リテモ、亦兩書ノ一致スル所ナリ、第三ニ政教論ト云ヒ倫理學ト云ヒ、共ニ精神ノ不滅ヲ論スルニ至リテハ又同一ナリ、而シテ此ノ兩書中共ニ精神ノ不滅ヲ主張スル所ヨリ見ルハ、氏ハ普通ノ宗教社會ノ唱導スル所説ヲ保護セルモノ、如シ、然レモ氏ノ説ハ全ク宗教社會ノ所説トハ其性質ヲ異ニセリ、普通宗教家ノ精神不滅ヲ證論スル説ニ曰ク、吾人ノ神ニ向ヒ尊信ヲ盡シ愛敬ヲ致スルハ、神ハ其報酬トシテ愛慾ヲ垂レ、救助ヲ與ヘ給フニヨリテ、吾人ノ精神ヲシテ恒久ニ存在セシムルヲ得ルモノナリ、若シ神ヲ敬シ道ヲ守ルモ、神ハ吾人ヲシテ精神不滅ノ境ニ達セシムルヲ能ハザルモノナラハ、吾ハ肉體上ノ情慾ヲ逞クシ、眼前ノ快樂ヲ食リテ更ニ神ヲ敬スルモノナク、悉ク惡人トナリ去ラソノミ、然ルニ人皆道ヲ守リ神ヲ敬スル所以ノモノハ、全ク神ノ救助ヲ得テ精神不滅ノ境ニ達スルヲ得ルニヨルト、氏ハ此推論ノ不道理ニシテ論理ニ合セサルヲ駁シテ曰ク、若シ吾人ニシテ道ヲ守リ神ヲ敬スルモ精神不滅ノ境ニ達スルヲ能ハサルモノナラハ、人類ハ皆情慾ノミヲ逞クシテ惡人トナリ去ルモノトセハ、

是レ恰モ水中ニ生活スル魚ガ若シ其精神不滅ナルヲ能ハサルハ、水中ヲ去リテ生テ陸上ニ移サント想スルカ如シ、豈此ノ如キ理アラザヤト、又世間普通ノ宗教ヲ信スルモノ、見解ヲ見ルニ、吾人ノ宗教ヲ信シ神ニ敬愛ヲ盡スハ、神ノ救助ヲ蒙リ、未來ノ幸福ヲ得ンガ爲ニ、先ツ其價ヲ拂フモノナリ、若シ未來ニ其幸福ヲ得ルノ結果ナキハ、吾人ハ道ヲ行ヒ神ヲ敬スルヨリハ、寧ロ肉體ノ快樂ヲ貪リ其慾ヲ逞フセント、氏ハ之ヲ駁シテ曰ク、吾人ノ道ヲ行ヒ神ヲ敬スルヨリ得ル所ノ幸福ハ、必スシモ未來ニ存スルニ限ルニアラス、道德即幸福ニシテ、吾人ノ道德ヲ行フヲ得ルハ即チ神ノ救助ニヨルモノナリ、何トナレバ此道ヲ踐ミ其徳ヲ行フハ、神ノ救助ニ遇ヒ安心立命ノ位地ニ達シ、情慾ノ爲ニ制セラル、トナク、獨立自由ノ境遇ニ遊ブヲ得レハナリ、而シテ此救助ヲ得ルノ心性作用ハ吾人ノ知識ノ力ナリ、此知識力ハ情慾ノ如キ情慾ニ制セラル、モノニアラズシテ、精神ノ自由ヲ得セシムルモノナレバ、其力ノ強弱ニヨリテ神ノ救助ヲ受クルニモ高低ノ差ヲ生スルナリ、故ニ其救助ハ精神ノ不羈自由ニ外ナラズ、此等ノ論ニ依リテモ氏ハ普通ノ宗教家ノ所論ヲ補助セルモノニアラサルヤ明カナリ、而シテ其論ハ倫理

宗 教 哲 學

學ニ於テ哲學上ヨリ論セシモノニシテ、政教論中ノ宗教說ニハアラズ、前段ニ樓述セルカ如ク、政教論ト倫理學ニ於テ反對ノ說明ヲ何故ニ同一ノ宗教上ニ降セシカノ問題ヲ解スルニ、氏ノ考ニテハ吾人ハ道理的愛情ヲ以テ不道理的愛情ヲ制スルヲ得ルモノナルモ、世界ニ道理的愛情ヲ有シテ其力ニヨリテ不道理的愛情ヲ制スルヲ得ルモノハ、其數曉天ノ星ノ如クニシテ、多數ノ人民ハ皆不道理的愛情ノ爲ニ精神ヲ束縛セラル、モノナレバ、倫理學中ニ説キタル道理的宗教ノミニヨリテ安心立命ノ目的ヲ達スルヲ容易ノ行ニハアラサルナリ、若シ世界中ニ此一途ノ外ニ安心立命スヘキ道ナキハ、此世界ニ充滿セル愚者ヲシテ悉ク肉體的情慾ノ泥中ニ惑溺セシメ、成道得果ノ幸福ヲ得セシムルヲ能ハサルベシ、故ニ世間別ニ愚者ヲシテ安心立命セシムル易行道ナカルベカラズ、此易行道トハ即チ顯示教ニシテ、此教義ハ吾人ヨリ高等ノ意力ヲ有スル神ノ規律ニ順ヒ、以テ肉體的ノ情慾ヲ制スルモノナリ、是レ氏ガ政教論ニテハ世俗ノ爲ニ易行道即チ顯示教ヲ説キ、倫理學ニテハ理論上難行道即チ道理教ヲ説キタル所以ナリ、而シテ氏ノ宗教上ニ此ノ如キ區別ヲ附シタルハ、恰モ佛教ニテ聖道淨土ノ難易兩道ニ分チタル

宗 教 哲 學

カ如ク、世人一般ヲ教導スルニ此二道ナカルベカラサルヲ知リタルニヨル、故ニ初メニ政教論ヲ著ハシ普通ノ顯示教ヲ説明シ、進ミテ倫理學上ニ於テ哲學上ヨリ道理教ヲ説明シタルナリ、他ノ語ヲ以テ之レヲ言ヘハ、政教論ニテ説キタルモノハ、情威的宗教論ニシテ、倫理學上ニテ説キタルモノハ、智力的宗教論ナリト云フベシ、之ヲ要スルニ氏ノ説ハ假令不道理ナル想像上ヨリ成立セル顯示教ト雖モ、人民教化ノ上ヨリ云フハ道理教ト同ク必須ニシテ缺クヘカラサルモノナリ、何トナレバ氏ノ意ニヨルニ世上ノ無智ナルモノハ到底明瞭ナル觀察ヲ以テ、必然ノ理法ヲ解スルヲ能ハサレハ、想像上神ノ存在ヲ知ラシメ、其力ニヨリテ勸善懲惡スルヨリ外ナシ、而シテ想像上無智ノモノヲ教化スルニハ、天神ハ吾人ノ得テ知ルベカラサル境界ニ存在シ、吾人ノ賞罰ヲ主ルモノナリト神秘的ニ之レヲ説明シテ、宗教ノ目的ニ達セシメサルベカラス、既ニ此ノ目的ニ達スレハ、道理的宗教ニヨリテ達シタル目的ト異ナルヲナシト考フルナリ、而シテ政教論ハ實際上社會ノ安全平和ヲ目的トシテ其說ヲ立テタルモノナレハ、此書中ニハ專ラ宗教ノ自由ヲ主張セリ、其意ニ思ヘラク世上人心ノ異ナルヲ恰

モ其面ノ如クナレハ、人民一般ヲシテ安心立命セシメンニハ、各人ノ心ニ適セル宗教ヲ撰擇セシメ、決シテ唯一ノ宗教ヲ以テ人心ヲ束縛スヘキモノニアラズト論セリ、然レモ倫理學上ニテハ宇宙ハ唯一ノ理法ヲ以テ貫通セルモノナレハ、吾人ハ其唯一ノ理法ヲ以テ、宗教ノ外ハ皆之ヲ排斥セサルベカラズ、何者世ニ純全確實ノ宗教ハ眞理ニ二途ナキ限リハ二種アルベキ理ナクレハ、宗教ハ唯一ニ限ルヘキモノナレハナリ、此ノ如ク兩說相反對スルモ其目的ニ到達スルハ、政教論ニ論ゼル顯示教ト倫理學上ニ論セル道理教モ毫モ異ナルヲナシ、唯其ノ目的ニ達スル手段ニ別アルノミナリ、

是ニ於テ氏ノ宗教哲學上ニ一ノ困難ナル問題ノ生スルアリ、何ソヤ曰ク若シ氏ノ論スル如ク顯示教ト云ヒ道理教ト云ヒ、其ノ手段ニハ差別ノ存スルアルモ、其結局ノ目的ニ至リテハ同一無別ナリトスルハ、氏ハ倫理學上ニテ吾人ノ想像力ノ如キハ昧慾的愛情ニ屬シ、昧慾ヲ満足セシメンカ爲ニ種々ナル空想ヲ起スモノナリトナスニアラスヤ、而シテ此不道理ナル想像力ヨリ成立セル顯示教ヲ以テ其結果ハ道理智力ヨリ成立セル宗教ヲ信シテ得ル所ノモノト同一ナリトスレハ、如何ナル

ル理ニヨリテ然ルヤノ疑問是レナリ、此疑問ハ氏ノ宗教哲學ニテハ解明スルヲ能ハサル大難問ナリ、此等ノ難問ヲ解スルヲ能ハサルハ、畢竟氏ハ吾人ノ精神作用ノ上ニ道理的愛情ト不道理的愛情ノ二種ヲ設ク、此二者ヲ結合スヘキ中間ノ媒介物ヲ設クサルニヨルナリ、其媒介物トハ何ソヤ總念是ナリ、總念ハ感覺上ヨリ來ル種々ノ經驗ヲ以テ内界ノ精神ニ同化セシムル性質ヲ有スルモノナレハ、此總念ニヨリテ想像的信仰ヲ道理的信仰ニ同化セシムルモノトナセハ、前ノ一難問ヲ解明スルヲ得ベカリシナラン、又氏ハ事物ノ進化發達ヲ説カサルヲ以テ其解明ニ苦ムモ、若シ此ノ發達ヲ説キシナラバ、顯示教ニヨリテ起ル信仰モ發達シテ道理的信仰ト同一ニ歸着スルモノナリトノ解明ヲ與フルコトヲ得ベカリシナラン、而シテ氏ノ事物ノ發達ヲ説カサルハ其哲學上ノ形式ニヨリテ然ルナリ、其故ハ氏以前ノ哲學者就中希臘ノ亞里斯底德氏ノ形質論、及ヒ耶蘇教論者ノ天神前定論ノ如キ、多クハ此世界ノ現象變化ヲ論シテ或ル一定ノ目的ニ向ヒテ進ムモノト云ヒテ、其所謂目的論ヲ主張シタリシモ、氏ハ之ヲ駁撃シ、世界ハ唯一ノ理法即チ因果必然ノ規律ニヨリテ成立セルモノナレハ、其ノ變化ハ下シテ因果必然ノ理法ニヨラサルハナ

宗 教 哲 學

シ、決シテ或ル一定ノ目的アリテ之ニ向テ發達スルモノニアラズト論スルニヨル、是ニ於テライブニツ氏起リ氏ニ反對シテ發達論ヲ主張シ、此ノ顯示教ト道理的ノ兩者ヲ結合センコトヲ勉メタリ、要スルニ氏ノ宗教哲學ハ或點ハ長所ト稱スベク或點ハ短所ト稱スベシ、其長所トスベキ點ハ第一古來ノ學者多クハ宗教ヲ解釋スルニ、歷史上ノ事實或ハ經典中ノ文句ニ拘泥シ、道理上ヨリ研究セルモノナキモ、氏ハ歷史上或ハ經文ノ如何ヲ問ハズ、之レヲ哲理ニ考ヘ、其ノ原理ヲ説明シ、宗教哲學ノ關門ヲ開キタルニアリ、彼ノブリュノール氏ホイメ氏ノ如キモ道理上之レカ説明ヲ降セシモ、宗教ヲ宗教トシテ研究セルカ故ニ尙ホ神秘教派ノ臭味ヲ脱スルコト能ハズ、第二古來ノ學者宗教家ハ神ヲ宇宙ノ外ニ求メタルモ、氏ハ宇宙ノ内ニ求メ、物心萬有ノ本體即神ナリトセルニアリ、ブリュノール氏ノ如キハ已ニ萬有ノ本體ヲ以テ神ナリトハナシタレモ、スピノザ氏ハ其上ニ必然ノ理法ヲ加ヘ、宇宙ノ規律即チ神ノ規律ナリトナシタルモノハ、其哲學中ノ長所ナリ、之レニ反シテ氏ハ宗教ニ想像的宗教ト、道理的宗教トノ區別ヲ附シタルモ、此ノ二者ヲ結合スルコト能ハズ、又進ミテ何故ニ此二者ノ性質氷炭相容レサルカヲ説明セサリシハ其短所ト云ハサル

宗 教 哲 學

ベカラズ、是レ氏ノ哲學ノ形式ニヨリテ然ルモノナリ、氏ノ哲學ハ其ノ形式ヲチカルトト氏ニ取リ、物心二者ハ全反對ノ性ヲ有スルモノナルコトヲ信シ、更ニ此二者ノ上ニ本體即神ナルモノヲ立テ、物心二者ハ其層性ニシテ併行對立シ、同等同權ナルモノナリトナセリ、之レト同時ニ又身心ヲ區別シテ同權ヲ有スルモノトナシ、愛情上ニモ臍慾ト願望トノ別ヲ付シ、想像ノ如キハ慾ノ一種ニ屬シ、智力ハ道理ヨリ生スルモノナリト認定シ、宗教ニモ想像的宗教ト、道理的宗教ト別ヲ立ツルニ至レリ、此ノ想像的宗教ハ政治上社會ノ平穩ヲ期シ、道理的宗教ハ自由寂靜ノ境ニ達スルヲ目的トセリ、一ハ顯示教ニシテ、一ハ道理教ナリ、一ハ實際ニ屬シ、一ハ理論ニ屬セリ、此二者ハ各一得一失アリテ不可ヲ其間ニ付スルコト難シ、而シテ氏ハ此反對セル宗教ヲ接合スルコトヲ勉メス、又其何故ニ反對セルカヲ説明セサリシヲ以テ、其宗教哲學ハ未タ完全無欠ノモノト稱スルコト能ハサルナリ、

然レモ氏カ此ノ如ク宗教上ニ二種ノ性質ヲ分チ、之ヲ統合スヘキ理由ヲ説示セザリシハ、後ノ學者ニ宗教研究ノ好材料ヲ與ヘタルモノナリ、故ニ其後ノ哲學者ニシテ一家ノ宗教哲學ヲ起サントスルニハ、必ス先ツ此反對セル宗教中ノ一ヲ取リテ

他ヲ捨ツルカ、又此ノ兩者ヲ結合スルカ、何レカ其一ニ居ラサルヘカラス、是レ、ライ
 プニッツ氏トカント氏ノ宗教哲學ガ全ク反對ノ點ニ立チテ説明ヲ試ムルニ至リシ
 所以ナリ、即チライプニッツ氏ハ實際上ヲ主トシ、韓圖氏ハ道理上ヲ主トスルノ異同
 アリ、而シテ哲學中ニ外界ノ本體ヲ主トシテ論スルモノヲ實體論(Realism)ト云ヒ内
 界ノ本體ヲ主トシテ論スルモノヲ理想論(Idealism)ト云フ、ライプニッツ氏ハ實體論
 ヲ取り、我智識以外ニ外界ノ成立ヲ説キ、其所謂神ハ吾人ノ智識外ニ存シ、外界ニ存
 スルモノナリト獨斷セリ、之ニ反シテ韓圖氏ハ理想論ヲ取り、外界ノ諸現象ハ皆我
 主觀上ニ成立セルモノトナシ、其實體ノ如キハ全ク、我智識外ニアルヲ以テ決シテ
 知ルベカラサルモノナリト説キ、其宗教ヲ論スルモノ内界ヲ本據トシテ立論セリ、此
 ノ如ク二氏ノ宗教哲學ニ内外其起點ヲ異ニシテ立論スルニ至リシハ、スピノザ氏
 ノ學其端緒ヲ開キタルヤ疑ナシ、

スピノザ氏ノ宗教哲學ハ茲ニ其局ヲ結ビ、是レヨリライプニッツ氏ノ宗教哲學ヲ講
 述スヘシ、

ライプニッツ氏宗教哲學

氏ノ哲學ハ形而上學(Metaphisio)ト宗教哲學(Theology)トニシテ、此二學ハ皆スピノザ
 氏ノ形而上哲學及ヒ宗教哲學ニ反對ヲ取リタルモノナリ、然レモ二氏ノ哲學ハチ
 カルト氏ノ學派ニ屬スルヲ以テ大體ヨリ見ルハ同一ノ學派ト云ハサルヲ得ズ、
 其ノ同一ノ學派ト云フハ、哲學史上獨斷派或ハ唯理派ト稱スルモノニシテ、即チ内
 界ノ思想ヲ以テ根據トシ、數學的原理ニ本キ演繹的研究ニヨル學派ナリ、此學派ヲ
 獨斷派ト稱スル所以ハ、自己ノ思想上決シテ疑フヲ能ハサルモノアルハ、外界ノ
 實際ニ徴スルヲ待タズシテ、直ニ確然不拔ノ眞理ナリト斷定スルニヨル、其派ノ鼻
 祖ハデカルト氏ニシテ、氏ノ哲學ハ思想上疑ハントスルモ疑フヲ能ハサルモノハ
 眞理ニシテ、神ノ實在ノ如キハ如何ニ思想内ニ於テ疑ハントスルモ決シテ其上ニ
 疑團ヲ起スヲ能ハサルモノナレバ、其ノ實在ハ眞理ナリト云ヘル論法ヲ以テ組織
 セルモノナリ、此論法ハ數理上ノ原則ナル三角ノ總和ハ二正角ニ均シト云ヘル論
 法ノ如ク、思想上ニテ確定セルモノハ如何ナル場合ニテモ適合スベキモノナリト
 獨斷シ、單ニ理論ノミニ據リテ哲理ヲ考定セルモノナリ、

ライプニッツ氏ト云ヒスピノザ氏ト云ヒ、同ク此派ノ繼續者タルヲ以テ假令各一家

宗

教

哲

學

ヲ成シタルモ、獨斷派中ノ一人タルヲハ免カレサルモノナリ、然レモ其ノ哲學ノ部
 内ニ入りテ之レヲ見ルルハ、二氏ノ哲學ハ、大ニ反對スル所アリ、蓋シライプニツ氏
 ノスピノザ氏ニ反對セシハ、其哲學ノ上ニ一步ヲ進メ、一層完全ナル哲學ヲ組織セ
 ント企テタルニヨルモノナリ、
 スピノザ氏ハ哲學上ニ於テ道理ト不道理トヲ分チ、宗教上ニ於テモ實際的ト理論
 的トヲ區別セシモ、遂ニ此ノ二者ヲ結合スルヲ能ハズ、又其結合スルヲ能ザル所以
 及ヒ其二者ノ關係如何ヲ説明セザリシヲ以テ、此缺點ヲ補フテ一家ノ哲學ヲ興シ
 タルモノハライプニツ氏トカント氏ナリ、ライプニツ氏ハ實際上ヨリ説明ヲ起シ
 万有實在論ヲ主張スルニ至リ、カント氏ハ理論上ヨリ説明ヲ起シ主觀的理想論ヲ
 主張スルニ至レリ、即チ其論内外ノ別アリ、前者ハ外界上ニ万有ノ實在ヲ論シ、後者
 ハ内界上ニ物心ノ現立ヲ論セリ、是レスピノザ氏カ本質論ヲ唱ヘ、内外兩界ノ並行
 對立スル所以ヲ論シテ、其結果實際ト理論トノ撞着ヲ來シ、ヲ見テ、ライプニツ氏
 ハ外界ニ論點ヲ定メ、カント氏ハ内界ニ論點ヲ定メ、各其途ヲ別チテ此撞着ヲ會通
 センコトヲ勉メタルナリ、而シテ其所謂外界論ハ經驗學派唯物學派等ノ唱フルカ如
 キ感覺現象上ノ論ヲ義トスルニアラス、有形無形ノ物元子ノ本體ノ外界上ニ實在
 スルヲ云フナリ、

宗 教 哲 學

ライプニツ氏ノ哲學トスピノザ氏ノ哲學ト反對セル點ヲ述ベンニスピノザ氏ハ
 物心万境ノ本體ハ唯一ノ體ニシテ數個アル者ニ非ズ、其唯一ノ體ヲ名テ神ト云フ、
 而シテ物心二者ハ唯一ノ體即神ノ層性ニシテ、万境ハ層性ノ所現即チモードノ狀
 態ナリト論シテ万有神教ヲ唱ヘ、ライプニツ氏ハ之ニ反シテ万有ノ本體ハ唯一ナ
 ル者ニアラスシテ、事物ノ無數ナルカ如ク、本體モ亦無量ナリト論シ、唯一本體論ヲ
 駁シテ曰ク、若シ物心万境ハ唯一ノ本體ニ於ケル層性ナリトスルハ、決シテ無量
 無數ナル万境カ歷然トシテ現立スル所以ヲ知ルヘカラス、万境ノ斯ク現立セル所
 以ハ事物各自ニ其本體ヲ有スルニヨル、此無量ノ本體ノ表現セルモノハ即チ物心
 万境ナリト、斯ク二氏ノ反對ヲ來セシハ其ノ見解ノ表裏セルニ因ルナリ、スピノザ
 氏ハ万有ヲ概括シ、其中ニ普遍ナル道理ノ存スルヲ見テ、万有ハ唯一ノ本體ヨリ生
 セル者ナリトシ、ライプニツ氏ハ万有ヲ分解シ各自個々ノ本體アルヲ見テ、其本體
 ハ無量無數ナリト斷定セルモノナリ、換言セバ前者ハ万有ノ裏面ヨリ觀察ヲ下シ

後者ハ万有ノ表面ヨリ觀察ヲ下セルニヨル、

ライプニッツ氏ハ前論ノ如ク、事物各自ニ本體アルヲ主張シ、其體ハ事物ヲ組織セ
ル元子(Monads)ナリト論スルヲ以テ、氏ノ哲學ヲ稱シテ元子論(Monadology)ト云フ、此
元子ハ理學上ニテ元素ト稱スルモノ、如ク、一切万有皆此元子ヨリ成立スル者ナ
リ、然レ理學ノ元素ハ皆生活力ヲ有セサル死物ナルモ、此元子ハ生活力ヲ有スルノ
別アリ、氏ハ此元子ノ生活物タル所以ヲ證シテ曰ク、若シ元子ニシテ死物ナラシカ、
如何シテ吾人ノ如キ精神的的生活物ヲ成立セシムルヤ、世界ニ生活力ヲ有スルモノ
植物動物其數甚々多シ、人類ノ如キ高等ナル精神作用ヲ有スル者ノ如キハ、決シテ無
機無覺ノ死物ヨリ成立スヘカラス、然ルニ元子其物ハ自ラ活動スル勢力ヲ有スル
生活物ナルカ故ニ、自生自發シテ無機物ヨリ草木ノ如キ生活物ヲ現シ、進テ動物ト
ナリ更ニ發達シテ人類ノ如キ高等ナル精神作用ヲ有スルニ至ルヲ得ベキ者ナ
リ、
此ノ如ク氏ハ元子ヲ以テ生活力ヲ有スルモノナリト認定シ、此ノ元子ノ發達ニヨ
リテ吾人ノ如キ高等ナル精神的的生活物ヲ現生スルモノナレバ、其ノ各元子ノ中ニ

思想觀念ヲ有スルモノトナセリ、其論ニ曰ク、觀念ニ二種アリ、即チ吾人ノ意識内ニ
存スルモノト、外ニ存スルモノナリ、内ニ存スルモノヲ名クテ有意識觀念(Conscious
idea)ト云ヒ、外ニ存スル者ヲ名クテ無意識觀念(Unconscious idea)ト云フ、此二種共ニ元
子中ニアリ、例ヘハ人ノ熟睡セルキ、或ハ氣絶セルキニハ、全ク觀念ト稱スベキモノ
ナキカ如クナルモ、是レ單ニ有意識觀念ヲ現セザルノミ、無意識觀念ハ依然トシテ
存スルナリ、若シ無意識觀念モ有セサルモノトセハ、如何ニシテ有意識觀念ヲ再生
セシムルヲ得ルカ、而シテ此二種ノ觀念ハ判然タル階級區別ヲ有スルモノニア
ラズシテ、同一元子ノ發達ノ前後ニ應シテ其別ヲ示スノミ、此無意識觀念ノミヲ有
スルモノハ、未發達ノ元子ニシテ、之レニヨリテ組織セラレ、モノハ金石等ノ無機
物ナリ、此元子進ミテ有意識觀念ヲ有スル其程度ニ從ヒテ、草木禽獸乃至人類ノ別
ヲ生スルナリ、故ニ如何ナル元子モ皆多少ノ觀念ヲ有スルモノナレバ、生活物タル
ヤ明ナリ、而シテ物心二者ハ此、生活的元子ヨリ成立セルモノナレハ、我肉體ヲ組織
スル元子モ、万有ヲ組織スル元子モ皆同一ニ生活及精神ヲ有スルモノナラサルヘ
カラスト、是レ氏ノ元子論ノ理學上ノ元素ト異ナル所以ナリ、

是ニ於テ氏ノ元子論ニ向ヒテ一ノ疑問ノ生スルアリ、即チ若シ元子ヲ以テ悉ク生活ヲ有シ觀念ヲ有スルモノトセハ、如何ニシテ目前ノ物質ノ如キ無生活無意識ノモノヲ現見スルカノ問題ナリ、氏ハ此問題ヲ説明スルカ爲メニ觀念ヲ分類シテ左圖ノ如クニセリ、



一物ヲ見テ其全躰ヲ知ルヲ判定ト云ヒ、知ルヲ能ハサルヲ不判定ト云フ、又全躰ヲ見テ其部分ヲ知ルヲ明瞭ト云ヒ、知ルヲ能ハサルヲ不明瞭ト云フ、其部分ヲ見テ部分ノ部分ヲ知ルヲ十全ト云ヒ、知ルヲ能ハサルヲ不十全ト云フ、此判定明瞭等ノ觀念ハ其躰完全ニシテ能作用ナリ、不判定不明瞭等ノ觀念ハ不完全ニシテ所作用ナリ、人類ノ觀念ノ如キハ最モ明瞭完全ニシテ、最モ高尙ナル能作用ヲ有シ、動物ハ人

類ヨリ一段下等ニ位スルヲ以テ、其觀念モ一段不完全ニシテ、其能作用モ一段微弱ナリ、草木ニ至リテハ一層甚シ、無機物ニ至リテハ全ク、不完全ニシテ、且ツ全ク所作用ナリ、物心ヲ比較シテ之レヲ論セバ、物ハ不完全ナル觀念的元子ニヨリテ成立シ、心ハ完全ナル觀念的元子ニヨリテ成立スルモノナリ、心中ニテモ意識以內ニ存スルモノハ完全ニシテ、以外ニ存スルモノハ不完全ナリ、凡テ不完全ナルモノハ他ノ爲ニ制セラレ、自動自由ノ力ヲ失ヒ、全ク所作用ノ状態ヲ現スルナリ、是ヲ名ケテ物質性ト云フ、

此物質性ハ元子ノ實躰ニ固着セル性情ニシテ、觀念ノ不明瞭ナルモノニ外ナラス、故ニ若シ其自動自發ノ力ニヨリテ次第ニ發達スレハ、純然タル觀念性能作用的ノ状態ニ達スルモノナリ、此物質性ノ多量ヲ有スルモノヲ名ケテ物質ト云フ、植物動物人類等モ皆物質ト同一ノ元子ヨリ成立スルモ、其各種ノ別アルハ前ニモ言ヘルカ如ク、其發達ノ程度ニヨリテ然ルナリ、此ノ如ク物心二者ノ極ヲ同等同一ノ元子ニ販シ、發達上ヨリ差別ヲ論シタルハ、ライブニツ氏ノ論ノスピノザ氏ニ反對スル所ナリ、

氏ノ説ニヨルハ万有ノ本體ト、吾人ノ感覺上ニ現スルモノヲ云フニアラス、感覺上ノ事物ヲ組織セル無數ノ元子ヲ云フナリ、故ニ吾人ハ其本體ヲ見ントスルモ、感覺力ノ不完全ナルカ爲メニ之ヲ見ルヲ能ハズ、又事物ハ無數ノ元子ヨリ成立セルモノナルモ、吾人之ヲ見テ一物體ナリト認定スルハ、亦我感覺力ノ不完全ナルニヨルモノナリ、例セバ銀河ノ如キハ、吾人ノ感覺ニヨルハ一物體ノ如ク見ユルモ、實際望遠鏡ニヨリテ見ルハ、無量無數ノ星點ヨリ成立スルヲ知ルヘシト、故ニ氏ノ万有ノ實體ヲ論スルハ、唯一實體論ニアラスシテ無數實體論ト謂フベシ、且ツ氏カ元子ヲ以テ生活力ヲ有セルモノナリト論定セルハ、當時盛ニ學者間ニ行ハレタル唯物主義及經驗主義ニ反對セシニヨル、蓋シ氏ノ意若シ唯物論者及經驗學派ノ如ク、元素ヲ以テ無機ノ死物トナシ、精神作用ノ如キモ無機元素ノ配合ニヨルトセバ、是レ死物ヨリ活物ヲ生スル理ナリ、死ヨリ活ヲ生スルハ、無ヨリ有ヲ生スルト云フニ異ナラス、是豈論理ノ許ス所ナランヤ、故ニ氏ハ元子ヲ解シテ活物トナセリ、又チカルト氏及ヒスピノザ氏ハ物心二者ノ並行對立ヲ論シ、全ク其性ヲ異ニセラルモノトナセシモ、ライプニツ氏ハ此二者ハ同性ノ元子ヨリ成立スルモノトナシ、

唯元子發達ノ度ニ應シテ物心ノ別アルナリト論シ、前二氏ノ會通スルヲ能ハサル物心ノ關係ヲ明示シタルハ氏ノ卓見ト謂フベシ、氏ハ元子ノ發達ヲ論スルニ當リテ三種ノ原則ヲ立テ、説明ヲ下セリ、第一ヲ必定ノ道理ト云フ、必定ノ道理トハ總テ如何ナル事物ト雖モ、決シテ必然ノ理由原因ナクシテ現存生起スルヲ能ハズ、其一變一化必ス然ルヘキ必然ノ道理アリテ存スト云フモノ是レナリ、是レ數學的論法ナリ、第二ヲ連續ト云フ、連續トハ如何ナル事物ト雖モ其變化ヲナスニ突然其性質ヲ變シ、其關係ヲ異ニスルヲ能ハズ、必ス其間ニ間斷ナク連續シタル一脉ノ關係順次ニヨリテ發達スルヲ云フ、是レ第一原理タル必定ノ道理ヨリ派生セル原理ナリ、何者若シ事物ノ變化スルニ其各段連續セサルモノナラバ、其間ニ一貫ノ道理ナカルベキモ、苟モ道理アレハ必ズ連續セサルベカラズ、第三ヲ異同ト云フ、異同トハ如何ナル事物ト雖モ二個以上ノ事物ハ全ク些少ノ差異ナシトスルヲ能ハズ、必ズ幾分カノ異同アルモノナリ、例ヘハ二個以上ノモノニシテ其躰同一ナリトスルモ、時間上或ハ空間上ニテハ必ズ差異アルベシ、決シテ絶對的同一ナルモノアルヘカラス、此原理モ第一原理アルニヨルモノナリ、

氏ハ此三種ノ原則ニヨリテ元子論ヲ證明セリ、凡ソ事物ノ現存スルニハ必定ノ道理ニヨルモノニシテ、其發達スルニハ間斷ナク連續スルモノナリ、且ツ其發達ノ程度異ナルニ從テ種々ノ差別ヲ生スルモノナリ、而シテ元子各個ハ皆獨立シタル觀念性ノ躰ニシテ、實ニ各個一種ノ小世界ナリ、其中ニ自發自動ノ作用ヲ有シ、知識思想ノ原形ヲ有シ、漸ク發達シテ生活作用感覺作用精神作用等ヲ表現スルモノナリ、故ニ其發達ハ理學上ニ説クカ如キ、引力拒力集散分合ノ器械的作用ニヨルモノニアラス、換言スレバ外部ノ關係ニヨリテ發達スルニアラスシテ、内部ノ自發自動作用ニヨリテ發達スルナリ、

斯ク氏ハ各元子ヲ以テ獨立自由ノモノトナシ、他元子ノ關係ヲ有セザルモノトナスルハ、忽チ此ニ一ノ疑問アリテ起ル、即チ各元子ノ集合團結シテ一個ノ物件、或ハ一個人ノ精神ヲ組織スルハ如何、此疑問ハ氏モ説明ニ苦メリ、而シテ強テ其説明ヲナスニ當リテハ、神ヲ立テ、各元子ヲ契合スル作用ハ其ノ媒介ノ力ナリトシ、即チ神ノ前定スル所ナリトナセリ、此ノ如ク神ヲ立テ、總方有テ其配下ニ屬セシメタルハ、デカルト氏ト同一ナリ、然レモ其配下ニ屬スル所以、即チ神ト有テ關係ヲ論

スルニ至リテハ大ニ異ナレリ、デカルト氏ハ物心二者ヲ契合スルモノハ神ニシテ、其契合ハ時々刻々神ノ媒介アルニヨルト論定セルモ、ライブニツ氏ハ其契合ハ太古ニアリテ神ノ前定スル所ナリト云フ、此前定説ハ氏ノ形而上學及宗教哲學ノ根據ニシテ、氏ガ神ノ存在ヲ證明スルモ此前定説ニヨルナリ、

氏曰ク、凡ソ吾人ノ思想中ニ於テ最モ明瞭ニシテ、且ツ確實ナルモノハ我身躰ノ存在ニ如クモノナシ、之レト同様ニ明瞭ニシテ、且ツ確實ナルモノハ神ノ存在ナリ、其存在ハ恰モ數學上ノ原則ニ於テ、一ト一ヲ合スレハ二トナリ、直線ハ曲線ヨリ短カシト云フカ如ク、決シテ疑フヘカラサルモノナリ、故ニ神ノ實在ヲ證スルニハ世間一般ニ用フル論據ニテ充分ナルモ、更ニ步ヲ進メテ其不足ヲ補フルハ、其實在ハ一層明瞭ナラン、今之ヲ證スルニ二方アリ、一ハ先天的證據(理論上)ニシテ、一ハ後天的證據(實際上)ナリ、

先天的證據トハデカルト氏ノ有神説ノ不充分ナルヲ見テ、更ニ其上ニ一步ヲ進メタルモノナリ、デカルト氏曰ク、吾人ノ思想中ニ於テ最モ明瞭ナルモノハ神ノ觀念ニ如クモノナシ、故ニ神ノ實在ハ決シテ疑フヘカラズト、ライブニツ氏此説ヲ評シ

ヲ曰ク、其說論理ニ背反スルモノニアラサルモ、未タ充分ナル論證ヲ有スルモノニアラズ、何者吾人ノ思想中ニハ果シテ神ノ觀念ヲ有スルカ否、又此觀念ハ吾人ニ具有セリトスルモ、其觀念ハ果シテ道理ニ合スルモノナルカ否、又吾人人類中ニハ其觀念ニ反對セル思想ヲ有セザルモノナルヤ否等ノ問題ヲ研究セサルベカラズ、若シ苟モ神ノ觀念ニ反對スルモノアルハ、神ノ存在ヲ確實ナリトスルヲ能ハズ、然ルニデカルト氏ハ此點迄ヲ論究セズシテ、直チニ有神ノ斷定ヲ降シタルモノナレバ、其論證モ確實ナル數理的證明法ト云フベカラズト、

是ニ於テ兩氏ノ論其方向ヲ異ニスルニ至レリ、先ツデカルト氏ハ神ニ關スル觀念ハ、吾人ノ意識中ニ有スル一種ノ智識ナルカ如ク考フレモ、ライブニツ氏ハ我智識全躰ノ性質ヨリ生スルモノ、如ク論セリ、即チ前者ハ觀念一部分ニ就キテ神ノ實在ヲ證スルモ、後者ハ觀念ノ全躰ニ就キテ論スルトノ別アリ、若シ吾人ノ觀念中ニ神ニ關スル思想ナシトセバ、吾人ノ思想中ニ恒久必然ノ真理アリテ存スルノ理ハ如何解スヘキヤ、然ルニ吾人ノ思想中ニ必要ノ真理ヲ具有スルハ、神ノ思想ヨリ來ルモノニシテ、神ノ思想ハ必然ノ真理ヨリ成立スルモノナリ、故ニ知ルベシ吾人ノ

思想中ニ明瞭ナル眞實ナル且ツ恒久ナル觀念ノ存スルヲ以テ、神ノ實在ノ疑フベカラサルヲ、

此恒久必然ノ真理ヲ解釋スルニ、デカルト氏トライブニツ氏トハ其意見ヲ異ニセリ、前者ハ以爲ラク吾人ノ思想中ニ存スル恒久不變ノ真理ナルモノハ、神ノ意志ニヨリテ隨意ニ定メテ吾人ニ賦與セシモノナリト、然レモ後者ハ之ヲ駁シテ曰ク、若シ眞理ニシテデカルト氏ノ論スルカ如ク、神意ノ專斷ニヨリテ所定セラレシモノナリトセシカ、然ルモハ眞理ハ偶然ナルモノニシテ、必然ノ理法ト云フベカラズ、何トナレバ眞理ハ神意ニヨリテ變スルモノトセハ、現今吾人ノ思想中ニ存スル眞理モ神意ノ如何ニヨリテ變更セラレ、「アアルヘシ、或ハ現今ノ以テ眞理ナリトスル所ノモノ、他日眞理ニアラズトナルヲアルベシ、此ノ如キ眞理ハ決シテ必然不變ト云フヘカラス、故ニ眞理ナルモノハ如何ニ神ハ全智全能ナレハトテ決シテ變更スルヲ能ハザルモノナルヘシ、加之ノミナラズ、神ノ心意ハ此必然不變ノ眞理ノ總和ニシテ、且ツ其源泉ナルヘシ、此ノ如ク論シ來リテライブニツ氏ハ必然不變ノ眞理ハ、吾人思想ノ本性ニシテ、其本源ハ神ノ開發的心意中ニ實在セルモノトナシ、以

宗 教 哲 學

テ世ノ客觀的實在ヲ唱フル有神論者ノ説ヲ一層深ク論定シタルナリ、
 眞理ヲ以テ必然ナルモノナリト論定セルハ、スピノザ氏トライブニツ氏ト更ニ異
 ナル所ナキモ、スピノザ氏ハ万有ノ本體即チ神ナリト論シテ、所謂万有神教ヲ主張
 セシモライブニツ氏ハ万有ノ本體ハ各個獨立シテ存スルモノナレド、是ヲ創造前
 定セルモノハ、神ニシテ、神ハ万有ノ外ニ存在スルモノナリト云ヒテ、客觀上神ノ實
 在ヲ論セリ(以上述ヘタルハ即チ先天的證據論ナリ)、
 次ニ後天的證據トハ、外界ノ事物ヲ推究シテ神ノ實在セルヲ證明セルヲ云フ、吾
 人ハ外界ノ事物ヲ見ルニ種々ナル變化ヲナシテ、其上ニ一定ノ法則ナク、偶然ニ成
 立シ、偶然ニ變化スルモノ、如キ觀ヲ呈セリ、然レモ万般ノ現象ハ皆必定ノ道理ニ
 ヲリテ成立シ變化スルモノナレド、變遷常ナキ事物ト雖モ、之ヲ推究シ觀察スルモ
 ハ、必ス必定ノ道理ノ存スルヲ發見スベシ、此必定ノ道理ヲ推究シ去ルモ、終ニ
 一ノ大本源タルモノニ皈ス、此大本源タルモノハ無限絶對ノ體ニシテ即チ神ナリ、
 凡ソ吾人ハ一事物ノ成立スルヲ見ルモ、必ス之ガ原因タルモノ、存スルヲ知ル、
 此ノ原因ノ原因ヲ推究スルモ、其局終ニ最始ノ原因ナルモノアルヲ考ヘサルベ

宗 教 哲 學

カラズ、此最始ノ原因タルモノハ、必ス無始ヨリ成立シ、絶對ニシテ無限ナルモノナ
 ラサルベカラズ、此無限絶對ノモノハ即チ神ナリ、而シテ吾人ハ原因結果ノ理法ニ
 ヲリテ神ノ存在ヲ知ルヲ得ルモ、此原因結果ノ理法ハ、有形上ニ成立スルモノカ、
 或ハ無形上ニ成立スルモノカ、又物質的ノモノカ觀念的ノモノカト云フニ、勿論無
 形ニシテ觀念的ノモノナリ、万有ハ皆吾人ノ智識ニヨリテ成立シ、觀念ニヨリテ現
 ハル、モノニシテ、若シ智識觀念ヲ除去スルモ、万有ハ成立スルヲ能ハサルモノ
 ナリ、此智識ト云ヒ觀念ト云フモノハ、之ヲ探究スルモ、智識觀念ヨリ成立セル無
 限絶對ノモノニ皈スルヨリ視レバ、神ハ無限ノ智識、無限ノ觀念ヨリ成立スルモノ
 ナルヲ知ルヘシ、
 又神ノ實在ヲ證スル一例ヲ示サバ、外界ニ存スル事物ハ各個獨立シテ一致セルモ
 ノニハアラサルモ、斯ク相互ニ契合調和スルニハ、是ガ原因タルモノナクバアルベ
 カラズ、此原因ハ必ズ万物ヲ調和スル力ヲ有スルモノナレド、ソノ万物ハ秩序整然
 トシテ成立スルナレ、此契合調和ノ原因トハ即チ神ナリ(以上後天的證據論ナリ)、
 此ノ如ク氏ハ先天的證據論ニ於テハ、吾人ノ思想ニ考ヘ、觀念ノ本源ニ溯リテ、天神

ノ實在ヲ證明シ、後天的證據論ニ於テハ、外界ノ事物ヲ推究シ、其成立スル所以ヲ探
 ヲテ神ノ實在ヲ論定セリ、氏ノ宗教論ハ道德學ニ最モ必要ナルノミナラズ、形而上
 學ニモ亦必要ナルモノナリ、而シテ天神ノ實在ヲ客觀的ニ證明スルハ近年獨逸ノ
 哲學者ロッチエ氏ノ所論之ニ同シ、而シテ其論實ニライプニッツ氏ヲ繼述セルモノナ
 リ、
 神ノ實在ニ關シテハ先天的證明ト、後天的證明トニヨリテ明白ナリトスルモ、猶ホ
 其ノ神ハ如何ニシテ成立セルカ、又其性質ハ如何ナルモノカヲ辨明セザルベカラ
 ズ、此神ノ性質ヲ論スルニ至リテハ、ライプニッツ氏ハスピノザ氏ト同一ノ點ナキニ
 ハアラザルモ、亦大ニ反對セル點ヲ有セリ、ライプニッツ氏ハ以爲ラク神ハ万有ノ本
 源ニシテ無限ノ本體ナリ、此無限ノ體中ニハ一切ノ勢力、一切ノ智識、一切ノ意志ヲ
 具有セルモノナリ、此無限ノ勢力ハ万有ヲ目的トシ、此無限ノ智慧ハ真理ヲ目的ト
 シ、此無限ノ意志ハ善行ヲ目的トシテ、天地宇宙ヲ組織スルニ至レリ、故ニ神ノ性質
 中ニハ吾人ニ固有セル一切ノ精神モ、諸元子ニ固有セル一切ノ勢力モ、悉ク具有セ
 ザルハナク、其勢力能造即チ神ノ體ニアリテハ無限ナルモ、所造ノ元子ニアリテハ

(八四)

有限ナリ、不完ナリ、而シテ其元子ノ有限不完ナルハ、其發達ノ程度低クシテ、其有ス
 ル觀念ノ不明不完ナルニヨルノミ、故ニ元子ハ何程不完有限ナルモ、其本源ナル神
 ハ完全無限ナラザルヘカラス、
 凡ソ神ノ體タルヤ、完全ノ意志、無限ノ智識ヨリ成立シテ、過去現在未來ヲ洞察シ、天
 地方有ヲ照見スル力ヲ有スルモノナレハ、神ハ此世界ヲ創造スルモ、既ニ未來億萬
 世ノ最後ノ目的迄ヲ定メタルモノナルヘシ、故ニ神ハ此世界ノ最始ノ原因ニシテ、
 又最後ノ原因ナリ、最始ノ原因タル所以ハ、神ハ此ノ世界ノ創造者ナルカ故ニシテ
 最後ノ原因タル所以ハ、神ハ此世界ヲ創造スルモ、既ニ一定ノ目的ヲ立テ、此目的
 ニ達セシメンカ爲ニ世界ヲシテ發達セシムルモノナレハナリ、而シテ万有ハ神ノ
 所定ニ隨ヒテ漸々進化スルモノナレハ、所造ノ万有ハ能造ノ神ニ向ヒテ進ミ、能造
 ノ神ハ所造ノ万有ノ中心ニアリテ万有ニ遍在スルモノナリ、故ニ神ハ世界万有ノ
 初因ニシテ、又終因ナリト云フナリ、此點ハ氏ノ道德學上及形而上學ニ關シテハ大
 切ナル部分ニシテ、氏ノ哲學ノ骨子トモ稱スヘキモノナリ、若シ氏ノ哲學中ヨリ此
 說ヲ削去スルモハ、其哲學ハ完ク其性質ヲ變スルニ至ラン、又此點ヲ以テ氏ノ哲學

(八五)

トスピノザ氏ト大ニ異ナル所以ヲ證スルヲ得ベシ、
 氏ハ又世界ノ成立セシ所以ヲ論シテ曰ク神ノ本體タルヤ統一無雜ニシテ而モ無
 量ノ性徳ヲ有スルモノナリ、此徳内ニ充滿シ、溢レテ外部ニ發散シ、無數ノ元子ト成
 リ、此元子ノ發達スルニ隨ヒ、相互ニ契合シ、以テ宇宙ノ万象ヲ組織スルニ至レリ、而
 シテ此万象モ又發達シテ漸々高等ニ進ミ、次第ニ神ニ近クモノナリ、故ニ神ハ世界
 ノ創造者タルモ、世間ノ信認セルカ如ク、神意ノ專斷自恣ニヨリテ創造スル大工的
 ノモノニハアラス、假令神ハ將來ヲ預定セルモノナルモ、皆其性徳ノ發生セシモノ
 ニ外ナラサルナリト、此點ヨリ見ルハ氏ノ所論ハ彼ノスピノザ氏ノ所論ト一致
 セリ、何トナレハスピノザ氏ハ神ハ世界ノ本體ニシテ、万物ハ神ノ屬性ナリト論シ、ラ氏ハ
 万象ノ羅列セルハ神ノ性徳發散シテ現示シタルモノナリト論スルヲ以テナリ、然
 レ後者ハ神ハ宇宙ノ外ニ存スルモノニアラストシ、前者ハ神ハ宇宙ノ外部ニ存在
 シ、以テ万有ヲ總括スルモノナリト論スル點ニ至リテハ、互ニ反對セリ、此ノ如クラ
 イブニツ氏ノスピノザ氏ニ反對セルハ、氏ノ意耶蘇教ノ天神說ヲ成立セントスル
 ニアレハナリ、蓋シ氏以前ノ學者即チブニツ氏ノスピノザ氏等ハ皆神ヲ解釋スル

ニ哲學風ヲ以テシ、万有神教ノ主義ヲ取リシモ、氏ハ之ニ反對ヲ試ミタレバナリ、
 前ニ述ヘタルカ如ク神ハ無量ノ性徳ヲ有シ、無限ノ智識ヲ有スルモノナレハ、世界
 ヲ創造スルニモ、單ニ此一小世界ヲ造リシノミニテハ、無限ノ性徳ヲ有スルモノト
 スルヲ能ハザルヲ以テ、氏ハ之ヲ辨シテ曰ク、神ハ無量ノ智識ヲ有シテ、無數ノ世界
 ヲ創造スルノ能力ヲ有スルモノナレハ、神ノ創造セル世界ノ此世界ニ限ル所以ハ、
 無數ノ世界中最モ道理ニ適シ、完全ニ近キモノヲ撰ミテ此世界ヲ造ルニ至リシ故
 ナリ、而シテ其創造ハスピノザ氏ノ論スルカ如ク、万有必然ノ理ニ基キタルモノニ
 アラスシテ、天神固有ノ自由ノ能力ニ由レルモノナリト云フ、此自由ノ能力トハ神
 ノ意志ニシテ、其意志ハ智識ニヨリテ生シタルモノナレバ、智識ニヨリテ是非ヲ審
 判シ、未來永遠ヲ前定シテ此世界ヲ創造セルモノナリ、故ニ神ハ世界最始ノ原因ニ
 シテ又最後ノ原因ナリトハ云フナリ、
 此ク論スルハ、神ハ其意志ノ自由ニ任シ、自恣專斷ニ此世界ノ規律ヲ變更シ、昨日
 ノ真理ハ今日ノ不真理トスルヲ得ルガ如クナルモ、如何ニ神意ノ自由ニ依リテ
 創造セラレタル世界ナリト雖モ、決シテ其意ニヨリテ恣ニ變更スルヲ能ハズ、何故

トナレバ前ニモ述タルカ如ク、神意ノ自由トハ智識ヲ離レテ別ニ成立スル意志ニ
アラシテ、智識ニ於テ道理ナリト許ス限リ、其意志ヲ自由ニスルヲ得ルモノナ
レハ決シテ智識ノ認メテ真理ナリトスルモノニ反背シテ、自由作用ヲ現呈スル道
理ナカルヘシ、故ニ今日世界ニ成立セル必然ノ規律ハ、皆神ノ智識ニテ道理ナリト
認定シタル者ナレバ、神カ其中間ニ立テ入りテ之ヲ變更セザルヤ明カナリト、此論
點ハスピノザ氏ノ因果必然論ニ一致スル所ナリ、

今更ニライフニツ氏ノ自由意志論ヲ説明スルニ、若シ神ニシテ此世界ヲ創造スル
ルハ、道理上真理ナリト認定シタル世界ノ規律ヲ中途ニテ變更スルカ如キヲ爲
スモノトセンカ、神ハ隨意ニ道理ヲ變シテ不道理トナスモノニシテ、神ハ一切ノ智
識思想ヲ有スル完全無欠ノ躰ナリト爲スト能ハス、單ニ神ヲシテ完全無欠ノモノ
ナリト爲スト能ハサルノミナラス、社會上ノ道德モ之レト同時ニ成立スルヲ能ハ
ス、又形而上學形而下學ノ別ナク、一切ノ學術モ成立スルヲ能ハサルベシ、果シテ然
ラバ此世界ハ一定不變ノ真理ヲ有セサル暗黒世界トナルヘシ、故ニ神ノ意志ハ氣
儘勝手ノ自由意志ニアラスシテ、智識道理ニ本キタル自由意志ナラサルヘカラス、

果シテ然ラハ神ハ其創造ノ時一タヒ定メタル宇宙ノ規律ヲ變更セサルヲ論ヲ俟
タズシテ知ルヘシ、此ノ如ク智識ト意思トヲ契合シテ自由意志ヲ解釋セルハ、氏ノ
哲學ノ長所ニシテ、世間普通自由意志論者ト其見ヲ異ニセル點ナリ、
之ヲ要スルニライフニツ氏ノ所説ハ、スピノザ氏ノ所説ニ反對ヲ試ミタルモノニ
シテ、スピノザ氏ハ因果必然ノ規律ヲ以テ万有ノ規律トシ、神モ此規律ノ外ニ立チ
テ其作用ヲ呈スルヲ能ハスト論シ、ライフニツ氏ハ万有ノ規律ト神意トヲ區別シ、
神ノ意志ハ自由ナルモノニシテ、其自由作用ニヨリテ万有ノ規律ヲ現出シタルナ
リト論セリ、此點ヨリ見ルルハ二氏ノ所説ハ互ニ反對セルヤ明ナリ、然レモ裏面ヨ
リ觀察スルトキハ、同一ノ所論タルヲ見ル、スピノザ氏ハ物心万有ハ皆神ノ屬性ニ
シテ、其神躰ノ開發シテ現示シタルモノハ即、物心万有ナリト云ヒ、ライフニツ氏ハ
一切ノ万有ハ最始ノ原因即、神躰中ノ諸徳ノ發散シテ表現セルモノナリト云フナ
リ、此ノ如ク万有ヲ以テ唯一ノ本躰ニ皈スル點ニ至リテハ二氏互ニ一致スルヲ得
得ヘシ、又スピノザ氏ハ万有ノ規律ハ原因結果ノ必然不易ノ規律ナリト論シ、ライ
フニツ氏ハ其規律ヲ神ノ意志ニ歸セシモ、神ハ中間ニアリテ其規律ヲ變更スルヲ

ナシト論セシヲ以テ、此世界ハ唯一ノ理法ニヨリテ成立スト云フニ至レリ、是レニ
 氏ノ互ニ一致セザルヲ得サル點ナリ、畢竟ライプニツ氏ノ所説ハスピノザ氏ノ所
 説ノ方向ヲ轉シテ立論セシモノニ外ナラザルナリ、
 更ニ以上ノ異點ノ起リシ所以ヲ探ルニ、スピノザ氏ハ神ハ宇宙ノ外ニ存スルモノ
 ニアラズシテ、宇宙ノ内部ニ存スルモノナリ、神ヲ宇宙ノ外ニ立ルカ如キハ、通俗淺
 近ノ考ニテ取ルニ足ラサルナリト論セシモ、ライプニツ氏ハ之ニ反對シ、通常耶蘇
 教ニ於テ論スルガ如ク、神ヲ外界ニ立テ、之ヲ哲學上ヨリ解釋セリ、是兩氏ノ説ノ
 其見解ヲ異ニセル所以ナリ、是レヨリ疑問ヲ掲ケテ神ト世界トノ關係ヲ開示セシ
 トスルニ、先ツライプニツ氏ハ神ヲ外界ニ立テタルモ、其外界ニ存スル神ハ如何ニ
 シテ此世界ト關係ヲ有スルヤト云フニ、氏ハ之ニ答ヘテ、神ハ最上ノ智、無限ノ力ヲ
 有シ、以テ此世界ヲ創造セリト云フ、然ラハ神ハ無限ノ智力ヲ以テ、何故ニ此有限ノ
 世界ヲ造リシヤト問ヘハ、氏ハ神ハ無限ノ能力ヲ以テ無限ノ世界ヲ造ルヲ得ル
 モ、其無限ノ世界中實際上最モ善且美ニシテ、最モ道理ニ適當セルモノヲ撰ヒテ、此
 世界ヲ造リ出スニ至レリト云フ、是レライプニツ氏ノ世界創造説ナリ、果シテ氏ノ

所説ノ如ク、此世界ハ最モ完全ニシテ道理ニ適當セルモノナリトセハ、茲ニ一個ノ
 疑問アリ、何ゾヤ曰ク、神ハ最道理ニ適セル世界ヲ造リナカラ、何故ニ世界中ニ災害
 禍亂罪惡等ヲ滿タセルヤ、此疑問ヲ通俗ノ宗教ニテ説明スルハ、神ハ善ヲ賞シ惡
 ヲ罰スルノ最上權ヲ有スルモノナレハ、其賞罰ノ爲メニ此ノ如キ禍害ヲ設ケリ、元
 來神ハ人類ニ賦與スルニ自由意志ヲ以テシ、自在ニ善ヲ取り惡ヲ捨ルヲ得セシ
 メタリ、故ニ人類ハ其天賦ノ良心ニ基キテ善ヲ取り惡ヲ捨ルハ其本分ナレ、其本
 分ヲ忘レ神意ニ背キテ罪惡ノ所業ヲ營ムニヨリテ、神ハ是ヲ懲罰スルニ禍害等ヲ
 以テスト云フベシ、此自由意志論ハ耶蘇教ニテハ最モ大切ナル點ナリ、何トナレバ
 意志ニシテ自由ニ善惡ヲ撰擇スルヲ能ハサルモノトセハ、我人ハ外界ノ境遇如何
 ニヨリ、知ラズ職ラズシテ、或ハ善ヲ爲シ或ハ惡ヲ爲スモ、毫モ我意志ノ關スル所ニ
 アラサレハ神ハ是ヲ罰スルノ理アルヘカラス、然ルニ神カ之ヲ罰スルハ神ハ人類
 ニ自在ニ善ヲナシ得ヘキ意志ヲ賦與セルニ、其意志ニ反シテ惡ヲナシタルニヨリ
 テ之ヲ責ムルナリ、故ニ耶蘇教ニテハ此自由意志論ヲ主張セサルヲ得ス、
 然レモ上ニ述ベタル通俗ノ自由意志論ニテハ、未タ充分ニ説明セルモノトスルヲ

宗 教 哲 學

能ハス、又此説明ハ道理上ヨリ解釋セシモノニアラス、且、ライプニッツ氏ノ第一原理ニモ背反セリ、其第一原理ハ必定ノ道理ヲ云フ、先キニ述ヘタルカ如シ、凡ソ事物ノ起ルヤ必ス然ルベキ必然ノ道理ニヨリテ起ルモノナリ、然ルニ通俗的ノ説明ハ此必然ノ道理ヲ説明セシモノニアラス、ライプニッツ氏ハ此必然ノ道理ヲ論究シテ、世界ノ千差万別ノ事物ノ互ニ相契合調和スルハ、神ノ前定媒介アルニヨルトナス、果シテ然ラハ神ハ何ソノ必要アリテ、其調和中ニ罪惡ノ如キモノヲ存シ置キシヤ、必ズ然ルヘキ道理ナカルヘカラス、今其説明ヲ述フルニ先チテ、氏ノ自由意志論ヲ述ベサルヲ得ス、

氏ノ謂ハユル自由意志トハ、單ニ意志ハ自由ナリト云フニアラスシテ、道理ニ基キテ論シタルモノナリ、故ニ通俗ノ所説トハ大ニ異ナレリ、通常世人ノ考ニテハ意志ハ道理ニ基カズシテ、自由ニ判斷シ勝手ニ取捨スルヲ得ルモノナリトスルモ、氏ハ然ラズ、其ノ意ニヨルニ神ハ其ノ自由ノ意志ヲ以テ世界ヲ創造セシモノナレド、充分道理ノ許ス限りニ於テ此世界ヲ創造セリ、假令神ノ自由意志ト雖モ、道理ヲ離レテ成立スルモノニアラス、故ニ吾人ノ自由意志モ決シテ道理ヲ離レテ自由ナル

宗 教 哲 學

ニアラス、例ヘハ茲ニ甲乙ノ二事情アリトセンカ、意志ハ二者ノ中道理ノ完全セル方向ニ向ヒテ傾動スルモノニシテ、通俗ノ考ノ如ク勝手次第ニ方向ヲ定ルモノニアラス、若シ甲乙二者ノ間ニ些少ノ差ナク、互ニ相平均セルモノアリトセンカ、其時意志ハ何レノ方向ヲ取ルモノナルヤト云フニ此ノ如キ場合ハ此世界中ニハ決シテ存スルモノニアラス、若シ存ストスルモ單ニ想像ニ止マリテ實際上得テ求ムベキモノニアラズト云フ、

故ニ自由意志トハ外界ノ制裁ヲ受クルヲナク、唯道理ニテ判斷セシ所ノ方向ニ其意志ノ發動ヲ見ルノ謂ナリ、而シテ此意志ハ或ハ意識以內ニ起ルヲアリ、或ハ意識以外ニ起ルヲアリ、換言セバ自ラ覺知シテ有意的ニ起ルモノト、覺知セズシテ無意的ニ起ルモノトアリ、吾人カ或ル一事ヲ斷行セントスルモハ、千思万考シテ以テ其事ヲ決定スルモノナリ、其千思万考ノ中ニテ諸事情ノ輕重ヲ比較シ、其ノ重キ方ニ意志ノ作用ハ傾向スルモノニシテ、皆道理ノ結果ヨリ生スルモノナリ、

吾人ノ一事ヲ決定スルモハニ起ル所ノ意志ハ皆道理ヲ離レテ起ルモノ、如ク見ユレド、其實有意無意ニ關セズ、必ス道理ニ基キテ起ルモノナリ、然ルニ之ヲ道理ニ依

ラズシテ起ルモノナリトスルハ、恰モ羅針盤ノ針ハ自ラ運轉スルヲ以テ、吾ハ自由ノ働キヲ有スルモノナリト思考シテ、磁氣ノ然ラシムル所以ヲ知ラサルカ如ク、吾人カ意志ノ作用ヲ見テ意志其者ノ自由ナリトスルハ、其意志外ニ道理ナルモノアリテ然ラシムルヲ知ラサルナリ、

之ニ對シテスピノザ氏ノ說アリ其說ハライプニツ氏ノ所論ニハ異ナルモ、大ニ類似セリ、曰ク、自由意志ナルモノハ必然ノ理法ニ從フノ自由ナリ、如何ナル意志ト雖モ、決シテ必然ノ理法ヲ離レテ作用ヲ呈スルヲ能ハス、然ルニ世人或ハ自由意志ナルモノハ、必然ノ理法ヲ離レテ作用ヲ呈スルヲ得ルモノナリトスルハ、恰モ石ヲ投スルニ石ハ其投セラレタル方向ニ走り、石自ラハ吾ニ自由ニ活動スルノ能力アリト思惟スルモ、其實地球ノ重力ト運動ノ法則トニ支配セラル、ヲ知ラサルカ如シト、是レ世人ノ自由意志ナルモノハ、必然ノ規律ニ檢束セラレサルモノナリト誤認セルヲ論駁シタルモノナリ、此ノ如ク兩氏ノ所說ハ相類似セリト雖モ、同一ノモノニハアラズ、其ノ異點ヲ示サハスピノザハ總万有ノ間ニ存スル必然ノ理法ニヨリテ作用ヲ呈スルモノナリト云フモ、ライプニツ氏ハ個々ノ元子互ニ獨立シテ他

元子ノ關係ヲ有スルモノニアラザレハ、其作用ヲ呈スルハ、其元子中ニ存スル道理ニヨルモノナリト云フ、以テ兩氏ノ說ノ同一ニアラサル所以ヲ知ルベシ、

又ライプニツ氏ハ世界ノ變化スル所以ヲ論シテ曰ク、此世界ノ變化シテ止マサル所以ノモノハ、各元子ノ自體ニ有スル自動自發ノ勢力ニヨリテ、自由ニ發達スルヨリ起ルモノニシテ、此元子ノ自由トハ更ニ他ノ事情ノ爲ニ檢束セラル、トナク、各元子内部ニ有スル獨立ノ規則ニ從ヒテ變スルノ謂ナリ、而シテ各元子ハ單ニ他ノ事情ノ檢束ヲ蒙ラサルノミナラス、之カ創造者タル神ノ意志ニ於テモ其規則ヲ左右スルヲ能ハサルモノナリ、何トナレハ神ハ各元子ヲ創造スル中ニ既ニ必定ノ道理ニヨリテ其規則ヲ前定セルモノナレハナリト、是レ氏ノ說ヲ天神前定說ト名クル所以ニシテ、此點ハ彼ノデガート氏ノ宇宙創造說ト異ナル所ナリ、デガート氏ハ神ハ時々刻々世界ノ事物ヲ制裁シ左右スルモノナリト說キシモ、ライプニツ氏ハ神ハ最上無限ノ知識ヲ有スルモノナレハ、此世界ヲ創造スルハ既ニ將來方々世ノ後ヲモ洞察シ、其間ノ變化ヲ創造ノ時ニ豫定シタルモノナリト論セリ、

畢竟ライプニツ氏ノ前定說ヲ唱フル所以ノモノハ神ノ解釋上ヨリ來リタルモノ

ナリ其故何ゾヤ氏ハ神ヲ解釋シテ最上ノ智無限ノ力ヲ有スルモノトスレバナリ、此最上ノ智無限ノ力ヲ以テ此世界ヲ創造セルモノナレバ中途ニシテ其規則ヲ變更スルガ如キトハアルベカラズ若シ神ニシテ中途ニ變更スルガ如キトアリトセシカ神ハ始メ世界ヲ造ルトニ万々世ノ後迄ヲ洞察シタルモノニアラスシテ極メテ不充分ノ作用ヲ爲シタルモノト云ハサルヘカラス果シテ然ラハ決シテ全智全能ノ神ト稱スルヲ得ズ然ルニ神ハ全智全能ニシテ最上ノ智無限ノ力ヲ以テ遠ク將來ヲ徹視シ其變化ヲ前定シ以テ此世界を創造セシモノナレハ決シテ中途ニ其規則ヲ變化左右スルノ理アルヘカラス又實際此ノ如キトナキナリト云フ此前定説ハ耶蘇教中ニテハ最モ解釋ニ困ム所ナリ

若シ果シテ氏ノ前定説ニシテ眞ナリトセンカ此世界中ニ邪惡暴戾詐欺殺害盜賊等ノ不正不良ノ存スルモ皆神ノ前定ナリトセサルベカラズ神ハ自ラ此ノ如キモノヲ創造ノ時ニ前定シテ是ニ刑罰ヲ加フルトハ何事ゾヤ且ツ其刑罰モ創造ノ時ニ前定セルモノナラサルヘカラスエトゾノ花園ニ於ケル談ノアノ洪水基督ノ降生及ヒ猶太人が驕言ヲ以テ基督ヲ十字架ニ戮殺セシメタルカ如キハ皆神ノ

前定ニ版セサルヲ得ス全智全能ノ神ニシテ何故ニ此ノ如キ理ニ合セサルノ所業ヲ前定セシヤ或ハ神ハ臆ニ此世界ヲ造リテ此ノ如キ所業ヲ現セシモノナルカ何レノ點ヨリ考察スルモ實ニ怪中ノ怪事ニシテ我人ノ疑團ヲ氷解スルヲ能ハス耶蘇教者ハ此疑難ヲ免レントテ自由意志ヲ唱ヘ神ノ始メテ人類ヲ造リシ中ニ自由意志ヲ賦與シテ善惡孰レヲ爲スカヲ試ミタリシカ其後人類ハ皆惡ニ流レシテ見テ神ハ或ハ勞動ヲ以テ罰シ或ハ洪水ヲ以テ罰セシナリト論スルモ其說前定説ト矛盾スルモノナリ且ツ神ニ全智全能アリト云ヘル解釋ニ合セサルモノナリ又通俗ノ宗教家ハ神ノ秘密不思議ヲ妄信シ神意ノアル所測リ知ルヘカラストナスモ是レ道理上ノ論ニアラス故ニ前定説ヨリ推スルハ如何ナル解釋ヲ用アルモ神ハ此世界ヲ造ルニ臆ヲ以テセリトノ批評ヲ免ルヲ能ハサルベシ

是レヨリ前ノ疑問ニ立チ歸リ此世界ハ神ノ最上ノ智無限ノ力ヲ以テ創造セル完全無缺ノ世界ナルニ其中ニ惡或ハ不幸ノ如キモノ存スルハ如何ナル所以ナルカヲ説明セントスルニライブニツ氏曰ク自由意志トハ單ニ意志ノ專斷ノ謂ニアラズシテ道理ニ基キテ自由ナルノ意ナレハ神ハ元來自由意志ヲ有スルモノナル

モ決シテ道理ヲ離レテ成立スルモノニアラズ而シテ此道理ニ基キテ創造セル世
 界中ニ何故ニ不幸邪惡ノ如キモノアルカト云フニ若シ世界ニシテ不幸邪惡ノ如
 キモノハ絶テナク純善純良ナル黄金世界ナリトセンカ其世界ハ果シテ不幸ナル
 蓋シ吾人ハ健康ヲ以テ幸福ナリトシテ是ヲ欲望スルモ若シ健康ニ反對スル疾
 病ノ如キ不幸ナキハ健康ハ幸福ナラサルヘシ凡ソ世間ノ事苦アリテ後ニ甘ア
 リ醜アリテ後ニ美アルニアラスヤ若シ此世界ハ果シテ無苦無惡ノ絶對善良ノ世
 界ナルハ我人ハ幸福ト稱スベキ觀念ヲ生セサルベシ且ツ又苦ト云ヒ樂ト云フ
 モ人智ノ程度生活ノ高下ニヨリテ異ナルモノニシテ決シテ一定ノ標準アルニア
 ラズ貧者ノ以テ愉快ナリトスルモノハ富者ノ苦痛トスルコトアリ智者ノ雅致アリ
 興味アリト嘆稱スルモノハ愚者ハ更ニ其味ヲ感セサルコトアリ若シ右等ノ論ヲ措
 テ之ヲ考フルニ世ノ進歩ニ不幸苦痛ノ必要ナルコトアリ人々ノ汲々トシテ善道ニ
 向ヒテ進ムハ苦痛其者ノ刺戟ニヨラサルハナシ人皆苦難ヲ厭フヲ以テ善道ヲ求
 ムルナリ之ヲ要スルニ此世界ニ苦惡ノ存スル所以ハ善ヲシテ發達セシメン爲ノ
 要具ナリト知ルヘシ蓋シアダムノエデンノ花園ニ於テ惡ヲ爲シタルモ此世界

ヲ進歩セシムルノ原因トナラタルモノナリト畢竟ライプニツ氏ノ主義ハ此不幸
 不善ノ世界ニアリテ飽マテ之ヲ幸福圓滿ノ世界ニ進達セシメントスル進取樂天
 主義ヲ有セリ之ニ反シテスピノザ氏ハ外界ノ欲念ヲ脫離シテ精神ノ自由ヲ求メ
 自然ニ厭世退守主義ニ傾ク風アリ蓋シライプニツ氏ハ其性質爽快ナル人ニシテ
 此世界ハ快樂ノ世界ナリト思ヒ厭世主義ヲ主張スルモノヲ評シテ曰ク隱退脫俗
 ナ好ムモノハ政治上ヨリ見ルモ社會上ヨリ見ルモ決シテ貴人ナリトスルコト能ハ
 ス又宗教上ヨリ見ルモ決シテ尊重スベキ人ニアラズ此ノ如キ人ハ此世界ノ不幸
 ナル點ノミヲ見テ未タ此世界ノ快樂ヲ見ル識力ヲ有セザルモノナリト云ヒテス
 ピノザ氏ニ反對セリ
 ライプニツ氏ハ此世界ニ罪惡ノ存スルハ此世界ヲシテ善ニ邁マシムルノ要具ナ
 リトスルモ尙ホ一ノ疑問アリ何ゾヤ曰ク吾人日常經驗スル所ニヨレハ惡人却テ
 善果ヲ得不正ノ人却テ幸福ヲ得善人ハ却テ罪禍ニカ、ルカ如キコトアルハ何故ナ
 ルヤ神ハ全智全能ナレバ決シテ此ノ如キコト爲スノ理ナシト氏ハ之ニ答ヘテ曰
 ク現前ノ短キ時間中ニ考フルハ善人ハ禍害ニ遇ヒ惡人ハ幸福ヲ僥倖スルカ如

宗 教 善 學

キ下ハナキニアラザルモ、哲學或ハ宗教等ニヨリテ永遠無窮ノ時間ノ上ニ是ヲ推究セハ此疑問忽チ氷解スルコトヲ得ベシト、然レモ現在ノ狀況ヲ以テ未來ヲ推測スルハ或ハ未來ト雖モ現在ノ如ク善ニ禍シ惡ニ福スルカ如キトハ決シテ是ナシト斷定スルコト能ハザルベシ、何者未來ハ神ノ裁判ニヨリテ善惡公平ノ賞罰アルヘシト云フモ、神ハ未來ノミヲ支配スルニアラス現世ト雖モ同様ニ神ノ監督スル世界ナリ、然ルニ現在ニ於テ神ノ賞罰ノ不公平ナルヲ見ルハ、未來モ或ハ現在ト同大不公平ノ賞罰ヲ與フルコトアルベシトノ疑ナキ能ハス、氏ハ是ニ答ヘテ曰ク現世界ニ於テ善ニ災シ惡ニ幸スルコトナキニアラザルモ、惡人ノ幸ヲ得ルモノト善人ノ幸ヲ得ルモノトヲ比較スルハ、惡ヲ爲シテ幸ヲ得ルモノ、數極メテ少カルヘシ、故ニ人ハ善ヲ爲スルハ之ニ應スル善果アルコトヲ豫期シテ其心ニ安ソスルコトヲ得ヘシ、且ツ夫レ世界ハ何ゾ此一小世界ニ限ラゾヤ、世界ハ無數ナリ其無數ノ世界中ニハ人類ノ如キモノアリテ寸善必ス其實ヲ得、尺惡必ス其罰ヲ得ルコトアルヲ想像スルコトヲ得ベシ、此想像ハ又我人ノ心ヲ安ソセシムルモノナリ、故ニ善人ハ賞セラレ惡人ハ罰セラル、其實ニ世界普通ノ道理ニシテ吾人ハ善ヲナスト同時ニ其心

宗 教 善 學

ニ不期ノ安逸ヲ得、惡ヲナスト同時ニ其心ニ他人ノ知ラサル不安ヲ感スルハ亦賞罰ノ一部分ト謂フヘシ、
以上ノ言ハ誠ニ道理アルコトニシテ、余モ常ニ此事ニツイテ感シ居ルコトアリ、此世界ニハ賞善罰惡ノ規律ハ行ハレズトスルモ、吾人ニシテ一善ノ行爲ヲ爲スルハ永ク其心中ニ其ノ善タルコトヲ記憶シテ、如何ニ災害ニ遭遇スルモ其心ニ満足スル所アルコトヲ得ルナリ、此満足ハ即チ無形上ノ幸福ナリ、若モ之ニ反シテ惡ヲ爲スモノハ縱令僥倖ニシテ幸福ヲ得ルニモセヨ、其惡ヲ爲シタルノ記憶ハ長ク精神中ニ印象シテ事ニ觸レ物ニ感スル毎ニ其記憶動キ來リテ恐怖ノ念ヲ脱スルコト能ハザルベシ、是レ即チ無形上ノ刑罰ナリ、然ルニ世人多クハ有形上ノミニテ天道ハ善ニ福シ淫ニ禍ストノ原則ヲ判定スルニヨリテ、往々天道ノ不公平ナルコトヲ嘆シ天道ハ非カ是カナト、疑フモノアリ、若シ之ヲ無形上ニ徵スルハ一善一惡ハ必ス無形上ノ賞罰ヲ有スルモノナリ、古語ニ有、陰德者必有陽報ト云ヘルコトアルモ是レ亦有形一方ノ語ニシテ、完全セルモノニアラス故ニ余ハ其裏面ヨリ有、陽德者必有陰報ト云ハントス、昔ハ大史公伯夷叔齊周ノ粟ヲ食フヲ耻ヂ、竟ニ首陽ニ餓死セルヲ嘆シ

テ天道無親常與善人若伯夷叔齊可謂善人者非耶余甚感焉儻所謂天道是耶非耶ト云ヘルモ是レ夷齊ノ表面ノミヲ觀察セルニ過キズ若シ夷齊ノ精神界裏ニ入りテ觀察スルキハ或ハ周ニ仕ヘテ封侯ノ爵位ヲ得タルヨリモ一層多量ノ幸福ヲ感得セシナラン故ニ其幸福ヲ觀察スルニモ單ニ有形上ノミニ止マラズシテ無形上ヨリモ觀察スルキハ一善一惡ノ應報ハ影ノ形ニ隨フカ如ク必ズ感得スルモノナリ古語ニ曰ク天網恢々疎不漏ト宜ナル哉言ヤ

ライブニツ氏ノ此世界ニ惡ノ存スル所以ヲ論タルモノ要スルニ通俗上ノ所談ニシテ未ダ哲學上ヨク論究セシモノト謂フヘカラス故ニ尙ホ一問題ヲ解スルニ苦ムモノアリ曰ク世界ニ罪惡ノ存スルハ如何ナル原因ニヨルカ假令上帝ノ創造ナリトスルモ上帝ハ何ノ目的アリテ創造セルカト此問題ハ耶蘇教上ニテハ實ニ解スルニハ困難ナル問題ナリ此問題ヲ解スルニハ東洋及ヒ古代ノ學者ノ所說ノ如ク吾人ノ精神ハ純善純良ニシテ一點ノ汚穢ナキモ外界ノ事物カ惡ノ原因ナレハ之ニ接シテ惡トナルモノナリ故ニ外界ノ物欲ヲ脱却スルキハ人心中ノ不長成分ハ悉ク消滅シ去リ精神ハ清々涼々ノ地ニ本然ノ美性ヲ完ウスルコトヲ得ル論シ世

宗 教 哲 學

宗 教 哲 學

界ニ存スル罪惡ノ原因ヲ客觀上ニ飯スルナリ此ノ如ク解說スルキハ此問題ハ容易ニ解釋スルコトヲ得ルモ耶蘇教ノ如ク物心方有ハ悉ク神ノ創造ニ歸スルキハ實ニ説明ノ困難ヲ感スルナリ
氏ハ前ニ述ベタル問題ヲ解釋シテ曰ク此世界方有ハ最初神ノ力ニヨリテ創造セラレシモノナリト雖モ實際上ノ制限アリテ全ク神ノ意志ヲ以テ自在ニ左右スルコト能ハス故ニ如何ニ此世界中ニ惡ノ存スルアリト雖モ神力ヲ以テ自由ニ滅却スルコト能ハズ今其惡ナル者ヲ分類スルキハ三種アリ第一形而上ノ惡第三形體上ノ惡第三道德上ノ惡是ナリ第一形而上ノ惡トハ神ノ創造セル方有ニ存スル惡ニシテ其創造セル者ハ皆完全ヲ得ズシテ不完全ナル者ナリ此不完全ヲ指シテ形而上ノ惡ト云フ此惡ハ己ムコトヲ得サル惡ニシテ神ノ無限ノ意力ヲ以テスルモ決シテ免カルコト能ハス凡ソ事物ハ其心中ニ想像スル時ト實際ニ適用スルキトハ大ニ異ナル者ニシテ想像上如何ニ完全ナル者モ之ヲ實際上ニ適用スルキハ不完全ナルヲ免カンザル者ナリ此世界ノ完全ナル者ハ絶對的ノ完全ニ非ズシテ比較上ノ完全ナルノミ而シテ神ノ世界ヲ創造スルニ當リテハ無限ノ思想無限ノ意力ヲ以

宗 教 書 學

ヲ創造セルモノナレハ、其神ノ想像上ヨリ云フハ實ニ絕對的ニ完全ナルベキモノナレド、實際上事物ノ制限即チ相對ノ事情ノ爲ニ絕對無比ノ完全ニ達スルヲ能ハズ、是レ止ヲ得サルノ事情ニシテ如何ニ神ガ意力ヲ勞スルモ決シテ免カル、ト能ハサルモノナリ、神ハ最上無限ノ思想ヲ以テ此世界ヲ創造セルモノナレハ、實際上モ最上無比ノ完全ナルヲ得ベキニ、其實然ラスシテ比較上ノ完全ニ過キサル所以ハ例ヘバ、吾人ノ想像上ニテハ完全ナル圓形ヲ畫クヲ得ルモ、是ヲ實際上ニ施スルハ些少ノ不完全ヲ免カレサルカ如ク、又二個ノ尺度ヲ造ルニモ或ル程度ヲテハ二者正ク一致セルモノヲ造ルヲ得ルモ、極メテ些少ノ差ニ至レハ二者合同セサル所ナキヲ能ハサルカ如シ、此絕對的ノ完全ニ達スルヲ能ハサルモノヲ名ケテ形而上ノ惡ト云フ、第二形骸上ノ惡トハ肉體構造ノ不完全ナルヲ及病患痛苦ノ類ニシテ、第三道德上ノ惡トハ不善不徳等ノモノナリ、此等ノ惡ナルモノハ如何ニシテ起ルヲ曰ク、必然ニヨリテ生ス、必然ニ二種アリ、甲ヲ絕對的必然ト云ヒ、乙ヲ相對的必然ト云フ、而シテ形而上ノ惡ノ如キハ神意ヲ以テ左右スルヲ能ハサルモノナレバ即チ絕對的ノ必然ニヨリテ起ルモノナリ、形骸上ノ惡及道德上ノ惡ノ如キハ

宗 教 書 學

神ハ此ノ世界ヲ完全ノ域ニ進マシムルノ必要ヨリ設ケタルモノニシテ形而上ノ惡ノ如ク止ムヲ得ザルニ出タルモノニアラズ、人類ハ此ノ世界ニ罪惡ナルモノ、存スルニヨリテ汝々トシテ惡ヲ避ケ善ニ進マシヲ勉ムルモノニシテ、若シ惡ナルモノナキハ人類ハ安シテ其位ニ任シ更ニ進歩スルヲナカルベシ、故ニ第二第三ノ惡ハ相對的ノ惡ニシテ絕對的ノ惡ニアラズト、然レド氏ハ何故ニ神ノ思想上ト實際上トハ一致セサルカニ至リテハ、充分ナル説明ヲ降サザリキ、氏ハ更ニ形而上ノ惡ハ、神意ヲ以テ自由ニ制裁スルヲ能ハサル所以ヲ説明セシ爲メニ、神ノ意志ニモ主意ト屬意ノ二種アルヲ論セリ、此分類ハ耶蘇教一斑ノ通義ナリト雖モ、普通信上ノ説明ニ過キス、然ルニ氏ハ是ヲ哲學上ニテ説明セリ、其主意ニ曰ク、神ノ此世界ヲ創造スルニハ、絕對的ノ完全ナルモノヲ造ラントスルノ意志ナリ、此意志ハ單ニ理想上ノ意志ニ過キスシテ、是ヲ實際上ニ適用セントスルハ、實際上固有ノ規律ニ制セラレ、理想上ニ存スル主意ノ如クスルヲ能ハズ、是ニ於テ神ハ止ムヲ得ズ、理想上ニ存スル主意ト、實際上固有ノ規律トヲ折衷シ、實際上ノ許不限リ、完全ナルモノヲ造ラントセリ、此折衷ニヨリテ生シタルモノハ即此世

界ナリ、是レ恰モ空中ヨリ落ツル物カ直線ヲ畫ク、能ハスシテ、四方形中ノ對角線
 ノ如キモノヲ畫クニ至ルト同様ナリ、此主意ヲ枉グテ實際上ニ適合セシメタルモ
 ノハ即チ屬意ナリ、換言セハ絕對的ノ意志ヲ以テ世界ヲ創造セシムテ企テタルモ
 實際上ノ規律ニ制セラル、カ故ニ實際上ノ規則ト、絕對的ノ意志トヲ折衷シ、成ル
 ヘク丈完全ナルモノヲ造ラントノ相對的ノ意志ヲ以テ、世界ヲ創造セルモノナレ
 ハ、形而上ノ惡ハ神ト雖モ如何トモ爲スコト能ハスト、此說ハ氏以前ノ學者ノ或ハ
 理論ニ方ニ偏スルモノト、實際一方ニ倚スルモノトヲ折衷セルモノナリ、此說ニヨ
 ルハ、神カ此世界ヲ造出スルニ、絕對的ニ完全ナラシムルコトハ、實際上ノ事情ヲ爲
 メニ妨クラレシヲ以テ、止ムヲ得ス相對的ノ完全ノ世界ヲ造出スルニ至レリト云
 フナリ、
 次ニ氏ガ世界發進ニツイテ、其目的ハ幸福ヲ得ルニアリト云フ、幸福トハ吾人ノ歡
 樂、或ハ精神上ノ力ニシテ、其力トハ善ト眞トニ向フテ之ヲ求メントシテ進ムノ力
 ヲ云フ、歡樂モ此精神上ノ力ノ完全ニ備ハル、モノニシテ、憂苦ハ此力ノ不完全ナル
 モノナリ、而シテ此力ヲ有スルモノハ自由ナリ、自由ナルハ完全ナル歡樂ヲ得ル

モノナリ、此精神上ノ力ナルモノハ、道理ヲ基礎トスルモノニシテ、此道理ニ基ケル
 カニヨリテ、万有ノ本源タル無限ノ眞理ニ達スルコトヲ得ルモノナリ、故ニ人若シ此
 道理力ヲ進歩セシムルハ幸福ヲ得ベク、且ツ意志ト智力トヲ進歩セシムルコトヲ
 得ルモノナリ、歡樂ナルモノモ此道理ト智力トニ基ケルモノニシテ、吾人ノ精神ニ
 附隨シ、未來永久決シテ離ルベキモノニアラスト、故ニ此幸福說ハ他ノ學者ノ所論
 ト大ニ異ナレリ、
 是ヨリ進ミテライアニツツ氏ノ自由意志說トスピノザイ氏ノ自由意志說トノ異同
 ハ那邊ニアルカヲ辨セシニ、ライアニツツ氏ハ意志ノ自由トハ、吾人ノ精神ニ獨立不
 頼ノ作用ヲ有シ、決シテ他ノ障礙ヲ蒙ルコトナキノ謂ナリ、然ルニ世間普通ノ說ニ
 テハ、意志ノ自由トハ、其意志ノ欲スルニ隨ヒ、或ハ道理ヲ變シテ道理トナシ、或ハ正
 ヲ曲クテ邪トナスコトヲ得ルノ謂ニシテ、神モ此意志ノ自由ニヨリ道理以外ニ立チ
 テ、宇宙万有ノ規律モ中途ニテ變更スルコトヲ得ヘシ、何トナレハ此規律モ道理モ皆
 神ノ創造ニヨリテ成レルモノナレバナリトライアニツツ氏ハ之ニ反シテ神ハ最初
 此世界万有ヲ創造スルニハ、最完全ナル道理ニ基キテ造リシモノニシテ、而モ其道

理ナルモノハ、單ニ意志ノ上ノミニテ撰定セシモノニアラス、智識上ニテ最完全ナルモノナリト認定シタル道理ナリ、然ルニ神ハ自由ノ意志ニヨリ、宇宙ノ規律ヲ變スルコトヲ得ルモノトセバ、最初撰定セシ道理ハ不完全ナルニ由ルトセザルヲ得ズ、若シ其道理ニシテ不完全ナラザルカ、神ノ智識能力ハ最上無限ノモノニアラサルナリ、故ニ神ハ如何ニ意志ノ自由ヲ有スルモノトスルモ、宇宙万有ノ規律ハ千万世ノ後ニ至ルモ、決シテ變替アルコトナシト説キ來リテ、道理上ヨリ自由意志ヲ論シテ遂ニ前定説ニ結合セリ、之ニ對シテスピノザー氏ノ自由意志説モ、世俗ノ唱フル自由意志説ヲ排斥シテ是ガ説明ヲ降セリ、曰ク自由意志トハ、吾人ノ精神ノ更ニ外界ノ干渉ヲ蒙ルコトナク、其獨立ノ作用ヲ完クシ、因果必然ノ理法ニ隨順スルノ意志ナリト、斯クシテ自由ト因果ノ理法トヲ結合セリ、故ニ自由意志ハ道理ヲ離レテ自由ナルコト能ハズト云フ點ニ至リテハ、二氏共ニ致テ一ニセリ、

而シテ又兩氏ノ所説ニ差異ノ存スル點ヲ示サシニスピノザー氏ハ物心二元ハ等シク本體ノ屬性ニシテ併行對立シ、同等同權ナルコトヲ主張シ、心ニハ心自身ノ規律ヲヨリ獨立スルコトヲ得、然ルニ若シ外界ノ爲ニ束縛セラルルコトアラハ、心ハ其獨立

ヲ失シテ其自由ヲ保ツコト能ハズ、故ニ心ノ獨立ヲ保ツコトニハ、外界ノ事物ヲ離レ世塵ヲ脱セザルベカラズト云ヘリ、此説ノ結果ハ遂ニ遁世脱俗ノ風ニ傾キ、社會ヲ離レテ孤獨ノ生活ヲ爲サントスルニ至レリ、之ニ反シテライプニツ氏ハ元子論ヲ主張シ、此世界万有ハ皆元子ノ調和ニヨリテ成立スルモノニシテ、此元子ノ發達スル所ハ、吾人ノ觀念界ノ如キ觀念ヲ有スルニ至ル(此元子ハ前ニモ述ベタルガ如ク觀念性ノ元子ナリ)而シテ物質ノ未ダ觀念性ヲ表現セサルハ、其發達ノ程度ノ高等ナラザルニヨル、故ニ此物質モ元子ノ發達スル所ハ、吾人ノ有スル觀念意識ノ如キモノ其中ニ開發シ、鏡ノ万象ヲ寫シテ漏ストナキカ如キモノニ至ラント論スルカ、故ニ元子ノ相互ニ調和シテ成立スルト同一理ニ本キ、吾人ハ社會ヲ離レテ孤獨ノ生活ヲ爲ストヲ得ス、必ズ社會ト共ニ進歩セザルベカラズト云フニ至レリ、此ク二氏ノ差異ヲ來セシ所以ハ、スピノザー氏ハ内界ノ觀察ヲ主トシ、吾人ハ外界ノ束縛ヲ脱シ、精神界ヲ觀察スル所ハ、神ト同一ナル性質ヲ有スルモノナレハ、其本體ヲ知ル所ハ神ニ合同スルコトヲ得、故ニ外界ノ万有ニ關係スルニ及バズト云ヒテ、万有神教ヲ主張セルモ、ライプニツ氏ハ神ヲ外界ニ立テ、我人モ亦外界ニアリテ社會ト共ニ

宗

教

善

學

進ムヲ以テ目的トセリ、故ニ吾人ハ互ニ相愛シ相助ク、以テ社會ヲ進歩セシメサルヘカラスト云ヘリ、是レ厭世主義ニアラスシテ愛世主義ナリ、樂天主義ナリ、故ニ其論ハ愛ヲ以テ精神トナシ、此ノ愛ニ由リテ幸福ヲ得、幸福ニ由リテ完全ヲ得、以テ神ニ近クイテ論セリ、

今二氏ノ説ノ異ナル所ヲ見ルニ、恰モ佛教ニテ聖道門ト淨土門ノ別アルカ如シス、ヒノ乎氏ノ万有ノ本體即神ニシテ、吾人ノ精神モ神ノ一部分ナレハ、吾人ハ神ト和セシト欲セハ、宜ク外界ノ羈絆ヲ脱シテ内界ノ精神ヲ觀察スヘシト論スルハ、佛教ノ聖道門ニテ万境ノ本體ハ眞如即佛ニシテ、吾人ノ精神モ其本體眞如ナレハ、吾人カ眞如ヲ證シ佛ニナルニハ、外界ノ諸緣ヲ遠離シテ内界ノ心性ヲ顯彰セザルヘカラスト説クガ如ク、其勢自然ニ遁世脱俗ノ風ヲ帶フルニ至ルヘシ、又ライブニツ氏ノ外界ニ神ヲ立テ愛ニ重キヲ置クハ、淨土門ニテ佛ヲ外界ニ置キ、而カモ其佛タル悲智二門ノ中、慈悲即テ愛ヲ主トスルニ異ナラズ、此ニ至リテ氏ノ説ニ各一得一失アルヲ知ルト同時ニ、此二説ヲ合シテ初テ完全ナル宗教トナルヲ知ルヘシ、

又三氏ノ説ニ於テ一致スル所ハ、神ヲ信念スルトキハ、吾人ハ幸福ヲ得、テ完全ニ地位ニ進ムヲ得ト云フ點ニアリ、二氏トモニ論シテ曰ク、抑モ神ヲ信念スルヲハ即チ神ヲ愛スルヲニシテ、愛ハ最も多ク吾人ニ幸福ヲ與フルモノナリ、愛ニハ自愛他愛私愛公愛等アリテ同一ナラサレモ、吾人ハ已テ愛シ得ル力ヲ有スルモノヲ愛スルカ如キ愛ハ、愛中最モ愉快ニ最モ幸福ナル愛ナリ、之ニ反シテ己レ人ヲ愛シテモ人己レヲ愛スルヲ能ハサルカ如キ愛ハ、愉快モ無ク幸福モ無キナリ、然ルニ神ハ完全圓滿ナル故、吾人ノ之ヲ愛スルヲハ最モ愉快ニシテ、又最モ幸福ナルモノナリ、神ハ完全圓滿ニシテ吾人ヲ受スルヲ恰モ太陽ノ万物ヲ照スカ如ク吾人ハ其愛ノ光線ニ由リテ幸福ヲ得、完全ニ進ムヲ得ルナリ、然リ而シテ其神ト人ト相愛スルト云フヲハ耶蘇教ニ限ルヲニシテ、他ノ宗教ニ説ク所ノ愛ハ、神ヲ恐ル、情即チ恐怖心ヨリ生スル所ノ愛ニシテ、當教ノ神、人相愛ナドトハ全ク天壤ノ差アルモノナリ、ト論セリ、(因ミニ云フ二氏ノ神人相愛ヲ以テ耶蘇教ニ限ルトセシハ、蓋シ淺見ノ謬ヲ免レザルベシ、何トナレハ彼ノ野蠻社會ニ行ル、所ノ宗教ノ如キハ、其神ヲ信愛スルハ主トシテ恐怖心ニ基クト雖モ彼ノ佛教ノ如キニ至リテハ神人相愛ノ宗教ニシテ、其間一毫ノ恐怖的分子アルヲナシ、故ニ佛教ニ所謂ル慈悲ハ、神人相愛ノ慈

宗

教

善

學

進ムヲ以テ目的トセリ、故ニ吾人ハ互ニ相愛シ相助ク、以テ社會ヲ進歩セシメサルヘカラスト云ヘリ、是レ厭世主義ニアラスシテ愛世主義ナリ、樂天主義ナリ、故ニ其論ハ愛ヲ以テ精神トナシ、此ノ愛ニ由リテ幸福ヲ得、幸福ニ由リテ完全ヲ得、以テ神ニ近クイテ論セリ、

今二氏ノ説ノ異ナル所ヲ見ルニ、恰モ佛教ニテ聖道門ト淨土門ノ別アルカ如シス、ヒノ乎氏ノ万有ノ本體即神ニシテ、吾人ノ精神モ神ノ一部分ナレハ、吾人ハ神ト和セシト欲セハ、宜ク外界ノ羈絆ヲ脱シテ内界ノ精神ヲ觀察スヘシト論スルハ、佛教ノ聖道門ニテ万境ノ本體ハ眞如即佛ニシテ、吾人ノ精神モ其本體眞如ナレハ、吾人カ眞如ヲ證シ佛ニナルニハ、外界ノ諸緣ヲ遠離シテ内界ノ心性ヲ顯彰セザルヘカラスト説クガ如ク、其勢自然ニ遁世脱俗ノ風ヲ帶フルニ至ルヘシ、又ライブニツ氏ノ外界ニ神ヲ立テ愛ニ重キヲ置クハ、淨土門ニテ佛ヲ外界ニ置キ、而カモ其佛タル悲智二門ノ中、慈悲即テ愛ヲ主トスルニ異ナラズ、此ニ至リテ氏ノ説ニ各一得一失アルヲ知ルト同時ニ、此二説ヲ合シテ初テ完全ナル宗教トナルヲ知ルヘシ、

又三氏ノ説ニ於テ一致スル所ハ、神ヲ信念スルトキハ、吾人ハ幸福ヲ得、テ完全ニ地位ニ進ムヲ得ト云フ點ニアリ、二氏トモニ論シテ曰ク、抑モ神ヲ信念スルヲハ即チ神ヲ愛スルヲニシテ、愛ハ最も多ク吾人ニ幸福ヲ與フルモノナリ、愛ニハ自愛他愛私愛公愛等アリテ同一ナラサレモ、吾人ハ已テ愛シ得ル力ヲ有スルモノヲ愛スルカ如キ愛ハ、愛中最モ愉快ニ最モ幸福ナル愛ナリ、之ニ反シテ己レ人ヲ愛シテモ人己レヲ愛スルヲ能ハサルカ如キ愛ハ、愉快モ無ク幸福モ無キナリ、然ルニ神ハ完全圓滿ナル故、吾人ノ之ヲ愛スルヲハ最モ愉快ニシテ、又最モ幸福ナルモノナリ、神ハ完全圓滿ニシテ吾人ヲ受スルヲ恰モ太陽ノ万物ヲ照スカ如ク吾人ハ其愛ノ光線ニ由リテ幸福ヲ得、完全ニ進ムヲ得ルナリ、然リ而シテ其神ト人ト相愛スルト云フヲハ耶蘇教ニ限ルヲニシテ、他ノ宗教ニ説ク所ノ愛ハ、神ヲ恐ル、情即チ恐怖心ヨリ生スル所ノ愛ニシテ、當教ノ神、人相愛ナドトハ全ク天壤ノ差アルモノナリ、ト論セリ、(因ミニ云フ二氏ノ神人相愛ヲ以テ耶蘇教ニ限ルトセシハ、蓋シ淺見ノ謬ヲ免レザルベシ、何トナレハ彼ノ野蠻社會ニ行ル、所ノ宗教ノ如キハ、其神ヲ信愛スルハ主トシテ恐怖心ニ基クト雖モ彼ノ佛教ノ如キニ至リテハ神人相愛ノ宗教ニシテ、其間一毫ノ恐怖的分子アルヲナシ、故ニ佛教ニ所謂ル慈悲ハ、神人相愛ノ慈

宗 教 哲 學

悲ニシテ耶蘇教ノ愛ニ勝ルコトナルモ劣ルコトナルベシ然ルニ佛教ニ愛ヲ以テ生
 死ノ因トナシ苦迷ノ本トナスモノハ是私愛小愛ヲ排斥スルノ意ニ出テタルモノ
 ニシテ神人相愛ノ如キ高尙ナル愛ヲ以テ生死ノ因トナシ苦迷ノ本トナスニアラ
 ス如此高尙ナル愛ハ却リテ佛果ニ進ミ涅槃ニ到ルベキノ好資糧ナリ耶蘇教ニテ
 モ私愛偏愛ノ如キ劣等ノ愛ニ至リテハ恐ラク排斥シテ取ラサル所ナルベシ蓋シ
 耶蘇教ハ愛ニ善惡アル中善ノ方ヲ説キ佛教ハ惡ノ方ヲ説キモノニシテ歸スル
 所同一ナリ(恰モ孔孟學ニテ利ヲ排シ功利學ニテ利ヲ尊ブモ版スル所同一ニシテ
 孔孟學ノ功利ヲ排スル裡面ニハ大利ヲ有シ功利學ノ大利ヲ尊ブ裡面ニハ小利ヲ
 排スル如シ)

以上論スル如ク二氏ノ説ハ神ヲ信念スルトキハ吾人ハ幸福ヲ得テ完全ノ地ニ進
 ムコト得ト云ヘル一段ハ互ニ一致スレド其間些少ノ異點ナキニアラス何トナレ
 ハスピノザハ神ガ人中ニ於テ自身ヲ愛スルト云ヒライブニツハ人が自身中ニ神
 ヲ愛スルト云ヘリ是スピノザハ万有神教ヲ説キテ吾人ノ本體即神ナリト論ヒシ
 故本ト吾人ガ神ヲ愛スルト云フコトハ即チ神カ神自身ヲ愛スルコトナリ既ニ神ガ神

宗 教 哲 學

自身ヲ愛スルコトナルハ吾人ハ吾人ノ資格ヲ以テ神ヲ愛スルニアラス正ニ吾
 人ノ資格ヲ離レ神ノ一部分トナリテ之ヲ愛スルナリ故ニ神ガ人中ニ於テ自身ヲ
 愛スルト云ヘリ然ルニライブニツハ之ニ反シテ外界ニ神ヲ立テ吾人ト神トハ遠
 ク離レタルモノト論スル故吾人ハ神ニアラス神ハ吾人ニアラス而カモ吾人ハ不
 完全ニシテ神ハ完全ナルヲ以テ吾人ハ吾人ノ資格ヲ以テ神ヲ愛シ神ノ助ケヲ得
 テ完全ニ達セザルベカラス故ニ人が自身中ニ神ヲ愛スルト云ベリ之ヲ要スルニ
 二氏ノ異ナル點ハ一ハ万有神教ヲ立テ吾人ノ本體即神ナリト説キテ神ト吾人
 トヲ離合シ一ハ外界ニ神ヲ立テ吾人ト神トノ客觀上ノ差別關係ヲ立ツルニア
 リ此ノ點亦大ニ佛教ノ所説ニ同シト云フベシ何トナレハ彼ノ聖道門ニテハ吾人
 ト佛トハ本ト離合一體ニシテ吾人ノ外ニ佛ナク佛ノ外ニ吾人ナシ故ニ吾人ハ佛
 ヲ外界ニ求メズ内界ニ向テ直指人心見性成佛ト直チニ吾人ノ精神ヲ指シテ佛ト
 スル故吾人ガ其本性ヲ變シテ佛トナルニアラス其實佛ガ佛トナルコトナレハ是レ
 恰モスピノザガ人中ニ於テ神ガ自身ヲ愛スルト云フニ同シカルベシ又彼ノ淨土
 門ニテ外界ニ彌陀ヲ置キ吾人ハ之ニ向テ一心ニ愛ヲ求メ完全ノ地ニ到ラザルベ

カラズトスル故、佛ガ佛ヲ愛シ、及如ガ真如ヲ證スルニアラズシテ、吾人ハ吾人ノ資格ヲ以テ佛ニ歸順シテ其慈悲ヲ受クルナリ、是恰モライブニツツノ人ガ自身中ニ神ヲ愛スル下云フニ同シカラズヤ、

以上二氏ノ理論的宗教學上ニ於ケル同異ノ點ヲ述ベタルハ、以下少シクライブニツツノ實際的宗教例ヘテ宗教上ノ儀式裝飾等ノ事ニ附テ論スヘシ、同一耶蘇教ニテモ彼ノ「クエム」宗ノ如キハ、神ヲ外界ニ求メズシテ内界ノ心頭ニ現見スルヲ目的トシ、神ハ吾人ノ心面ヲ照ス光輝ナリト説クヲ以テ、靜坐觀心ヲ務メ、外界ノ儀式裝飾ニ關スルヲ一切措キテ顧ミズ、故ニ一定ノ寺院モ無ク、一定ノ僧侶モ無ク又洗禮餐禮ヲ用ヒルヲ無ク、音樂唱歌ヲ用ヒルヲナシ、然ルニライブニツツハ之ニ反シテ、宗教上ノ儀式裝飾等ハ其ノ奢侈ニ涉ラザル以上ハ、吾人ノ信向ヲ導クニ最モ必要ナル媒介ニシテ、決シテ廢スベキモノニアラスト論ゼリ、スピノザモ亦宗教上ノ儀式裝飾等ハ、其眞理ヲ含ムモノニアラスト雖モ、吾人ノ信向ヲ導クニ要用ナル媒介故、方便トシテ用フベキモノニアラスト云ヘリ、
斯クノ如ク二氏共ニ儀式裝飾等ハ、宗教上廢スベカラザルモノナリト論シタレド、

宗 教 哲 學

宗 教 哲 學

スピノザハ理論ト實際トヲ一致スルヲアタハスシテ、實際ノ方ニアリテハ儀式裝飾ノ必要欠クヘカラザルヲ論ズルト同時ニ、理論ノ方ニアリテハ大ニ之ヲ排斥シテ、吾人ノ本體即チ神ナレハ、吾人ガ神ヲ愛シ神ヲ信スルニハ、直チニ吾人ノ本體即チ精神ノ本體ヲ觀スレハ可ナリ、何ソ外界ニ向テ儀式裝飾ヲ用エルニ及ペンヤト論シタリ、然ルニライブニツツハ之ニ反シテ、理論ト實際トヲ結合シテ、儀式裝飾ハ實ニ實際上ニ必要ナルノミナラズ、理論上ニ於テモ亦必要廢スベカラザルモノナリ、何トナレハ前ニ述ルガ如ク、儀式裝飾ハ吾人ノ信向ヲ導キ、吾人ヲ眞理ニ案内スルモノニアラズヤ、若シ儀式裝飾ニシテ一分ノ眞理ヲモ含マザル中ハ、如何ソ吾人ハ之ニ由リテ信向ヲ起シ眞理ニ合スルヲ得シヤ、既ニ吾人ハ儀式裝飾ニ由リテ眞理ニ合スル以上ハ、儀式裝飾中ニ眞理ヲ含ムト云ハサルヲ得ズ、故ニ儀式裝飾ハ理論ノ方ニアリテモ、決シテ排斥スベキモノニアラスト論シタリ、之ヲ要スルニスピノザハ智識ヲ以テ理論ノ方ニ屬シ、信向ヲ以テ實際ノ方ニ屬シテ、智識ト信向トノ二者、即チ哲學ト神學トノ二者ヲ結合スルヲ能ハザリキ、然ルニライブニツツハ智識ハ信向ニヨリテ成ルモノナルヲ論シテ、智識ト信向トノ一致、即チ哲學ト神學ト

宗 教 哲 學

ノ結合ヲナシタリ、
 右ノ如クライブニツノ理論ト實際トヲ結合シテ、智識ハ信向ニ由リテ生スル者ナ
 リト論セシハ實ニ卓見ト云フベシ、見ヨ世ノ一般ノ學者ハ信ハ無智ニ伴ヒ、智ハ不
 信ニ伴フト論スレモ、ライブニツハ之ヲ否定シテ、智ハ信ニヨリテ成リ、信ハ智ニヨ
 リテ生スルト論セリ、而シテ彼ノ無智ニ伴フ信ノ如キハ、迷信妄想ニシテ真正ノ信
 ニアラス、真正ノ信ハ必ス智ヨリ生スルモノナリ、何トナレハ神ハ全智全能ノ實體
 ナレハ、理ニ達シ智ニ反スルモノヲ愛スルノ道理ナシ、既ニ然ラハ、吾人が神ヲ信ス
 ルニモ、亦道理ト智識トヲ以テ信セザルベカラズ、道理ト智識トニ伴ハザル迷信妄
 想ハ、是レ全智全能ノ實體タル眞神ヲ信スルノ信ニハアラス、万一迷信妄想ニシテ
 眞神ヲ信スルコトアルモ、是レ唯ダ偶然ノ出來事ニシテ定規トスルニ足ラスト論シ、
 更ニ一步進テ、氏ハ論シテ曰ク、世ノ一般ノ學者ノ如ク、信ハ無智ニ伴ヒ、智ハ不信ニ
 伴フモノナルトキハ、何ヲ以テ「バイブル」ヲ「コトラン」ヨリ勝ルト云ヒ、耶蘇教ヲ回教
 ヨリ勝ルト云フヤ、「バイブル」ノ「コトラン」ヨリモ貴ク、耶蘇教ノ回教ヨリモ勝ル所以
 ノモノハ、是道理ニヨリテ判決シ、智識ニ伴フ信向ノ「バイブル」ニ存シテ「コトラン」ニ

宗 教 哲 學

無ク、耶蘇教ニ存シテ回教ニナキニ由ルニアラスヤ、是ヲ以テ真正ノ信向ニ智識道
 理ノ伴フコトヲ知ルベシト、善哉氏ノ言、若シ世人ノ云フカ如ク、智ヲ有スルモノハ信
 無ク、信ヲ有スルモノハ智ナキハ、宗教ハ世ノ開進ト伴フコト能ハザルベシ、若シ然
 ルハ、開明人ニキ宗教ナシト云ヒ、智識ヲ有スル人ニハ信向ナシト云ハザルヘカ
 ラス、嗚呼何ソ思ハザルノ甚キ、抑モ信向ナルモノハ智識ノ進ムニ隨テ其形ヲ變ス
 ルモノニシテ、愚者ノ信スル神ト學者ノ信スル神ト同カラズ、又野蠻人ノ信向ト文
 明人ノ信向トハ同カラズ、故ニ學者文明人ノ信向ハ、彼ノ愚者野蠻人ノ如ク利己心、
 若クハ恐怖心ヨリ生スル妄信妄想ニアラスシテ、道理ニ由リ智識ニ伴フ所ノ真正
 ノ信向ナルモノナリ、
 上來述ルガ如ク、ライブニツハ智識ト信向トヲ結合シテ、宗教ハ道理ニヨリテ組成
 サレタル者ニシテ、變シテ道理ニ反スル者ニアラズトノ断定ヲ下スニ至レリ、然レ
 モ宗教ニハ往々道理以上ノコト、換言スレハ理外ノ理ナルモノアリテ、常人ノ智識ト
 道理トニ反シ、常人ヲシテ疑惑ヲ抱カシムルコトアリ、氏ハ此點ニ論及シテ理外ノ理
 ト云フコト、道理ニ反スルト云フコトノ區別ヲナセリ、曰ク理外ノ理トハ道理以上

ト云フ意味ニシテ、道理ニ反スルト云フニアラス、道理ニ反スルコトハ妄信妄想ニシテ決シテ眞理ヲ含マサレモ、理外ノ理ハ之ト異ナリテ、眞正ノ道理ト眞正ノ智識トニ合スルモノナリ、且ツ人智ハ有限有碍ナルヲ以テ、彼シ無限無碍ノ神理ヲ知ルコト能ハス、之ヲ知ルニハ必ス天啓ニ由ラザルベカラズ、然レハ理外ノ理ナルモノハ、一方ニハ人智ノ有限有碍ナルコトヲ證シ、一方ニハ神智ノ無限無碍ナルコトヲ證スルモノニシテ、理トシテ存セザルベカラザルモノナリト、

此クノ如ク理外ノ理ナルモノヲ立テ、道理ニ反スルモノニアラサルコトヲ論スルモノハ、是レ耶蘇教ノ奇跡怪談ヲ説明セシカ爲メナルベシ、氏曰ク、耶蘇教ノ奇跡怪談ノ如キハ、道理ニ反スルモノニアラス、正ニ是レ理外ノ理ナルモノニシテ、前述ノ如ク人智ノ有限ナルト、神ノ自由意志アルトニ由リテ起ルモノナリ、然レモ氏ハ世ノ宗教家ノ如ク、奇跡怪談ヲ以テ神ガ時々刻々、其變ニ應シテ隨意ニ發示シタルモノトナサズ、何トナレハ神ガ此世界ヲ作ルヤ、一定ノ目的ニ由リテ万事ヲ前定シタルモノナレハ、途中其目的ヲ變シテ隨意ニ奇跡怪談ヲ示ス等ナシ、若シ神ガ途中隨意ニ其目的ヲ變スルナラバ、神ハ全智全能ノ完體ト云フベカラザルニ至ラント論ゼリ、斯クノ如ク一切万事悉ク神ノ前定ナリト云フコトハ、吾人ガ神ヲ信スルモ信ゼサルモ、又善ヲナスモ惡ヲナスモ、悉ク神ノ前定ト云ハザルベカラズ、若シ然ルコトハ人ガ神ヲ信ゼザルモ、又惡ヲナスモ皆神ノ前定セルモノナレバ、之ヲ賞罰スル理由ナシト云ハザルヘカラス、故ニ其說ハ神ノ賞罰論ヲ破却スルニ至ルヘシ、是ライブニツガ前定說ヲ以テ、強テ耶蘇教ニ適用セントセシ過失ナリ、以上述ル所之ヲ要スルニライブニツハ因果論ト目的論トヲ結合シテ、之ヲ神ノ前定ニ歸シ、更ニ高等ノ目的論ト淺近ノ目的論トヲ結合シテ、耶蘇教ノ所謂奇跡怪談ナルモノヲ以テ、普通ノ道理ヲ超越シタル理外ノ理トナシ、天啓ヲ待チテ初テ知ルベキモノトセリ、

ウ・ル・フ (Christian Wolff)

クリスチヤン、ウ・オルフノ哲學ハ、ライブニツノ哲學ニ據リタルモノナレモ、ライブニツノ如ク高尚ノ論議ヲナサズ、成ルベク通俗的ニ解釋シテ、彼ノ實際ノ利益如何ヲ顧ミザル高尚ナルライブニツノ哲學ヲシテ、幾分カ其價値ヲ減殺スルニ至ラシメタルノ感ナキアタハスト雖モ、是レ當時ノ社會ノ然ラシメシ所ニシテ深ク氏ニ答ムヘキコトアラサルヘシ、何トナレハ當時ノ社會ハ實利實益ヲ以テ專一トナシ、万

宗 教 哲 學

事社會ニ如何ナル利益アルヤヲ尋ヌル有様ナレハ、學術モ宗教モ徳道モ悉ク其影響ヲ蒙リテ、實際ノ利益ヲ主トセシカバ、氏モ亦多少此ノ影響ヲ受ケテ、成ルベク其議論ヲ通俗實際ニ適スル様ニ至ラシメタリ、然リト雖モ、氏ハ哲學上ニ於テ、其功勞甚カラス、何トナレハ、氏ハ哲學ノ範圍ヲ擴張シテ、種々ノ學問ヲ此中ニ網羅シ、且ツ學問ノ區域分類ヲ明ニシタリシカバ、後彼ノ有名ナルカントガ之ニ基キテ完全ナル新哲學ヲ起スニ至リタレバナリ、然ラハライブニツノ哲學ハウオルフニ由リテ系統的ニ組織セラレ、カントノ哲學ハ又ウオルフニ基キテ批判的ニ組織ヲ起スニ至レリト云フモ過言ニアラザルベシ、之ヲ喻フルニウオルフノ哲學ハ、ライブニツノ哲學驛ヨリカントノ哲學驛ニ至ル中間ノ立場ノ如キモノナレハ、ライブニツノ哲學ヨリカントノ哲學ニ移ルニハ、是非トモ此處ニテ一休セザルベカラザルナリ、氏ノ宗教哲學ヲ講スルニ先チテ、其哲學ノ概略ヲ講シ置クベシ、氏ハ初メ獨逸ノハレノ大學ノ教授タリシガ、其神學ヲ講スルヤ、世ノ神學ヲ講スルモノト、稍々其見解ヲ異ニスル所アリシカバ、大ニ宗教家ノ攻撃ヲ受ケ、爲メニ四十八時以内ニ普瀋西ヲ退去スルニアラザレハ、死刑ニ處スベシトノ嚴命ヲ受ケ、僅ニ身ヲ以テ逃ル、ニ

宗 教 哲 學

至レリ、後フレドリッキ第二世ノ即位スルニ當リテ、氏ハ普國ニ召還セラレテ、柏林大學ノ教授トナリタリ、氏ノ哲學ハ基礎ヲライブニツノ哲學ニ取り、之レニアリストトトルノ哲學ヲ加ヘテ、一個ノ新組織ヲナセルモノナリ、而シテ氏ハ種々ノ學問ヲ哲學中ニ網羅セシメ以テ、哲學ニ與フルニ、凡テ學問上ニテ研究シ得ヘキ事柄ハ皆哲學ナリトノ定義ヲ以テセリ、故ニ氏ノ定義ニヨルルハ、哲學ト理學トノ辨別ヲ立ツルコト能ハザリキ、而シテ氏ハ哲學ヲ人心ノ作用ニ由リテ分類シ、智力ニ屬スルモノト、意力ニ屬スルモノト、ノトノ二トセリ、即チ智力ニ屬スルモノハ理論的哲學ニシテ、意力ニ屬スルモノハ實際的哲學ナリ、蓋シ是レアリストトルノ分類ニ由レルモノカ、而シテ此理論的哲學ト實際的哲學トノ外ニ論理學ヲ置キ、以テ此兩學ニ入ルノ關門トセリ、理論的哲學ハ所謂形而上學ニシテ、氏ハ之ヲ分テ第一、物體哲學、第二、宇宙哲學、第三、心理哲學、第四、神理哲學ノ四トシ、實際的哲學ヲ分テ第一、道德學、第二、經濟學、第三、政治學ノ三トナセリ、是レ其目的ニ由リテ區別セシモノニシテ、道德ハ一個人ヲ目的トシ、經濟ハ一家ヲ目的トシ、政治ハ一國ヲ目的トスレバナリ、

理論的哲學ノ中ノ實體哲學トハ、万有ノ原理原則ヲ研究スルモノニシテ、物質其物ヲ研究スル所ノ物理學化學トハ同マカラズ、其所謂原理原則トハ、アリストトールニ基クモノナリ、蓋シアリストトールハ、數多ノ原理原則ヲ立テタレドモ、氏ハ其根本トナルベキモノ一ヲ取レリ、即チ論理學上ニ所謂第二ノ原則ニシテ、背反ノ原理ト稱スルモノ是ナリ、氏ハ此原理ヲ以テ原理中ノ原理、原則中ノ原則トシテ、以テ他ノ原理原則ヲ推演セリ、背反原理トハ同一物ニシテ同時ニ有タリ無タルヲ得ズトナリ、例ヘハ赤色ナルモノハ同時ニ黑色ナルヲアタハス、又同一ノ水ニシテ同時ニ冷タリ暖タルヲ得ズト云フガ如キ是ナリ、

第二ノ宇宙哲學ニ於テハ、此世界ハ種々ノ變化ヲ有スル事物ガ結合シテ組成スル所ノ一團體ナリト解釋シ、而シテ其各部分ハ互ニ相關係シテ存スルヲ以テ、其中ヨリ一部分タリトモ除去スルヲ能ハザルヲ、恰モ一大機關ガ數多ノ小機關ヨリ成レルヲ以テ、一小機關タリトモ除去スベカラザルガ如シ、皆ニ除去スベカラザルノミナラス、一部分タリハ一小機關タリトモ増加スルヲアタハスト論セリ、而シテ宇宙ノ原初ノ一ニ就キテハ、氏ハ明言セザレドモ、其微意ヲ探レハ、宇宙ハ時間上ニ於テ無

始トスルモノ、如シ、若シ之ヲ無始ト説クハ、神トノ關係ヲ論スルニ困難ヲ來スガ如キモ、氏ハ之ヲ辨明シテ世界ノ無始ハ時間中ノ無始ナリ、神ト獨立シテ時間外ニ存スルモノナレハ、其無始ハ時間外ノ無始ナレドモ、世界ノ無始ト神ノ無始トハ大ニ其意ヲ異ニスルモノナリト論セリ、

第三心理哲學ニ於テハ、氏ハ心ヲ分テテ明瞭ナル心ト、不明瞭ナル心トノ二トセリ、而シテ明瞭ナル心トハ、思想推理意志ノ如キ人間ノ特有セル心ナリ、不明瞭ナル心トハ自知自覺ノ作用ニシテ、外物ノ刺戟接觸ヲ受クテ感スル所ノ心ナリ、此心ハ人間ノミナラス、他ノ動物ニモ有スルモノナリ、而シテ彼ノ靈魂不滅ト云フトハ、是明瞭ナル心ノ上ニ於テ云フニシテ、不明瞭ナル心ノ上ニ於テ云フベキモノニアラズ、故ニ靈魂不滅ト云フトハ、人間ノ外他ノ動物ニハナキヲナリト曰ヘリ、且ツ心ガ常ニ身軀ト一致結合シテ、諸般ノ動作ヲナス所以ノモノハ、他ナシ神ノ前定、即チ神ガ前ヨリ心身ヲ結合セシニ由ルト論セテ、ライプニツノ前定説ヲ取リタリ、

第四神理哲學ニ於テハ、氏ハライプニツノ如ク、神ハ全智全能ナルヲ以テ無量ノ世界ヲ創造スベキカアリ、然レモ神ガ此世界ヲ創造スルニ當リ、其無量ノ世界ヲ創造

スベキカヲ以テ、無量ノ世界中ヨリ最モ善良ニシテ、且ツ最モ其意ニ適シタルモノヲ選テ、此ニ此ノ世界ヲ創造セシモノナレハ、此世界ハ即チ神意ノ撰擧ニヨリテ成レルモノニシテ、其目的タル神ニ無量ノ徳ト、無量ノ勳キヲ有スルヲ顯シ、之ト同時ニ此世界ヲシテ、漸次發達セシメ、其結局神ト同様ナル無量ノ徳ト、無量ノ勳トヲ有セシメシニアリト論ヒリ、若シ然ルハ此世界ニ惡ノ存スヘキ理ナキニ、何故此世界ニ惡アリヤトノ疑問ニ答ヘテ、氏ハ此世界ニ惡ノ存スルハ神意ノ然ラシムル所ニアラスシテ、人智ノ有限ナルヨリ生シタルモノナリ、而シテ神ガ此惡ヲ存スル所以ハ他ナシ、神ハ此惡ヲ以テ善ニ進マシムル爲ノ方便ニシテ、別ニ除クヘキ必要ナキヲ知レハナリト曰ヘリ、之ヲ要スルニ氏ノ哲學ノ長所ハ神理哲學ニアラスシテ、却リテ實証哲學ノ上ニアリト云フヘシ、

上來氏ノ哲學概論ヲ述ベタレハ、以下ハ其宗教哲學ヲ述ブヘシ、氏ノ宗教哲學ハライプニ、ツニ基キテ通俗的ニ解釋セシモノナレハ、其大要ハライプニ、ツニ異ナルヲナシ、ライプニ、ツハ上ニモ數々論ヒシ如ク、諸事万端悉ク神ノ前定ニ歸ヒシヲ以テ、因果論ヲ排シテ目的論ヲ取リ、而シテ其目的論ハ客觀的普遍性ノ目的論ニシテ、宇

宙万物ハ各自一定ノ目的ヲ有シ、其目的ニ向テ進ムモノナレハ、其目的タル主觀ノ上ニアラスシテ客觀ノ上ニアリ、單獨的ノ目的ニアラスシテ、諸事万物ノ上ニ普遍スル目的ナリ、然ルニウルフノ時代ニハ、客觀的普遍性ノ目的ヲ唱フルヲ能ハスシテ、主觀的利己主義ヨリ目的ヲ唱ヘタリ、其意ニ謂ラク、神ハ人間ヲ利益シ、人間ノ快樂需要ヲ満足サスル爲ニ、此世界并ニ万物ヲ造リシモノナレハ、世界万物ハ此目的ニ向テ進ミ、悉ク主觀的利己心ノ中樞ニ集ル者ナリト、ウルフモ亦此影響ヲ受ケテ主觀的目的論ヲ唱フルニ至リタリ、故ニライプニ、ツノ論トウルフノ論トハ稍其趣キヲ異ニシテ、一ハ純粹高尚ナル理論ヲ説キ、一ハ實利實益主義ヲ交エルニ至リタリ、而シテウルフハ終ニ宗教上ノ理論ヲ解釋シテ、宇宙万有ハ宇宙万有ノ法則ニ隨テ變スルヲ無ク、神ノ目的即チ神カ宇宙万有ヲ創造シタルハニ定メタル法則ニ從フテ變スルモノナリト論セリ、

氏ハ又宗教哲學ヲ分チテ自然神學天啓神學ノ二トナセリ、而シテ自然神學ハ經典ニ由ラスシテ、普通一般ノ論理經驗ヲ以テ神ノ存在ヲ證明スルモノニシテ、其證明タル天啓神學ノ基礎トナリ、經典ノ證據トナルモノナリ、而シテ、又經典ハ神學ノ研

究ニ大ニ力ヲ與フルモノナリ、何トナレハ經典中ニハ格言若クハ金言トモ云フハ
 キモノ多ク存スルヲ以テ、吾人ハ論理經驗ヲ以テ新ニ真理ヲ發見シテ、格言金言ヲ
 組成スルヲ要セズ、唯タ格言金言ノ真理タルコトヲ證明スレハ可ナリ、若シ經典ナキ
 所ハ、吾人神學ヲ研究スルモノハ、論理經驗ヲ以テ一々新シキ真理ヲ發見セサルヘ
 カラスト論セリ、蓋シ是レ中世時代ノ煩瑣學派ノ說ニ近似スルモノカ、
 氏ハ又神ノ存在並ニ其性質ノ如何ヲ説明スル爲メニ、先天的證明ト後天的證明ト
 ノ二様ノ方法ヲ用井タリ、後天的證明ハ宇宙万有ノ道理ノ上、換言スレハ宇宙哲學
 ノ上ヨリ證明スルモノニシテ、先天的證明ハ事物ノ實體、換言スレハ實體哲學ノ上
 ヲリ證明スルモノナリ、

第一後天的證明ニ依レハ、吾人ハ今此ニ現ニ存在セリ、既ニ存在スレハ其存在スル
 ノ原因ナカルベカラス、其原因ヨリ原因ト次第ニ遡レハ、其大原因タリ第一原因タ
 ルモノハ必定完全ノ道理ニシテ、他ニ由ラズ他ノ力ヲ借ラザル獨立自存ノモノナ
 ラザルベカラス、既ニ必定完全ノ道理ニシテ獨立自存スルモノナル所ハ、其原因タ
 ルヤ無始無終恒久不變ノモノニシテ、決シテ多物ノ集リタル集合體ニアラス又、差

別ノ相ヲ有スル差別性ニモアラスシテ、單純性平等性ノモノナラザルベカラス然
 ルニ其結果ト稱スヘキ此世界ハ、多物ノ複合ヨリ成リテ、單純性平等性ノモノニ
 アラザレハ、決シテ神ト稱スベカラス、隨テ吾人ノ精神モ、此世界ノ一部ニシテ、此世
 界ト共ニ變化スルモノナレハ、是レ亦神ト稱スベカラス、如此世界モ精神モ、其精神
 ト稱スベカラスト雖モ、其ノ世界并ニ精神ノ存在スル所以ノ原因ヲ探ル所ハ、其原
 因タルヤ必ス神ノ中ニ存セサルベカラス、果シテ然ル所ハ神ハ此世界ノ原因ニシ
 テ、此世界ハ神ニ由リテ創造サレタルコト明ナリ、而シテ神ハ無量ノ世界ヲモ創造ス
 ベキ力ヲ有スレバ、神ハ其中ヨリ最モ善良ニシテ、且ツ最モ其意ニ適シタルモノヲ
 撰テ、此世界ヲ創造スルニ至レリ、然ル所ハ神ハ是非トモ智ト自由意志トヲ具ヘザ
 ルベカラス、神ニシテ智ト自由意志トヲ具フル所ハ、神ハ即チ心ナリト云フモ不可
 ナカルベシ、然レモ神ノ心ハ吾人ノ心ノ如キ不完全ナルモノニアラスシテ、最モ完
 全最モ自由ノ心ナンハ、其智モ亦完全ニシテ、世界中最モ完全ナル先天的直覺ノ智
 識ヨリ成レル者ナリ、吾人ノ有スル感覺想像念ノ如キ下等ノ智識ハ、神ノ完全智
 識中ニハ毫モ存セサルナリ、而シテ其意志ハ智識上ニ屬スルモノニシテ智識ヲ離

レテ別ニ存スルモノニアラス、故ニ智識上ニテ完全ナリト認識スルハ、神ハ自ら
快樂ヲ感シ、其意志ハ之ニ向テ發スルモノナリ、既ニ其智無限恒久ナルハ、其意志
モ亦無限恒久ナラサルベカラス、斯クノ如ク意志ヲ以テ智識ノ上ニ屬セシハ、是ヲ
イブニツノ説ニ基キシモノナルヘシ、

第二先天的證明ハ、氏ハ之ヲ實躰哲學上ヨリ證明セリ、曰ク世界万物ハ悉ク實躰ヲ
有スルモノナリ、而シテ其最上ノ實躰ハ即チ神ニシテ、完全圓滿恒久不變ノモノナ
リ、其躰偶然ニ存スルモノニアラスシテ必然ニ存スルモノナリ、且ツ此實躰ト世界
万有トハ同一ニアラス、世界万有ハ現象ニシテ複合性差別性ノモノナレド、此實躰
ハ單純平等恒久不變ノ本躰ナレハ、複合性差別性ニアラサルト同時ニ終始變更ナ
キモノナリ、故ニ其實躰ハ世界万有ノ本源本躰ニシテ即チ神ナリト云ヒテ有神ヲ
證明セルモノ、是レ氏ノ先天的證明ナリ、

氏ハ神ト世界トノ關係ニ就テハ、全クライブニツノ説ヲ祖述シキ、前述ノ如クライ
ブニツハ神ハ無量ノ世界ヲ作ルヘキ力ヲ有スレド、其中最モ善良ニシテ且ツ最モ
其意ニ適シタルモノヲ撰テ此世界ヲ作りタリト云ヘリ、ウオルフハ之ヲ受ケテ一層

通俗的ニ之ヲ解釋シテ曰ク、神ガ此世界ヲ創造シタルハ、其目的ノ神ノ完全ナル徳ト
名譽トヲ顯示セシメガ爲メナリ、而シテ此世界ハ神ノ完全ナル名譽ト徳トヲ顯示ス
ルニ最モ適當シタルヲ以テ、神ガ特ニ選テ此世界ヲ創造セシモノナリ、然ルレハ此
世界ニ惡ヤ不良ノアルベキ筈ナキニ、而カモ之アルハ如何ント云フニ、蓋シ惡ヤ不
良ハ神ガ此世界ノ中ニ有スル目的ヲ遂クル爲ニ、必須缺クベカラザルモノトシテ
存シ置クナリ、然レド惡ヤ不良ヲ神ガ目的トシテ作りタルニアラズシテ、唯之ヲ方便
トシテ存スルニ過キス、故ニ吾人ハ此世界ニ於テ惡ヤ不良ヲ除却スルヲ要セス、
却リテ此方便ヲ利用シテ善道ニ進マザルヘカラス、換言スレバ惡ヤ不良ノ刺戟衝
刺ニ由リテ、吾人ハ益々神ノ世界ニ進達セザルベカラズト云ヘリ、
以上述ル所之ヲ要スルニ氏ハ神ト世界トノ關係ヲ論シテ、神ハ無量ノ世界ヲ作ル
ベキ力ヲ有スレド、其中此世界ハ神ノ性徳ヲ顯示スルニ最モ適スルヲ以テ、特ニ撰
テ此世界ヲ作りシモノナレハ、此世界ニ惡ノアルベキ筈ナキニ、之レアルハ是レ人
ヲ善ニ向ハ合ル爲ノ方便ニシテ、本來ノ目的ニアラスト論スルモノ、如シ、
前述ノ如ク、此世界ハ神ガ特ニ撰テ作りシ完全ナル世界ナレハ、此世界ニ惡ノアル

ヘキ答ナキニ之レアルハ如何ト云フニ就テライブニツツ并ウオルフノ説ニヨルニ神意ト實際トヲ區別シテ神意ニ惡ハナケレモ實際世界ヲ作りシ上ニテハ其世界ヲシテ神ノ如キ最善ノ地ニ進マシムル爲ノ方便トシテ惡ヲ置ケリト曰ヘリ若クテ受クテ自由ナルヲ能ハザルヘシ然ラハ神ノ自由ハ主觀ノミニ限ル自由ニシテ客觀ニハ通セザルベシ是レ恰モ吾人カ其意志ニ於テハ空中ニ樓閣ヲ築キ或ハ水底ニ栖息スル等種々ノ想像ヲ奮クテ得レモ實際ニ於テハ外物ノ制限ヲ受クテ實行スルヲ能ハザルト一般ナリ此理ヲ以テ推スルハ神ハ万有ノ規則中ニアリテ而カモ其支配ヲ受クザルベカラサルモノニシテ万有ノ規則外ニ存在スルモノニアラザルベシ何トナレハ若シ神ニシテ万有ノ規則外ニ存スルモノナリトセハ如何ソ客觀上ニ制限ヲ受クテ其自由ヲ束縛セラルノ理アラシヤ知ルヘシ耶蘇教ノ神ハ吾人万物ト共ニ宇宙万有ノ規則中ニ拘束セラレテアルヲ又此世界ニ惡アルハ人ヲシテ善ニ向カ合ル爲ナリト論スレモ然レモ吾人ハ惡アル爲メニ必スシテ善ニ向ハズ惡アルガ爲メニ往々惡ニ向フコアリ見ヨ彼ノアダムニバノ如キ畢

竟蛇魔ノ爲メニ陥リシニアラスヤ若シ神ガ最初ヨリ此世界ニ善ノミヲ作り置キシナラバ此世界ハ常ニ天國ニシテアダムニエバモ罪ヲ犯シテ惡ニ陥ルコトナカルベシ又神ガ此世界ヲ作ル其目的トスル所神ノ名譽ト徳トヲ顯サシ爲メナリト論スレモ若シ神ニシテ眞實ニ完全ナラハ別ニ此世界ヲ作ラストモ完全ハ完全ナルベキニ而カモ之ヲ顯ハシテ世ニ知ラシメントスルモノ、如ク論スルハ是レ吾人ノ人情ヲ以テ神意ヲ想像セシモノナリ何トナレハ吾人ハ己ノ完全ヲ顯サントスルハ必ス社會ニ事業ヲ起シテ世ノ名譽ヲ買ハントスルカ如ク神モ亦其完全ナル徳ヲ顯サシ爲メニ此世界ヲ作りシモノナルヘシト想像セシニ過ギズ若シ又神ガ其徳ヲ顯サシ爲メニ此世界ヲ作レリトスルモ神ハ吾人ノ父ニシテ吾人ハ神ノ子ナレハ神ハ其子ノ名譽ヲ買ハント欲シテ世界創造ニ從事セリト云ハサルヘカズ愚モ此ニ至リテ甚シキニアラスヤ

上ニモ述ル如ク神學者ハ一般ニ愚ヲ以テ實在トスル故之ガ解釋ニ苦メモ佛教ノ如キハ惡ヲ以テ實在トセザル故之ヲ説明スルニ困難ヲ覺ユルコトナシ佛教ハ惡ヲ以テ唯吾人ノ見識ノ程度如何ニ由リテ起ル迷執トスル故吾人ガ之ヲ見テ惡アリ

ト思ヘハ惡アルモ、決シテ客觀上ニ其實在ヲ有スルモノニアラス、故ニ或ル高等ノ程度ニ進ミタル見識ヲ有スル人ニハ、一切惡ノ存在ヲ認ルコトナカルヘシ、例ヘハ下等動物ノ不潔トスル所ノモノモ、高等動物ハ之ヲ不潔トセサルコトアリ、又同一人間中ニテモ、凡庸ノ人が見テ感テ起サ、ル一葉一枝一羽一蟲モ、動物植物ニ熱心ナル學者ハ、之ヲ見テ大ナル興味ヲ感スルカ如シ、故ニ不潔ト云フコトモ惡ト云フコトモ、悉ク吾人ノ主觀ノ上ニ其區別ヲ見ルノミ、若シ吾人ニシテ一朝活眼ヲ開キ、其見識ヲ高ムルハ、我身即チ佛トナリ、世界ハ變シテ眞如界トナリテ、亦一點ノ惡ノ存スルヲ見サルヘシ、

神ノ創造及奇跡怪談ノ解釋ニ至テモ、ウオルフ氏ハ亦ライオンニツノ説ヲ通俗的ニ譯述スルニ過キス、而カモ神ノ不思議ヲ説クガ如キハ、世ノ獨斷的宗教家ト其意見ヲ同一ニシテ、神ガ此世ヲ創造スルヤ無ヨリ有テ生シタルハ神力ノ不思議ナルヲ知ルヘキナリ、然レハ万有ノ規律秩序モ、此不思議力ヨリ成リ、人間ノ生活精神モ亦神ガ世界ヲ創造スル中ニ、之ヲ有機成分中ニ含マセ置キタルモノガ後ニ至リテ隱發シタルモノナレハ、是亦神ノ不思議力ヨリ成リタルモノト云ハザルベカラス、

斯ノ如ク氏ハ神ノ不思議力ヲ説テ、以テ奇跡怪談ノ存スル所以ヲ説明セリ、然レモ世界万有ハ古往今來不生不滅不増不減ニシテ、一分子一元素タリトモ生滅増減スルコトナレハ、到底神ノ不思議力ト併行一致スルコト能ハザルモノナリ、氏ハ又天啓ヲ論シテ曰ク、天啓トハ普通ノ智識道理ヲ以テ知ルヘカラサルモノヲ、神ノ秘密不思議力ニ由リテ知ルノ謂ナリ、夫レ神ハ自由力アルガ故、如何ナル天啓ヲ爲サント欲スルモ、外物ノ之ヲ妨グル無ク、又万有ノ規則ニ拘制セラル、コトナシ、然レモ神ハ道理ヲ愛シ、智識ニヨリテ動作スルモノナレハ、其天啓トテモ決シテ万有ノ規則道理ニ反スルモノニアラス、然リ而シテ万有ノ規則ハ、必スシモ必然性ノモノニアラス、又神力ヲ以テ變更スルコト能ハザルモノニアラス、故ニ万有ノ規則道理ノ外ニ、理外ノ理ナルモノアルナリ、此理外ノ理ハ、所謂神ノ秘密力ニテ知ル所ノ天啓ニシテ、道理以上ニ屬スルモノナルモ、決シテ道理ニ反スルモノニアラス、然レハ理ニハ理内ノ理ト、理外ノ理トアリテ、理外ノ理ハ道理以上必ス存セサルベカラザルモノナリト説キテ、奇跡怪談ノ荒唐ニアラサルコトヲ證明セリ、

上來述ル如ク、ライオンニツモウ、ルアモ、凡ソ普通ノ道理ノ外ニ、理外ノ理ナルモ

ンヲ立テ、之ニ天啓ヲ結合シ以テ道理ト天啓トノ一致ヲ唱ヘタリ、既ニ斯ノ如ク道理ト天啓トヲ一致スルモノアレハ、爰ニ之ニ反對スル道理ト天啓トノ背反説ヲ唱フル者ノ出ルハ、蓋シ數ノ免レサル所ナリ、而シテ之ヲ唱ヘシモノハ、ペール及ビライマル、ユースノ兩氏ナリ、今之ヲ圖解スレハ左ノ如シ、

ライマルニツツ	道理天啓一致説	ペール	道理天啓背反説
ウ・オ・ル・ン		ライマルユース	

ペール并ライマルユース共ニ道理ト天啓トノ背反ヲ説ケル、ペールハ道理ハ天啓ニ屬シタルモノト曰ヒテ天啓ヲ主トシ、ライマルユースハ天啓ハ道理ニ屬シタルモノト曰ヒテ道理ヲ主トセリ、而シテライマルユースハ宗教上ニ道理ヲ主張シテ、宗教ハ必ス道理ニ由リテ組成シタルモノナラザルベカラス、果シテ然ルハ、耶蘇教ニテ天啓ニ由リテ奇跡恠談アリトスルモ、是レ道理上決シテアルベキモノニアラズト論シ、其局ウ・オ・ル・ンガ万有自然ノ規律ノ外ニ、天啓即理外ノ理アリトシタルヲ排斥シテ、如何ナル道理モ秘密モ万有自然ノ規律ノ外ニ存スベキ等ナクシテ、天啓モ理外ノ理モ悉ク之ヲ万有自然ノ規律ニ照シテ、其眞偽ヲ判斷セザルベカラザルト同

時ニ、彼ノ經典ノ如キモ、万有自然ノ規律ヲ以テ解釋セサルヘカラスト論スルニ至レリ、此説一タヒ出テ、ヨリ獨逸ノ神學者ハ舊來ノ説ヲ捨テ、道理上神學ヲ研究スルニ至レリ、是神學上ノ一大變動ト云フベシ、抑モ宗教ハ、古代ニアリテ神ノ秘密不思議ニ由リテ成ルモノトシ、吾人ノ智識經驗ヲ以テ知ルベカラザルモノトスレバ、吾人復タ何ヲカ言ハシ、然レモ宗教ハ悉ク之ヲ神ノ秘密不思議ニ歸シテ止ムベカラザルヨリ、世ニハ自然神教ナルモノ出テテ、宗教ハ神ノ啓示秘密ニ由リテ生スルモノニアラズ、人間智識ノ發達スルニ隨テ生スルモノニシテ、所謂自然ノ發達ナレハ、之ヲ研究スルニモ亦自然ノ規律ニ由リテ其可否ヲ定メザルベカラスト論スルニ至レリ、斯クノ如ク古代ハ宗教ヲ以テ神ノ秘密啓示ニ成ルモノトシテ怪ムモノナカリシガ、中世時代ニ至リテ、彼ノ神秘教ナルモノ出テ、宗教ヲ解釋スルニ、幾分カ道理ヲ用井、神ノ秘密ハ吾人ノ一種特別ナル觀念ニ由リテ知ラルベキモノニシテ、外界普通ノ道理規則ヲ以テ知ラルベキモノニアラズト論ヒシカバ、スピノザハ之ニ満足セス、徹頭徹尾道理ヲ以テ宗教ヲ解釋シ、神ヲ以テ吾人精神ノ本體ナリト論シテ、内界ニ神ヲ立テシカバ、ライマルニツ

ツハ之ニ反對シテ、道理上神ヲ外界ニ立テ、奇跡怪談ハ勿論万事万物悉ク神ノ前定ニ歸シタリ、ウヰルツハ之ヲ受テ世ノ獨斷的宗教家ノ如ク神ノ不思議力ニ由リテ天啓アリト論シテ、天啓ヲ以テ理外ノ理トナセシカバライマルニスハ之ニ反シテ、天啓モ奇跡モ共ニ万有自然ノ規律中ニ存スルモノニシテ、天下何ノ處ニカ理外ノ理ナルモノアラフヤト論スルニ至リタリ、

夫シ然リ然リト雖モ宗教ハライマルニスノ如ク一概ニ道理ノミヲ以テ説クベカラス、何トナレハ道理ハ相對中ニテ知ルイナレハ、相對ヲ超越シタル絕對ヲ知ルイ能ハザルナリ、縱ヒ之ヲ知ルイヲ得トスルモ、是唯絕對アルイヲ知ルノミニシテ、絕對ノ何タルカニ至リテハ決シテ知ルベカラザルナリ、然レバ絕對ノ何タルヲ知ラズニハ、是非トモ天啓ニ由ラザルベカラズ、天啓無クソハ如何ソ絕對ノ狀況ヲ知ルイヲ得、若シ吾人ニシテ絕對ナシト云ハ止マシ、苟モ絕對アリトセハ之ヲ知ルニハ必ズ天啓ニ藉ラサルベカラザルヤ明ナリ、之ヲ例ヘバ、吾人ト他ノ下等動物トヲ比較スルカハ、吾人ハ他ノ下等動物ヨリ多クノ感能并高等ノ知見ヲ有スルヲ知ルベシ、此理ヲ以テ推スルカハ宇宙ノ廣大世界ノ多ク、何處ニカ六感以上ヲ有スルモノナシト云フヲ得、然レモ其六感以上ノ感覺ノ何タルハ、吾人ノ如キ五感ヲ有スルモノ、知ルカカラザル所ナレモ、若シ六感以上ヲ有スルモノヨリ其感覺ノ何タルヲ我人ニ啓示セバ、吾人ハ多少之ヲ知ルイヲ得ヘキ理ナリ、之ニ由テ之ヲ觀ルニ、吾人ハ絕對ノ何タルヲ知ラザレモ、其啓示ニ由リテ始テ之ヲ知ルイヲ得ルナリ、若シ吾人が絕對ノ何タルヲ啓示ニ由ラズシテ、直接ニ我智力ニヨリテ知ルイヲ得ルカハ、其絕對ハ絕對ニアラズシテ相對ナリ、然レハ絕對ハ吾人ノ智識經驗ニ超越シタル不可知的ノ存在ニシテ、天啓ニ由ルニアラザレバ到底知ルイ能ハサルモノナリ、故ニ宗教ハライマルニス及ヒウヰルツノ論スル如ク、天啓ト道理トヲ一致結合セシメサルベカラサルナリ、何トナレハ道理ナキノ天啓ハ妄誕タルヲ免レズ、天啓ナキモ道理ハ淺近タルヲ免レザレバナリ、是ヲ以テ佛教ノ如キ哲學的ノ宗教ニテモ、其裡面ニハ天啓ナルモノアリテ、吾人ハ過去未來地獄極樂ノ有様如何ヲ知ルイ能ハザレモ、釋迦ノ啓示ニ由リテ之ヲ知ルニアラスヤ、是レ所謂釋迦ノ天啓ナリ、之ヲ要スルニ宗教ハ天啓ヲ離ルベカラザルト、同時ニ又道理ヲモ離ルベカラサルモノナリ、

ツハ之ニ反對シテ、道理上神ヲ外界ニ立テ、奇跡怪談ハ勿論万事万物悉ク神ノ前定ニ歸シタリ、ウヰルツハ之ヲ受テ世ノ獨斷的宗教家ノ如ク神ノ不思議力ニ由リテ天啓アリト論シテ、天啓ヲ以テ理外ノ理トナセシカバライマルニスハ之ニ反シテ、天啓モ奇跡モ共ニ万有自然ノ規律中ニ存スルモノニシテ、天下何ノ處ニカ理外ノ理ナルモノアラフヤト論スルニ至リタリ、

夫シ然リ然リト雖モ宗教ハライマルニスノ如ク一概ニ道理ノミヲ以テ説クベカラス、何トナレハ道理ハ相對中ニテ知ルイナレハ、相對ヲ超越シタル絕對ヲ知ルイ能ハザルナリ、縱ヒ之ヲ知ルイヲ得トスルモ、是唯絕對アルイヲ知ルノミニシテ、絕對ノ何タルカニ至リテハ決シテ知ルベカラザルナリ、然レバ絕對ノ何タルヲ知ラズニハ、是非トモ天啓ニ由ラザルベカラズ、天啓無クソハ如何ソ絕對ノ狀況ヲ知ルイヲ得、若シ吾人ニシテ絕對ナシト云ハ止マシ、苟モ絕對アリトセハ之ヲ知ルニハ必ズ天啓ニ藉ラサルベカラザルヤ明ナリ、之ヲ例ヘバ、吾人ト他ノ下等動物トヲ比較スルカハ、吾人ハ他ノ下等動物ヨリ多クノ感能并高等ノ知見ヲ有スルヲ知ルベシ、此理ヲ以テ推スルカハ宇宙ノ廣大世界ノ多ク、何處ニカ六感以上ヲ有スルモノナシト云フヲ得、然レモ其六感以上ノ感覺ノ何タルハ、吾人ノ如キ五感ヲ有スルモノ、知ルカカラザル所ナレモ、若シ六感以上ヲ有スルモノヨリ其感覺ノ何タルヲ我人ニ啓示セバ、吾人ハ多少之ヲ知ルイヲ得ヘキ理ナリ、之ニ由テ之ヲ觀ルニ、吾人ハ絕對ノ何タルヲ知ラザレモ、其啓示ニ由リテ始テ之ヲ知ルイヲ得ルナリ、若シ吾人が絕對ノ何タルヲ啓示ニ由ラズシテ、直接ニ我智力ニヨリテ知ルイヲ得ルカハ、其絕對ハ絕對ニアラズシテ相對ナリ、然レハ絕對ハ吾人ノ智識經驗ニ超越シタル不可知的ノ存在ニシテ、天啓ニ由ルニアラザレバ到底知ルイ能ハサルモノナリ、故ニ宗教ハライマルニス及ヒウヰルツノ論スル如ク、天啓ト道理トヲ一致結合セシメサルベカラサルナリ、何トナレハ道理ナキノ天啓ハ妄誕タルヲ免レズ、天啓ナキモ道理ハ淺近タルヲ免レザレバナリ、是ヲ以テ佛教ノ如キ哲學的ノ宗教ニテモ、其裡面ニハ天啓ナルモノアリテ、吾人ハ過去未來地獄極樂ノ有様如何ヲ知ルイ能ハザレモ、釋迦ノ啓示ニ由リテ之ヲ知ルニアラスヤ、是レ所謂釋迦ノ天啓ナリ、之ヲ要スルニ宗教ハ天啓ヲ離ルベカラザルト、同時ニ又道理ヲモ離ルベカラサルモノナリ、

以上カント以前ニ於ケル獨國宗教哲學ノ概略ヲ論シタレハ、以下カント以前ニ於ケル英國宗教哲學ノ概略ヲ論スベシ、抑モ英國ニ於テハ、ベーン氏ヲ初メトシ、以下ホブス、ロブク、ヒニーム等ノ諸氏、悉ク經驗論ヲ主張シテ、歸納的ノ研究ヲ重シタリシカバ、神學上ノ解釋ニモ亦經驗的歸納的ノ研究法ヲ用井ルニ至リタリ、故ニ英國宗教哲學ノ起リハ、獨國宗教哲學ノ起リトハ異ナルナリ、是レ恰モ英國哲學ト獨國哲學トノ異ナル如ク、一ハ思想ヲ本トシ、一ハ經驗ヲ本トセリ、然リ而シテ獨國ニテハ、ウッフルフ及ヒライマルヌスノ時代ニハ、其說ク所稱、通俗ニ走リシガ英國ニテモ、此時代ニハ亦高尚ノ趣ヲ有セス、徒ラニ其研究ヲ人智以內ニ止メタル傾キアリキ

ヘルベルト (Herbert)

ヘルベルトハ英國有神學ノ始祖ナリ、氏ハ本ト政治家ニシテ、其ノ四方ヲ遊歴スルノ際、多クノ宗教家ト交際シテ、其談論ヲ聽キ大ニ感スル所アリシガ、後眞理トハ如何ナルモノカト云フ疑問ヲ起シ、終ニ眞理ノ本源ハ本然性共同の念想ナルトヲ發見セリ、而シテ此念想ハ經驗ヨリ生スルモノニアラスシテ、經驗ニ先チテ存スルモノナル故、此念想ハ一切經驗ノ根本トナリ、而カモ衆人一般ニ共同一致スル所トスモノナリ、嗚呼此念想ヤ眞理ノ本源トナリ、道德宗教ノ基礎トナルモノナリト論セリ、而シテ氏ハ宗教ハ人間ニ必須缺クヘカラサルモノニシテ、苟モ人間タル以上ハ必ス具有スル所ノモノニシテ、人ノ人タル所以、動物ニ異セル所以ハ、全ク此ニアリ、斯ノ如ク宗教ハ何人ニモ具有スル所ノモノナレバ、世ニ眞ノ無宗教ナルモノアルトナシ、表面ニハ無宗教家ノ如ク見ユル人ト雖、是唯タ世間普通ノ宗教ヲ信向セザルニアラスシテ、其裡面ニハ必ス一種ノ宗教ヲ有スルモノナリ、故ニ若シ人ニシテ眞ニ宗教ヲ排斥スルモノアラハ、是宗教ヲ排斥スルモノニアラスシテ、本然性共同の念想、即チ眞理ノ根本ヲ排斥スルモノナリ、斯ノ如キトハ決シテ爲シ得ヘカラザルトナリト論セリ、氏ハ又宗教ノ目的ヲ論シテ曰ク、宗教ハ人ヲシテ善ト合シ、人ト人トノ間ヲ平和セシムルニ在リ、然レモ世ノ宗教上ノ傳説悉ク此目的ニ合スルモノニアラス、故ニ其傳説中、悉ク共同の宗教原理ヲ發見セシニハ、古來世ニ存スル所ノ多クノ宗教ヲ比較研究シテ、何レノ宗教ニモ共同一致スル所ノ眞理ヲ抽象概括シ、之ヲ以テ共同の宗教原理ト定メザルベカラズ、斯クノ如クスルトハ何レノ宗教ニモ共同スル所ノ五個ノ原理アルトヲ發見スルナリ、其五個ノ原理トハ第一

以上カント以前ニ於ケル獨國宗教哲學ノ概略ヲ論シタレハ、以下カント以前ニ於ケル英國宗教哲學ノ概略ヲ論スベシ、抑モ英國ニ於テハ、ベーン氏ヲ初メトシ、以下ホブス、ロブク、ヒニーム等ノ諸氏、悉ク經驗論ヲ主張シテ、歸納的ノ研究ヲ重シタリシカバ、神學上ノ解釋ニモ亦經驗的歸納的ノ研究法ヲ用井ルニ至リタリ、故ニ英國宗教哲學ノ起リハ、獨國宗教哲學ノ起リトハ異ナルナリ、是レ恰モ英國哲學ト獨國哲學トノ異ナル如ク、一ハ思想ヲ本トシ、一ハ經驗ヲ本トセリ、然リ而シテ獨國ニテハ、ウッフルフ及ヒライマルヌスノ時代ニハ、其說ク所稱、通俗ニ走リシガ英國ニテモ、此時代ニハ亦高尚ノ趣ヲ有セス、徒ラニ其研究ヲ人智以內ニ止メタル傾キアリキ

宗 教 概 論

神ヲルテ、第二入ハ神ヲ崇拜スル義務ヲ有スルヲ、第三神ヲ崇拜スル要點ハ徳ト信
 向トヨリ成ルヲ、第四若シ罪過ヲ犯シタルハ懺悔シテ善ニ歸ルヲ以テ善ノ一部
 分トスルヲ、第五此世界并ニ未來ニ於テ賞罰アルト是ナリ、意フニ是ゾ則チ何レノ
 宗教ニモ存スル所ノ共同的念想ニシテ、宗教ノ骨髓トナリ、宗教ノ基礎トナリテ缺
 クベカラサル原理ナリトセリ、然レモ此五個ノ念想ハ何故眞理ナリヤノ疑問ニ就
 テハ、氏ハ之ヲ説明セサズ、
 氏又宗教ノ起原ヲ論シテ曰ク、宗教ハ二個ノ天啓ヨリ成レルモノナリ、即チ一ハ
 内部ノ天啓ニシテ、一ハ外部ノ天啓ナリ、内部ノ天啓トハ神カ吾人ノ心中ニ宗教心
 ヲ賦與シタルノ謂ニシテ、即チ神カ吾人ノ心中ニ吾人ガ未來永遠ノ生活ヲ求メ幸
 福ヲ祈フ所ノ心ヲ賦與シタルナリ、而シテ其心中ニ神カ神ノ存在スルヲ暗ニ吹
 込ミタル故、吾人ガ未來永遠ノ生活ヲ求メ幸福ヲ祈フ心ノ中ニ、自然ニ神ノ存在ス
 ルヲ信スルノ心ヲ生スルナリ、外部ノ天啓トハ世界創造ノ作用是ナリ、世界ヲ見
 ルニ事々物々皆不思議ニシテ、苟クモ目ヲ有スルモノハ、之ヲ見テ直チニ神アルト
 チ發見セサルナシ、而シテ世界創造中不思議ノ最モ著大ナルモノハ天啓ナリ、天啓

宗 教 概 論

ハ神ノ永久無量ノ幸福ノ有様ヲ寫シ顯シタルモノニシテ、何人モ其尊高ナルヲ知
 リ其不思議ナルヲ知ルモノナリ、故ニ之ヲ見ルハ忽チ神ヲ信スルノ心ヲ生スル
 ナリ、而シテ天啓中殊ニ太陽ハ神ノ盛徳ヲ顯シタルモノナル故、無智昧ノ原人モ
 尙ホ且ツ之ヲ崇拜シタリキ、夫レ然リ斯ノ如ク人々ノ天啓ヲ崇拜スルハ、之ヲ唯ダ
 目前ニ現スル所ノ一種不可思議ノ物體ナリトシテ崇拜スルノミナラズ、其物體ハ
 以テ神ノ徳ヲ摸擬シ神ノ徳ヲ表顯シタルモノトシテ崇拜スルナリ、換言スレハ天
 啓ヲ崇拜スルハ、其有形中ニ神ノ性徳ヲ寄寓スルモノナリトシテ崇拜スルナリ、故
 ニ上古ノ宗教ト雖モ、決シテ迷信妄想ニアラスシテ、却リテ純粹潔白ナルモノナリ、
 其天啓ヲ崇拜スルニモ共同的宗教原理ニ基キテ道德ヲ目的トセシガ、其後漸次ニ
 其風ヲ失ヒ、終ニ共同的宗教原理ヲ外ニスルニ至レリ、蓋シ是レ宗教ノ主動者タル
 僧侶ガ利慾ニ耽ケリ自己ヲ利セシメ種々ノ儀式方法ヲ設クテ以テ衆人ノ信向
 ヲ買ハントセシ結果ナリ、然レモ當時時人若クハ哲學者ハ此ノ惡シキ僧侶ノ籠絡
 手段ニ陥ラスシテ、共同的原理ヲ有スル所ノ純粹潔白ナル宗教ヲ信シ居タリキ、斯
 ノ如キ弊風ノ行レシハ、當ニ耶穌教外ノ宗教ノミナラズ、耶穌教其レ自身モ亦中世

時代ニハ此弊風ニ陥リシト雖モ、然レモ耶蘇教ハ他ノ宗教ニ率先シテ早クモ其宿弊ヲ改メテ本源ニ還リ、共同的宗教原理ニ由リテ道德ヲ主トスルニ至リタリ、是耶蘇教ノ他教ニ優ル所以ナリ、(是ハ是レ舊教ノ弊ヲ矯ムルニ新教ヲ以テシタルノ謂ナルベシ)然リ而シテ斯ノ如ク他教ニ率先シテ其宿弊ヲ改メシ耶蘇教モ、年月ヲ經ルニ隨ヒ、漸次ニ共同的宗教原理ヲ昏マシ、今日トナリテハ稍迷信妄想ノ傾向ヲ生ズルニ至レリト論セリ、

上來述ル處ノ五個ノ原理ナルモノハ、氏ノ一家言タルニ過キズ、何トナレハ氏ハ五個ノ原理ヲ以テ如何ナル宗教ニモ具有スル所ノ共同的念想トスレモ、然レモ氏ハ當時世ニ知ラレタル僅少ノ宗教ヲ比較シテ歸納セシ所ノモノナレハ、未タ之ヲ以テ世界ニアリト有ラユル宗教ニ共通スル所ノ原理ト爲スベカラザレバナリ、之ヲ要スルニ氏ノ說ハ經驗學上ヨリ歸納的ニ研究セシモノナレハ、其議論淺薄ニシテ宗教哲學トシテノ價直少シト雖モ、一タビ此說ノ出テシヨリ、英國神學者社會ニ大ナル影響ヲ及ボシ、後來宗教ヲ論スルノ學者ハ概チ之ヲ基礎トナシ模範トナスニ至レリ、

ホップス氏

宗 教 哲 學

前ニ述ベタルガ如クヘルバルトハ英國經驗學者ノ一人ニシテ、其宗教ヲ論スルヤ專ラ歸納ニ據リ、經驗上諸般ノ事實ヲ集テ、宗教心ハ何人ニモ具有シ、且ツ宗教ハ何レノ社會ニモ存シテ、人類ニ必須缺クベカラザル道德ヲ目的トスルモノナリト論シテ、宗教ト道德トヲ一致混同セリ、斯ノ如ク氏ハ經驗ニ據リ事實ニ徴シテ宗教ヲ論スレモ、敢テ唯物論ヲ唱ヘテ、神ノ存在ヲ虛無ニ歸シ去ルモノニアラス、却リテ之ヲ以テ神ノ存在ヲ證明シテ有神論ヲ唱ヘタリキ、是ヲ以テ氏ノ說ハ從來ノ獨斷的宗教家ノ如ク、バイナルヲ以テ唯一無二ノ天啓ノ經典ナリト信シテ、理非眞偽ノ區別無ク、獨斷的ニ神ノ存在ヲ論スルモノト同カラザルヤ知ルベシ、然ルニ氏ノ如ク經驗論ヲ唱ヘナガラ、唯物主義ニ據リテ有神論ヲ主張シテ、氏ノ宗教論ニ反對セシモノハホップスナリトス、

氏ハ近世ノ唯物論唯覺論ノ祖先ナレバ、其宗教ヲ論スルニ於テモ亦唯物主義ニ據リテ有神論ヲ唱ヘタリ、諸フ少ク之ヲ述ベシ、抑モ氏ハペーコンノ流義ヲ汲ミ、經驗主義ヲ心理、政治、道德、宗教等ノ上ニ適用シテ、吾人ノ智識思想ハ悉ク感覺ヨリ生ス

ルモノニシテ、感覺中ニ合離ノ兩作用アリテ、或ハ集合シ、或ハ分離シテ種々ノ思想ヲ生スルモノナリト論セリ、嘗ニ智識思想ノミ感覺ヨリ生スルニアラス、道德モ宗教モ亦共ニ感覺ヨリ生スルモノニシテ、而シテ其感覺タルヤ苦樂ノ二種ニ外ナラズ、苦ハ以テ吾人ノ生活ヲ妨ク、樂ハ以テ吾人ノ生活ヲ助クルモノナレハ、吾人ハ常ニ苦ヲ避ケテ樂ニ就カンコトヲ求ムルモノナリト論シテ、道德上ニ自利主義ヲ唱ヘ、道德ハ苦痛ヲ避ケテ快樂ヲ求メ、成ルベク吾人ノ生活ヲ安全ニスルコトヲ計ルヲ目的トスルモノニシテ、彼ノ人ヲ愛シ人ヲ救フカ如キコトモ、其實、自利心ヨリ生スルモノニシテ、人ヲ愛シ人ヲ救フハ、他日己レノ是ニ愛セラレ、救ハレシコトヲ計ルヨリ生スルモノニシテ、吾人ノ天性ハ極メテ惡ナルモノナレバ、人々相集リテ社會ヲナシ國家ヲ立ルハ、必ス君主ノ專制ヲ以テ法律政令ヲ作り、以テ之ヲ支配セザルヘカラス、若シ君主ノ制裁ナキトキハ、吾人ハ互ニ己ノ自利ヲ求メンガ爲ニ或ハ争ヒ或ハ戦ヒ或ハ竊盜シ、或ハ殺害シテ禽獸社會ト撰テ所ナキニ至ル故、是非トモ法律政令ノ賞罰ニ由ラテ之ヲ制裁セザルヘカラス、法律政令ノ賞罰アリテ、始メテ人ハ安全ニ幸福ヲ求ルコトヲ得ルニ至ルナリト論シテ、道德ト政治トヲ混同シテ、道德ノ標準ハ君主ノ命令ニ從フト否トニアルモノニシテ、道德上ニ所謂善惡ナルモノハ本來其區別アルモノニアラスシテ、唯ダ當時ノ社會ノ好惡スル所ニ由リテ生スルモノナリト論セリ。

右ノ如ク政治上ニ於テハ賞罰アルガ爲ニ、人々之ヲ恐レテ惡ヲ捨テ、善ニ赴クガ如ク、宗教上ニ於テモ亦賞罰アルガ爲ニ、人々惡ヲ捨テ、善ニ赴クナリ、而シテ其賞罰タルヤ神ガ死後ニ於テ之ヲ爲スモノ故、吾人ハ之ヲ知ルコト能ハスト雖モ、吾人ハ其神ヲ恐レ、其實罰ヲ怖ルカ爲メ、隨テ惡ヲ捨テ、善ニ赴クニ至ルナリ、然ルニ政治上ノ賞罰ハ、可視的ノ賞罰ナレバ、宗教上ノ賞罰ハ、不可視的ノ賞罰ナレバ、其ハ唯々人ヲシテ善ニ赴カシメンガ爲メ、便宜上ノ方便タルニ過キスト論スレバ、世界ノ創造者タル神ヲ否定シテ空無ニ歸セシニアラスシテ、神ノ存在ハ暗々裡ニ許諾セシモノ、如シ然レバ神ハ遠ク吾人ノ智識ノ外ニアリテ知ルベカラザルモノナレハ、之ヲ道理上證明スルコト能ハズ、又彼ノバイブルノ如キハ天啓ノ經典ナリト雖モ、亦之ヲ目前ニ證據立ルコト能ハズ、而シテ死後ニ神ノ賞罰アルカ如キコトモ、亦道理上研究スルコト能ハズ、唯々聖書ニ於テ信スルノ外ナシト謂ヒテ、是等ニ關スル議論ハ一切

宗 教 管 學

氏ハ更ニ論ンテ曰ク、人ニ宗教心アルハ先天的ニ存スルニアラスシテ、唯ク恐怖ト無智ト依頼心トノ三事情ヨリシテ生スルモノアリ、即チ人ハ無智ニシテ事物ノ道理ヲ知ラサル故、死後ノ事ヲ恐レ或ハ神ノ冥罰ヲ蒙ラン事ヲ怖レ、終ニ他ニ依頼シテ救助セラレノコトヲ求ムルニ至ル、是ニ於テヤ人々ニ宗教心ナルモノ生シテ、何レノ社會ニモ宗教ヲ形作ルニ至ルナリ、而シテ宗教ハ彼ノ政治道德ト同ク、其目的勸善懲惡ニアリ、テ、即チ人ヲシテ惡ヲ去リテ善ニ就カ令ルモノナル故、人々ノ安全幸福ヲ求ル爲ニハ必要缺クベカラザルモノナリ、若シ宗教ナキハ到底社會ノ安寧ヲ保チ民衆ノ幸福ヲ求ルコト能ハザルナリ、其レ然リ宗教モ政治モ其目的同一ナル故、政治上ヨリ之ヲ云ヘハ、宗教ハ政治ノ一部分ト云フヘク、又宗教上ヨリ之ヲ云ヘハ、政治ハ宗教ノ一部分ト云フベシ、斯ノ如ク宗教ハ政事ノ一部分ニシテ、政治ハ亦宗教ノ一部分ナルヲ以テ、宗教モ政治モ共ニ主權者ノ命令ニ由リテ定ムベキモノニシテ、主權者ハ即チ此二者ヲ制定スルノ權力ヲ有スルモノナリ、故ニ主權者ハ命令ヲ以テ一國ノ宗教ヲ定メ、臣民ヲシテ悉ク之ヲ信セシムザルベカラズト、且ツ上

宗 教 管 學

ニモ論セシカ如ク善ト云ヒ惡ト云フハ、本來一定ノ性質アルニアラスシテ、唯其時ノ社會ノ事情ニ由リテ定ルモノナル故、宗教ノ善惡其否モ亦本來一定シタルモノニアラスシテ、唯ク其國ノ事情ニ適スルト適セザルトニ由ルモノニシテ、即チ其國ノ事情ニ能ク適スルハ、之ヲ以テ良宗教ト稱スベク、之ニ反シテ其國ノ事情ニ適セザルハ、不良宗教ト稱スベシ、故ニ若シ主權者ガ其國ノ事情ニ最モ能ク適シタル宗教ヲ定ルハ、臣民ハ必ス之ニ信服セザルベカラズト論シテ、國教ノ設定ヲ主張セリ、

斯ノ如ク氏ガ銳意熱心ニ王政ノ民政ニ優ルヲ論シ、國教組織ノ自由信教ニ勝ルヲ論シタルモノ、豈ニ故ナクシテ可ナランヤ、蓋シ氏ハテヤールス二世ニ臣事シタル人ナルガ、當時王政大ニ亂レテ民權盛ニ行レ、人々自利私慾ノ爲メニ相争ヒ、職紛々躊躇スル所ナカリシカハ、氏ハ以爲ラク是レ國民ヲ統率スルノ君主無ク、民心ヲ統一スルノ國教ナキニ由ルモノナリトテ、其王政ノ衰勢ヲ挽回センガ爲メニ、王政ノ民政ニ優リタルヲ既キ、國教ノ自由信教ニ勝リタルヲ論セシモノナランカ、之ヲ要スルニ氏ノ宗教論ハ實際上ヨリ論シタルモノニシテ、學術上ヨリ之ヲ分解シ、或

ハ之ヲ結合シテ其原理規則ヲ講究スルモノニアラザル故之ヲ稱シテ宗教哲學ト
ハ云フベカラザルナリ然ルニ此弊ヲ一洗シテ學理上ヨリ宗教ノ本心宗教ノ原理
等ヲ説明セシモノハロウグ氏ナリトス

ロ、ク

氏ハロウグスニ繼テ經驗哲學ヲ主張スレバ其論スル所ホフアストハ異リテ人心ノ上
ヨリ宗教心ノ本然ナルカ經驗ナルカヲ攷究シテ終ニ宗教心ノ本然ニアラスシテ
經驗ヨリ來ルヲ證明セリ曰ク一タビチカトト氏ガ人智ノ本然説ヲ唱ヘテ以來
人皆之ニ和シテ復タ一人ノ之ニ疑問ヲ起スモノナカリシカハ氏ハ之ニ反對シテ
人ノ心意ハ本來無思無念ニシテ恰モ一點ノ墨痕ナキ白紙ノ如キモノナレハ宗教
心モ神ノ存在ニ關スル觀念モ本來心意ニ有スルモノニアラスシテ教育經驗ノ力
ニ由リ後天的ニ生シタルモノナリ何トナレバ彼本然説ヲ主唱スル人ハ其證トシ
テ何ノ地ノ人間ニモ本來同様ノ性質即チ神ノ存在ニ關スル思想ヲ有スルヲ示
スナレバ是レ甚タ不當ノ事ニシテ何レノ地ノ人間ニモ本來神ノ思想ヲ有スルモ
ノニアラス若レ何レノ地ノ人間ニモ本來神ノ思想ヲ有スルモノナレバ世ニ無神
者ノアルヘキ筈モ無カルヘキニサハ無クシテ世ニハ往々無神論者モアリ且ツ或
ル種シ如キ之ニ向テ神ノ存在等ニ關スルコトヲ聞カ合ルハ皆ニ之ヲ知ラザルノ
ミナラズ却リテ之ニ就テ奇異ノ觀念ヲ惹起スルコトアリ若シ又神ニ關スル觀念ハ
一般ニ有スルトスルモ甲入種ノ神ノ觀念ト乙入種ノ觀念トハ大ニ異ナリテ同様
ノ性質ヲ有スルモノニアラズ是レ宗教心ノ生シテ後教育經驗ノ力ニ由テ生シタ
ルコトノ明確ナル證左ニアラスヤ然ラハ宗教心ナルモノハ吾人ガ教育經驗スルノ
際種々ノ性質種々ノ思想中ヨリ最高最上ノモノヲ取り集メタルニ過ギズ故ニ宗
教心ナルモノハ其實吾人ノ想像上ヨリ生シタルモノニシテ本來確乎不拔ノ原理
トシテ存スルモノニアラスト

若シ斯ノ如ク論スルハ神ハ眞實ニ存在スルモノニアラザルカト云フニ氏ハ之
ニ答ヘテ曰ク世界ノ構造ト吾人ノ組成トノ兩點ヨリ推究スルハ神ハ必ズ存在
セザルベカラザルナリ何トナレハ世界ト吾人トガ存在スル所以ノモノハ必ズ之
ガ創造者タル原因トナルベカラズ既ニ原因アレバ其原因ノ原因ト次第ニ溯リテ
其初ニ推測スルハ其第一原因タル神ノ存在スルコトヲ知ルナリ然レ而シテ其第
二原因

一原因ナル神ハ最高最上ノモノナリ。ナルベカラズ何トナレハ神ハ世界ト吾人ヲ
 創造シタルモノナレハ世界ト吾人トヨリモ遙ニ勝ルモノニアラザレハ之ヲ創造
 スルコト能ハザレバナリ。且ツ又神ハ最上ノ智識ト最高ノ思想ト有スルモノナラ
 ザルベカラザルナリ。何トナレハ吾人ヌラ既ニ幾分ノ智識ト思想ト有スルモノ
 ナレバナリ。况ンヤ之ガ創造者タリ主宰者タル神ニ在テハ最上ノ智識ト最上ノ思
 想ト有スルハ論ヲ待タザルナリ。若シ神ニ智識思想ナキハ如何ニシテ吾人ノ
 如ク智識思想ヲ有スル者ヲ創造セシヤ。無ヨリ有ヲ生スルハ論理ノ許サ、ル所ナ
 レハ神ニ智識思想ナシトハ云フベカラザルナリ。
 前述ノ如ク氏ハ神ノ存在ヲ否定スルモノニアラズト雖モ之ニ關スル思想ヲ以テ
 先天的ノモノトナサズシテ後天的經驗ノ結果ナリトセリ。是レ氏ガホフスヨリモ
 其論ヲ一步進メタル所ナリ。ホフスハ神ノ存在ヲ空無ニ歸セシコトアラザレハ之
 ヲ以テ道理上研究スベカラザルモノトシテ、理外ニ拋棄シテ唯々實際便宜上ノ爲
 ニ神ヲ設ルモノ、如ク論ズレトモ、ホフスハ之ヲ以テ道理上研究スベキモノトセ
 ン。又ホフスハ天啓ヲ以テ道理上研究ノ外ニ置クモ、ホフスハ之ヲ以テ道理上研究ノ中ニ

置キ、万有自然ノ道理ヲ以テ研究スベキモノトセリ。彼ノ獨斷的宗教家ノ如キハ天
 啓ヲ以テ神ノ秘密不思議トナシ、吾人ノ智識道理ヲ以テ知ルベカラザルモノトナ
 シ、ホフスハ之ニ反對シテ天啓ハ万有自然ノ道理ニ反スルモノニアラズシテ、吾人
 ノ智識道理ヲ以テ研究シ得ベキモノナリ。若シ智識道理ヲ離レテ之ヲ知ラントス
 ルハ、ホフスニ天啓ノ何物タルヲ知ルコト能ハザルノミナラズ、併セテ神ノ存在ヲモ知
 ルコト能ハザルナリ。是レ恰モ肉眼ニテ見ルベカラザル星ヲ見ルニハ望遠鏡ヲ以テ
 セヨト云ヒツ、之ヲ見ルニ當リテハ却リテ肉眼ヲ閉ヂテ望遠鏡ニ向ヘト云フニ
 異ナラザルナリ。神ハ吾人ノ肉眼ニテ見ルベカラザルモノ故、之ヲ見ルニハ天啓ノ
 望遠鏡ニ由リテ見サルベカラザルナリ。然ルニ之ヲ研究スルニ智識道理ヲ外ニセ
 コト云フハ、ホフスハ兩眼ヲ閉ヂテ望遠鏡ニ向ヘト云フト奚ソ、異ナラント論セリ。
 以上述フル所之ヲ要スルニホフスモ、ホフスモ共ニ經驗說ヲ唱ヘタル人ナリト雖モ、
 其宗教上ニ於ケル實際ノ議論ニ至リテハ、ホフスニ異ナル所アリ、ホフスハ政治ト
 宗教トヲ混同シテ共ニ君主ノ命令ニ從フベキ者トセラシメ、ホフスハ之ニ反レテ
 若シホフスノ如ク政治ト宗教トヲ混同スルハ、是レ恰モ神ト人トヲ混同シテ天

地トテ同スルカ如ク、國教ノ權限ヲ免レズト云ヘリ、又ハ、王者ノ命令ニ由リテ國教ヲ一定スルノ必要ヲ論ジタルモ、ロウクハ之ニ反シテ宗教ノ自由ヲ説キタリ、曰ク國民ヲシテ宗教自由ヲ得セ令ルハ、却リテ一國ノ平和ヲ保フニ便アリ、何トナレハ若シ君主ガ國民ノ信向上ニマテ立入りテ、過多ノ關涉ヲ加フルハ、之ガ爲メニ己ノ好ム所ノ宗教ヲ捨テ、或ハ己ノ好マザル所ノ宗教ヲ信セザルベカラザルニ至ル故決シテ一國ノ平和ヲ保ツコト能ハザレバナリ、故ニロウクハ宗教ナルモノハ政治止テ於テモ、一國ノ安寧秩序ヲ妨害セザル以上ハ、成ルベク自由ニセザルベカラズト云ヘリ、氏ノ此自由宗教説ニ同意セシモノハシヤフツベリーナリトス。

シヤフツベリー氏

氏ハ倫理上ニ於テハ道德ノ本心ナルモノヲ説キテ、ホフスノ自利既ニ反對セリ、且フ氏ハ哲學上倫理學上並ニ宗教上其他ノ點ニ於テハ、ロウクト大ニ其説ヲ異ニスレバ、信向ノ自由ヲ説ク點ハ之ニ同意セリ、即チ氏ハ人ノ信向ノ自由ヲ妨ルコトハ、恰モ重荷ヲ負フコト、牛馬ガ脚者ノ命ヲ受ルガ如ク、壓抑ノ最モ甚シキモノナレバ、必ス之ヲ自由ニセザルベカラズト論セリ。

夫レ然リ然リト雖モ、ロウクハ道德心ナルモノハ教育經驗ノ力換言スレハ人造ニ由リテ生スルモノナリト論スレバ、シヤフツベリーハ之ニ反シテ道德心ナルモノハ教育經驗ノ力ヲ待ダズシテ、自然ニ發スル所ノ自然的本性トセリ、曰ク道德ハ恰モ天地間ノ万物ガ和合シテ、爰ニ美ヲ生スルガ如ク、人間ノ心ノ和合ニ由リテ生スル所ノ美ナリ、人間ノ心ノ中ニハ種々ノ性質アルモ、其性質能ク調整和合スルハ、自然ニ美ヲ顯シテ、高德ノ人トナルナリ且ツ人心ニハ三個ノ反對性アリ、一ハ利己心ニシテ一ハ社交心ナリ、利己心ハ己レ一人ノ健全幸福ヲ目的トスルモノニシテ、社交心ハ公衆ノ健全幸福ヲ目的トスルモノナリ、其利己心モ社交心モ各々調和適合シテ、其中庸ヲ得ルハ、自然ニ完美ヲ顯スモノナレバ、然レハ一方ニ偏倚シテ過不及アルハ、忽チ美德ヲ失フニ至ルヘシ第一利己心ニ就キテ之ヲ言ハソニ人ハ己レノ衣食住ヲ求メサルベカラズ、又健全無病無生活ヲ求メサルヘカラザル故、利己心トサヘ云フハ、一モ二モ無ク悉ク、羅トハ云フベカラズ何トナレバ利己心トテモ能ク其中庸ヲ得ルニ至ル健全幸福ヲ得ルハ、自然ニ其美ヲ顯シテ所謂調和ヲ得

不幸福ヲ得テ自然ノ美德ヲ顯スル能ハサルベシ第二社交心ニ就キテ之ヲ言ハシ
ニ社交心モ能ク其調和適合ヲ得テ其場合ト其事情トニ適合スルルハ吾人ノ満足
幸福ヲ得ベシト雖モ若シ之レニ反シテ其中庸ヲ失フルハ吾ガ心ニ不満不快ヲ生
スルナリ故ニ道德上ノ賞罰ハ吾ガ心ノ上ニアリテ若シ一方ニ偏シテ心ノ調和ヲ
失フルハ不徳トナリテ吾心ニ不満不快ヲ感シ若シ之ニ反シテ心ノ調和ヲ得テ完
美ヲ顯スルハ吾心ニ快樂満足ヲ得ルナリ之ヲ要スルニ道德ハ人心ノ調和ニ由リ
テ生スルモノニシテ而カモ其調和ハ教育經驗ノ力ヲ借ラズ自然ニ起ルモノナレ
ハ道德ノ本心ハ自然ニ生スルモノト云ハザルベカラズ
又氏ハホッブスノ宗教上未來ノ賞罰ヲ立テ以テ治國平天下ノ好方便ト爲セシモ
ノニ反對シテ曰ク賞罰ハ宗教ノ眞面目ニアラス賞罰ヲ以テ人ヲ徳ニ導カントス
ルハ恰モ兒童ヲ導クニ答ト砂糖トヲ以ラシテ善事ヲナセハ砂糖ヲ與ヘ惡事ヲナ
セバ答ヲ加フルカ如シ斯ノ如キ賞罰ヲ以テ人ヲ徳ニ導ク宗教ハ是レ野蠻社會ノ
宗教ニシテ又之ヲ信スル人ハ文明有智ノ人ニアラスシテ無智無學兒童ノ如キ人

ナリ斯ノ如キ人ハ成ルベク教育シテ眞正ノ宗教ヲ信スル様ニ爲サザルベカラズ
而シテ眞正ノ宗教ハ其骨髓變ノ一點ニアリテ愛ヲ以テ心ノ調和適合ヲ謀ラザル
ベカラズ故ニ耶穌教ノ如キ完全ナル宗教ハ人ニ教ユルニ愛ヲ以テホリト論セリ
上ニモ既ニ批ベシカ如ク氏ハホッブスノ國教主義ニ反對シテ宗教ノ信向ハ各自
ノ自由ニ任カセ政府ノ敢テ干涉スベキモノニアラズト論シタルハ然レモ宗教ノ政
治ニ關スル部分ニテハ必ス政府ノ干涉保護ヲ受ケザルベカラズトテ僧侶ノ教育
寺院ノ廢立等ノ一ハ政府ノ干涉保護スベキモノトセリ
氏ハ又宗教ト道德トヲ一致シテ分離スベカラザルモノトナシ宗教ナキハ道德
ハ立ツベカラズ道德ヲ立ツルニハ必ス宗教ニ由ラザルベカラズ動モスルト世ニ
ハ宗教ハ未來ノ幸福ヲ説クモノニシテ現世ノ幸福ヲ説カザルモノ、如ク思フ人
アレハ是レ大ナル迷信ニシテ宗教ナルモノハ未來ノ幸福ヲ説カンヨリモ寧ロ現
世ノ愛ヲ説キ以テ道德ヲ補助スベキモノナリ又世ニハ往々無神論ヲ唱ヘ此世界
ヲ以テ不完全不快樂不幸福ノ境界ト隕認シテ厭世脫俗ニ傾クモノアリ是等ハ實
ニ現世ノ幸福ヲ説クモノニシテ此世界并ニ吾人ノ價值ヲ知ラザルモノト云フ

神の境界、一有神論者、此世界を以て神の創造たる故に、此世界の實に完全快樂幸福の境界たるを隨て、此世界に於て現世の道德を構成スルコトを得ルナリ。若し人此世界に於て道德を修メントスレバ、此世界の規則に己が一身を托スベシ、此世界の自然ニ調和適合シテ一大美觀トナルベキ様ニ神が創造シタル故に、己が一身を托スレバ、心ハ自然ニ調和適合シテ美ヲ顯シ以テ有徳ノ人トナルコト得ベシト論ヒリ、氏ハ又宗教上ノ奇跡怪談等ハ必スシモ人ノ信向ヲ導クモノニアラスシテ、却リテ人ノ信向ヲ破ルモノナリ、何トナレバ奇跡怪談ハ世界ノ規律ヲ破リ、世界ノ調和ヲ亂スモノナレバナリ、此世界ニ規律アリ調和アリテこそ、初テ之ヲ統一スル一大意志即チ神ノ存在スルコトヲ知ルベクシ、然ルニ之ニ反シテ此世界ノ規律調和ニ一致ヒザル奇跡怪談ノ如キモノ、存スルトキハ、却リテ神ノ存在ヲ拒否シ、其極現世ノ道德ヲモ打チ破ルニ至ルベシ、野蠻人ノ信向ヲ導クニハ奇跡怪談ヲ用フルノ必要アリトモ、文明人ノ信向ヲ導クニハ智ニ益ナキノミナラズ、却リテ害フルモノナリ、畢竟奇跡怪談ヲ以テ人ヲ導クハ恐怖ヲ以テ人ヲ導クモノニ異ナラザレバ、吾人ノ決シテ信向ヲ導クモノニアラスコト論ズ。

氏ハ又此世界ニ惡ノ存スルコトノ理由ヲ説明セシガ爲メニ、アリノノ一ノ説ニライブニシテ、神ヲ加ヘテ、曰ク吾人一部分ノ有限ノ心ヲ以テ見ルハ、惡アレド、世界全體ノ無限ノ上ヨリ見ルハ、惡アルコトナシ、何トナレバ此世界ハ既ニ正ト善トノ二者ヨリ成立スルヲ以テ其全體ノ上ヨリ見レバ極テ完全優美ニシテ、決シテ惡ノアルベキ善ナシ、然ルニ吾人ハ世界全體ノ真相ヲ洞見スルノ明無クシテ、徒ラニ區々タル有限ノ心ヲ以テ、彼我ノ區別ヲ立テ、是非ノ差別ヲ附スル故、惡ナキニ惡ヲ生シ、不幸ナキニ不幸ヲ見ルニ至ル、故ニ吾人ハ宜ク世界全體ノ上ニ眼ヲ注キ、世界ノ規律ニ一身ヲ托シテ、道德ヲ修メ、神ノ救助ヲ受ケテ以テ真正ノ快樂幸福ヲ享有スベシト論ゼリ、實ニ卓見ト云フヘシ。

ジョン・トランド (John Toland)

ジョントランドハ、道徳的宗教ヲ主張シタル人ニシテ、彼ノ耶蘇經典中ニアル事柄ハ一トシテ、道徳ニ反スルコト無ク、又道徳ヲ以テ吾人ノ知ルコト能ハザルモノニアラスシテ、世人ノ以テ不思議ト稱スル奇跡怪談ノ如キモノモ、其實不思議ニアラズ、其ノ實ニ道徳ニ以テ説明スルコト能ハザルモノナリ、其ノ實ニ道徳ニ以テ説明スルコト能ハザルモノナリ。

天啓トテ區別セシメ以テ氏ハ更ニ一步進テ天啓ハ道理ニ反スルモノニアラス
 テ道理ニ一致シタルモノナリ吾人ガ神ノ存在ヲ信シ宇宙ノ真理ヲ知ルハ天啓ニ
 由レトモ吾人ガ已ニ之ヲ認テ以テ天啓トスル以上ハ是レ即チ道理ニ由リテ認メ
 道理ニ由リテ信スルモノニテ決シテ道理ニ反スルモノニアラス何トナレハ信ス
 ルト云フコトハ道理ヲ以テ心ニ了解スルコトナル故若シ道理ヲ離レタル天啓アル
 事ハ吾人ハ之ヲ信スルコト能ハザレバナリ世人ハ神ノ性徳神ノ創造力等ハ吾思想
 ニ畫クコト能ハザル故之ヲ不思議若クハ奇跡ト稱スレトモ如何ナル奇路ニテモ不
 思議ニテモ吾人ノ思想ニテ了解スルコト能ハサルモノアラス既ニ吾人ノ思想ニ領
 解スルコト得ル以上ハ之ヲ理外ノ理トシテ神ノ秘密ニ附シ去ルベキモノニアラ
 ス故ニ經典中ニアル奇跡怪談ノ如キハ其外觀ハ道理ニ反シタルモノノ如クナレ
 其裡面ニハ道理ヲ含蓄スルヲ以テ人智ノ進歩ト共ニ其道理世ニ現レ昨日マテ
 不思議トセシコトモ今日ハ既ニ道理ヲ以テ説明スルコト得ルニ至レハ今日尙ホ不
 思議トスルコトモ他日必ス道理ヲ以テ解釋スルコト得ルノ時アルベシ且ツ基督ノ
 教ヲ立ルヤ其初極テ單純ナルモノニシテ道理ヲ離レタルモノニアラス其後

猶太教其他ノ異端邪説ノ之ニ加リシヨリ終ニ奇跡怪談ヲ其中ニ見ルニ至レド
 前ニモ述ベシガ如ク信スルコト云フコトハ道理ヲ以テ心ニ了解スルコト故決シテ道理
 ニ反シタルコトニアラストスル事ハ彼ノ愚者ノ信向ノ如キハ一見スレハ道理ニ離
 レタル忘信迷想ノ如クナレ然レモ愚者ハ愚者相應ノ道理ヲ以テ之ヲ了解スル
 故其信亦道理ニ反シタルモノニアラスト云フベシ
 此ノ如ク道理ト信向トヲ結合シテ愚者ハ愚者相應ノ道理ヲ以テ信シ智者ハ智者
 相應ノ道理ヲ以テ信スルコト云フ事ハ道理ヲ分テ愚者ノ道理ト智者ノ道理トノ二
 ニセザルベカラズ然ルニ道理ナルモノハ確乎不拔一定不變ノモノニシテ之ヲ二
 分シテ一ハ愚者ノ道理一ハ智者ノ道現トスベキモノニアラス若シ之ヲ分テ二ト
 スルコト得ルナラハ論理ノ規則數學ノ原理ヲモ亦分テ一ハ愚者ノ原理一ハ智者
 ノ規則トセザルベカラズ然レモ論理ノ規則數學ノ原理ノ如キモノハ何人モ一様
 不變ノモノニシテ人ト時トニ由リテ異ルモノニアラス例ハ二ト二トヲ合スレ
 ハ四トナルト云フ如キ真理ハ愚者モ智者モ同一ニシテ決シテ異ナルモノニアラ
 ズルカ如シテ氏ノ所論ノ不可ナルヲ知ルベシ余思フニ一昧道理ヲ以テ信向ニ

一致セシムルト云フ道理ハ、一定不變ノ道理ナラザルベカラズ、智識ノ程度ニ隨ヒ、其人相應ノ道理ヲ以テ信向ト一致セシムベカラズ、若シ其人相應ノ道理ト信向トテ一致スルハ、其信ハ尙ホ迷信忘想タルヲ免レズ、見ヨ世ノ愚者ガ地震ヲ以テ餘ノ所爲ニ歸シ、月中ノ斑點ヲ以テ兎ノ餅搗トスルニアラズヤ、是亦其人相應ノ道理ヲ以テ信スルヲ故、其信ハ道理ニ一致セリト云フテ可ナルカ、豈ニ斯クノ如キ理アラシヤ、

前陳ノ如ク、氏ノ説ハ信向ヲ以テ道理ニ結合セシ故、理外ノ理ナルモノハ世ニ存セズヤト云フニ然ラズ、凡ソ理外ノ理ナルモノハ無上完全ノ神力ニ由リテ顯出シタルモノニシテ、吾人ノ智識ヲ以テ知り得ル道理ヨリハ、一層完全至極ノモノナリ、然レハ其完全至極ノ道理ハ、万有自然ノ道理ニ反スルモノニアラス、又吾人ノ智識ヲ以テ信スルヲ能ハザルモノニアラス、何トナレハ理外ノ理ナルモノハ万有自然ノ道理ノ先導トナリ、之ヲシテ其理ヲ一層強固ナラ合ルモノナレバナリ、之ヲ神學上ニテ道理的理外説ト云フ、以上述ル所之ヲ要スルニ、氏ハ道理教ヲ立テ、ロックノ天啓道理ノ區別ニ基キ、更ニ歩ヲ進メテ天啓ト道理、換言スレハ信向ト道理トノ結合ヲ

謀リタルナリ、

マリーチユーチンダー (Mathew Tindal)

マリーチユーチンダーノ宗教論ハ、トールランドノ宗教論ヨリモ一層勢力アリテ世ニ用井ラレタリ、氏曰ク凡ソ眞誠ノ宗教ナルモノハ諸般ノ宗教ニ共同シテ有スルモノニシテ、人間ノ性質ニ基因シテ成立チタルモノナリ、而シテ其教タルヤ道義德行ヲ躰トシテ成立チタルモノニシテ、其道義德行上ノ作用ハ、事物自然ノ規律ニ隨テ發顯スルモノナリ、且ツ事物自然ノ規律ハ、即チ神ノ意志ナル故、自然ノ規律ニ隨テ發顯スル所ノ道義上ノ行爲ハ、取リモ直サズ神ノ意志ニ隨順スル作用ニシテ、宗教ノ骨髓之ニ過ギズ、又神ハ最上至極ノ完全躰ニシテ、其意志ノ目的タルヤ吾人ノ本性ニ幸福ヲ賦與シ、吾人ヲシテ之ニ達セ令ルニアル故、吾人ガ之ニ從テ幸福ヲ求ルハ、吾人ノ免ルベカラザル必然ノ規律ナリ、此ノ規律ノ外、神ハ吾人ニ何物モ賦與セザル故、吾人ノ本性ハ幸福ヲ求ルノ外ナシ、而シテ此ノ本性ハ人類ニ共通シテ普通ナルモノ故、若シ此ノ本性ニ反シテ他ノ事ヲ教ユルモノアラハ、是眞誠ノ宗教ニアラズシテ、迷信妄想タルヲ免レズ、去レバ宗教上ニ天賦ノ本性ニ反シタル行爲アルハ

畢竟之ニ從事スル僧侶ガ己ノ私利ヲ計ル爲メニ實際不必要ナル數多ノ儀式風習ヲ設ケ、以テ人ノ信向ヲ買ハントセシニ因ルモノニシテ、神ノ意志ヲ曲ゲタルモノト云フベシ、

氏ハ又論シテ曰ク、基督出世以前ニアリテハ、宗教ハ吾人天賦ノ本性ニ基キテ德義ヲ本トスル眞誠ノ宗教ト、迷信妄想ニ掩レタル不正ノ宗教ト混同シテアリシガ基督ノ世ニ出ルニ當リ、氏ハ其區別ヲ立テ、迷信的宗教ヲ捨テ眞誠ノ宗教ヲ取り、別ニ一新機軸ヲ出セリ、故ニ基督教ハ先ノ所謂玉石混合ノ宗教ニ對スレハ新宗教ナレド、其實基督教ハ從來曾テ世ニ存セシ所ノ宗教ニ種々ノ弊害ノ加リシモノヲ除去シテ其本源ニ復シタルモノナレド、之ニ對シテハ、新宗教ニアラズシテ極テ舊キ宗教ト云フベシ、斯ノ如ク基督ハ宗教ヲ改良シテ其弊害ヲ除キシカドモ、年月ノ移ルニ隨ヒ、復ヒ僧侶ノ私利ヲ計ル爲メニ種々ノ弊害ヲ生シ、迷信ニ陥リタリ、(中世羅馬法王ノ權力盛隆ナリシ時ノ如キヲ云フナラン)

右ニ述ヘシ氏ノ説ハ、他ノ宗教改革家ノ喜テ雷同スル所ナリ、宗教改革家ハ當ニ曰ク、凡ソ宗教ナルモノハ其始ニ當リテヤ、至極純粹ナルモノニシテ一點ノ弊害モナ

宗 教 哲 學

宗 教 哲 學

クレド、中古ニ至リ徒ラニ儀式風習ノ多ク加ルニ及ビ、終ニ宗教ノ真相ヲ失フニ至レリ、偶像ヲ寺院ニ置クガ如キ事モ、其初代ニ行ハレシコニアラズ、見ヨ釋迦耶蘇等ガ其教ヲ弘ルヤ專ラ人ノ德義心ニ訴ヘテ之ヲ信セシメシ故、偶像ヲ置クノ必要ナカリシカド、世ノ澆季ト凡々人々ノ道心輕薄ニナリシカハ最早古代ノ如ク純粹ノ信向ヲ維持スルコト能ハズシテ、或ハ寺ヲ建テ或ハ偶像ヲ置テ其信向ヲ導クニ至レリ、故ニ之ヲ改革セシニハ須ク中古ニ生セシ所ノ諸種ノ弊害ヲ除キ、其本源タル純粹ノ有様ニ立チ歸ラサルベカラズト、彼ノ耶蘇教ノ一派タル「クエーカー」宗ノ如キハ、全ク之ヲ實行シテ洗禮婚姻等ノ儀式ヲハ悉ク除去セリ、之ヲ要スルニ宗教改革家ノ説ハ新ニ一宗ヲ開クニアラズシテ、復古ニ過キズ、斯ノ如ク中世ニ起リシ所ノ儀式等ヲ悉ク除去シテ其初ニ復ルルハ、所謂老子ガ大道廢レテ仁義アリト云ヒテ、勉メテ太古ニ復セントセシニ異ナラズシテ、實際行ルヘキコトモ思ハレザルナリ、故ニ余ハ將ニ言ハン、宗教創始ノ時ト今日トハ社會ノ有様モ人心ノ有様モ全ク異ナル故、宗教創始時代ニ偶像其他儀式風儀ナカリシトテ、今日又之ヲ廢スルノ必要モ無シ、サハ云フモノ、今日現存セル諸種ノ儀式モ、中ニハ不必要ナルモノモ多クア

ルコトナレハ、今後ノ宗教改革者ハ此兩點ニ眼ヲ注キ、以テ過不及ナキノ改良ヲナササルベカラザルナリ、

ダビッドヒューム (David Hume)

前述ノ如ク、英國ニテハヒュームノ前ニ當リテトリアノン及ピチンダー等ノ諸氏出テ、道理上ヨリ經典ヲ解釋シテ、耶蘇教ヲ道理教ニ變セントスルヤ、爰ニヒューム氏出テ、懷疑教ヲ唱ヘ、是等諸氏ノ説ヲ駁撃セリ、氏ハ哲學界ニ大ナル影響ヲ與ヘテ、從來ノ哲學思想ヲ一變セシト同ク、宗教界ニモ亦大ナル影響ヲ與ヘテ、從來ノ宗教ヲ一掃セリ、其説タルロックノ經驗論ニ基キテ、懷疑的ニ宗教ヲ論シ、道理上ニ宗教ヲ立ルノ非ヲ論シタレド、全ク宗教ヲ以テ無用視シタルニアラス、

從來世間ノ有神論者ノ神ノ存在ヲ説明スルヤ、二個ノ憶説ニ起因セリ、其一曰ク一個格段ノ神ノ存在スルコト、并ニ靈魂不滅ト云フハ、數學上原則ノ如ク明晰確實ニシテ動カスベカラサル定論ナリ、此世界ノ本源ニ遡レハ、必ス神アリテ存在セサルヘカラス、又靈魂モ肉體ト共ニ滅スルモノニアラスシテ、未來永遠ニ向テ不滅ナラサルベカラズト、其二曰ク宗教ハ人間固有ノ天性ニ基クモノニシテ、太古人

宗 教 哲 學

文未開ノ時ヨリ世ニ存シテ人々之ヲ信シタレハ、神ノ存在疑フヘカラス、然ルニ下リテ中古ニ至ルニ及テ、僧侶ノ利己心ノ爲メニ無用ナル儀式裝飾ヲ用キテ、真正ノ宗教ヲシテ曖昧ナラシメタリト雖モ、是レ一種ノ弊害ナリ、人間自然ノ性ヨリ出ルモノニアラスシテ、人爲的ノモノナレバ、時ニ臨テ改良スベキモノナリ、之ヲ以テ宗教ヲ自然ノ天性ニ基カズト云フベカラズト、ヒューム氏ハ之ヲ駁シテ曰ク、第一ノ憶説ニ由レハ、神ノ存在并ニ靈魂ノ不滅ハ、教理上ノ原則ノ如ク、確乎動カスヘカラスト云フト雖モ、是宇宙間ノ事々物々ヲ以テ神ノ存在ヲ證明スルモノニシテ、最も大ナル誤謬ト云ハザルベカラズ、何トナレバ神ハ世界ノ創造者ナレバ、世界ノ外ニアルモノニシテ、事々物々ハ世界ノ内ニアルモノナリ、故ニ事々物々ニ原因アレバトテ、是唯世界内ノコトナレバ、之ヲ以テ世界外ニアル神ニ及ボスコトハ論理ノ許サル所ナリ、有神論者ハ神ノ存在ヲ證明スルガ爲メニ、此世界ノ變化ヲ見レハ一定ノ目的ニ向テ進ミ、此世界ノ順序規律ヲ見レハ日月星宿ノ運行ヲ初トシ、四時晝夜ノ順序ニ至ルマテ、毫厘ノ過誤ナクシテ何人カ之ヲ前定セシモノ、如ク思ハ令ルモノハ、他ナシ神ガ此世界ヲ造リ、規律ヲ定メシニ因ルト云フト雖モ、是大ナル謬論ナ

宗 教 哲 學

リ、何トナレハ其證明タルヤ事物ノ結果ヲ見テ原因ヲ推スヲナルガ、一躰原因結果ノ關係ハ吾人カ事物ヲ經驗スルノ際、甲乙二者中一ノ事が常ニ他ノ事ニ伴フテ起ルヲ認ルルハ、習慣ニテ甲事が出レバ乙事ハ必ス現レサルヲ得ザルベシト思フベク、幾度モ風吹キテ艸木ノ動クヲ見レバ、風ハ艸木ヲ動カス原因ナリト思想ノ連合ニ由リ、習慣ノ久キ、終ニ其間ニ原因ト結果トヲ結合スルニ至ルナリ、故ニ經驗ノ範圍内ニ於テハ、原因ヨリ結果ニ論到ジ、結果ヨリ原因ニ遡廻スルモ強チ無理ニハアラサレトモ、神ノ如キモノハ是迄吾人ノ經驗セシモノトハ全ク類ヲ同フセザルモノナルニ其關係ヲ適用スルハ大ナル誤謬ナリ、又有神論者ハ此世界ノ規律ノ一定シテ正キモノハ、是レ自然ニ然ルニアラスシテ、必ス神ノ創造ニ由リテ然ルナリト云フト雖モ、此ノ如キ規律ハ必スシモ神ニ由リテ生スルモノニアラスシテ、自然ニ生スルモノト云ハザルベカラズ、畢竟此世界ニ斯ノ如キ完美ナル規律アリトスルモノハ、其規律ヲ以テ神ノ創造トスル故ナリ、然レ仔細ニ觀察スルルハ此世界ホド不完全不快樂ナルモノアルヲナシ、人間ト云ヒ動物ト云ヒ、日月ト云ヒ天地ト云ヒ、一トシテ不完全ナラザルナシ、斯ノ如キ不完全ナル世界ヲ以テ完全ナル神ノ創造

ナリト云フハ、瞞着ノ言ニアラスシテ何ゾヤ、

宗 教 哲 學

又有神論者ハ靈魂不滅ト云フヲ以テ、確乎トシテ動カスベカラザルモノナリト論スレモ、然レモ靈魂ナルモノハ吾人ノ肉躰ニ結合シテ其働作ヲ呈スルモノニシテ、獨立ノ作用ヲ爲スモノニアラザレバ、肉躰ヲ離レテ死後永遠ニ生活シテ、或ハ天堂ニ上リ、或ハ地獄ニ下ルノ理アルベカラズ、是ニ因リテ之ヲ思ヘハ、有神論者ガ靈魂不滅ノ理ヨリ未來ノ賞罰ヲ立テ、人ヲ勸懲スルハ、却リテ宗教ノ本義ヲ破壊スルモノト云ハザルベカラズ、何トナレハ未來ノ賞罰ヲ立テ、神ヲ信スルモノハ死後天堂ニ上リテ永久無限ノ快樂ヲ享ク、之ニ反シテ神ヲ信セサルモノハ死後地獄ニ至リテ永久無限ノ苦痛ヲ受ルト云フト雖モ、一躰吾人ノ爲セシ善惡ノ行爲ハ有限ノ時間中ニアルモノナルニ之レニ酬ユル賞罰トシテ永久無限ノ時間中ニ快樂苦痛ヲ享クルト云フテハ、原因ノ大小ト結果ノ大小ト比例セザルニアラスヤ、且ツ罰ナルモノハ其目的人ヲシテ改心セシムルモノニアラスヤ、然ルニ未來永久ノ神ノ罰アリトシテハ、畜ニ人ヲシテ改心セシムルヲ能ハザルノミナラス、却テ其目的ニ相違スルト云フベシ、若シ又實際神ニ賞罰ノ權力アリトスレハ、其有无ノ不明

宗 教 哲 學

瞭ナル未來幽冥世界ニ於テ之ヲ實行セシテ、明瞭ナル目前現在ニ於テ之ヲ實行セザルベカラズ、然ルニ吾人ハ之ヲ明瞭ナル現在ニ於キテスラ見ルコトナシ、况ンヤ不明瞭不確實ナル未來ニ於キテオヤ、果シテ然ラハ賞罰ナルモノハ吾人ノ空想ニ過ギズト云フヘシ、又有神論者ハ吾人ノ精神ハ必ズ未來永遠ニ向テ希望スル處アルモノナリト云フコトヲ以テ靈魂ノ不滅ヲ證明スレトモ、吾人ノ心ハ必ズシモ未來永遠ノ生活ヲ希望スルモノニアラズシテ、却リテ此世界ヲ去リテ幽冥界ニ到ルコトヲ嫌忌スルモノナリ、故ニ此事ヲ以テ靈魂不滅ノ證トスベカラズ、夫レ然リ然ラハ靈魂不滅ト云フコトハ、到底道理上證明スルコトヲ得ザルモノニシテ、道理以外ノ事トナサザルベカラズ、之ヲ以テ道理以外ノ事トスレバ、吾人ノ説明シ得ベキコトニアラザル故、經典上ノ天啓ニ由ラザルベカラズ、經典ハ實ニ吾人ノ説明シ得ザルコトヲ天啓ニヨリテ教ユルモノニシテ、道理以外ノモノナリト論シテ、道理ヲ以テ宗教ヲ論スルモノヲ攻撃セリ、

若シ右ノ如ク宗教ヲ以テ道理ニ起因スルモノニアラズトスルトキハ、宗教ハ如何ニシテ起リシヤト云フニ、氏曰ク、有神論者ハ之ヲ以テ人間自然ノ天性ニ起因スル

宗 教 哲 學

モノトスレトモ、深ク考察スルキハ宗教ナルモノハ決シテ道理ニ基キ自然ノ天性ニ因ルモノニアラズシテ、吾人ノ想像ノ上ヨリ生シタルモノナリ、換言スレバ吾人ノ恐怖心ト欲望心トノ二者ニ起因スルモノナリ、吾人ハ既ニ此二心ヲ有スル故ニ天災地變ノ知ルベカラザルモノニ遭遇スレバ、之ヲ恐レテ神ノ所爲ニ歸シ、又不幸不快ノ境ニ沈淪スルトキハ他ニ由リテ其救助ヲ享ケント欲スルモノナルガ故ニ、此ニ想像上神ヲ立テ、之ニ依頼シテ己ノ安全幸福ヲ得ントスルナリ、此ノ如ク神ハ吾人ノ想像上ヨリ起リタルモノ故、隨テ吾人ノ想像ヲ以テ神ノ性質及ヒ形狀ヲ構成セリ、故ニ古代ノ神ハ概テ人間ノ形ト性情トヲ有シテ、一モ道理ニ合シタル所ナク全ク多神教ニテアリキ、

此ノ如ク宗教ハ人間ノ想像上ヨリ起リタルモノ故、多神教ハ一神教ニ先チテ發達セザルベカラズ、何トナレバ若シ人一タビ一神教ノ道理ヲ知ルキハ、再ビ多神教ヲ信スルコトナシ、然レモ智識ノ程度尙ホ低クシテ、一神ノ理ヲ知ラサル故、最初多神教ヲ信セリ、是恰モ古代工作ヲ知ラザル者ガ、幾何學ヲ知ルノ理ナキガ如ク、古代ノ人ガ一神教ヲ知ルノ理ナキナリ、古代ノ人ハ神ハ人間同様ニ形骸ヲ有シ、愛憎ノ情ヲ

有シテ、其數モ多クアルト想像セリ、故ニ斯ノ如キ神ハ天地万有ヲ支配スルヲアタ
ハザルノミナラズ、却リテ之ニ支配サレテ生滅盛衰ノ變化ヲ受クタリ、此等ノ神コ
ソ各國神代史ノ由テ起ル原因トハナレリ、

此ノ如キ多神教ガ人智ノ進歩ニ伴フテ一神教トナリタルハ、是レ道理ニ依リテ成
リタルニアラズシテ、下ノ如キ事情ニ由リテナリタリ、曰ク人ニハ己ヲ愛スルト云
フ我情アルガ爲メ他人ノ神ヨリハ己ノ神ヲ高尙ニシ、他ノ種族ノ神ヨリハ己ノ種
族ノ神ヲ高尙ニスルヨリ、終ニ最上ノ一神教現レタリ、又神ヲ成ルベク丁重ニ敬禮
スルルハ多クノ愛ヲ受クヘシトノ想像ヨリシテ、其神ノ品位ヲ高メ、終ニ最高獨立
ノモノニ變ヒリ故ニ多神教變シテ一神教トナルハ、道理ニ由リテナルニアラザル
ナリ、夫レ然リ、斯ノ如ク多神教ハ變シテ一神教トナルト雖モ、其一神教ハ一神教ニ
止ラスシテ、一神ヲシテ多神ノ相ヲ取ラシムルヲアリ、何トナレハ吾人が深ク一神
教ノ一神教タルコトヲ知ルトキハ、成ルベク之ニ親接シテ愛ヲ享ケ救助ヲ得ント
ノ希望心生スルナリ、斯ノ如キ希望心生スルトキハ、聲モ臭モナキ無色無形ノ一神
ニ向テ、愛ヲ求メ救助ヲ享ルコト能ハザル故之ヲ代表スル所ノ偶像ヲ造リテ之ニ

宗 教 哲 學

宗

教

哲

學

向テ、愛ヲ求メ救助ヲ享ケンコトヲ望ミ、遂ニ偶像ヲ以テ所歸ノ本躰トスルニ至リ、多
神教ト同一ノモノトナリシモ、其多神教ハ外觀コソ古代ノ多神教ニ同スレトモ、其
精神ハ大ニ異ナラザルベカラズ、之ニ由リテ之ヲ思ヘバ、宗教歴史ナルモノハ實ニ
多神教ト一神教トノ間ヲ往復循環シツ、アルモノナリト論セリ、

氏ハ又多神教ト一神教トノ可否優劣ニ就テハ、理論上ニテハ之ヲ論ヒスレテ、實際
上ニテハ多神教ハ一神教ヨリモ優レタルモノナリト云ヘリ、其意如何トナレバ一
神教ハ獨一無限ノ權力ヲ有スル神ヲ立テ、以テ吾人ノ精神ヲ束縛壓制スレトモ、多
神教ハ其儀式外形コソ野蠻ナルモ、一神教ノ如ク壓制ノ極端ニ走り人心ヲ束縛ス
ルノ弊ナレバナリ、故ニ多神教ハ一神教ヨリモ優レリト、余謂フニ氏ガ斯ノ如キ説
ヲ吐キシモノハ全ク中古時代舊教ノ盛ナルニ當リテヤ法王ハ神ノ威ヲ一身ニ利
用シテ人心ヲ束縛シ君主ヲ抑制シテ或ハ宗教軍ヲ發シ或ハ無益ノ土功ヲ起シテ
驕奢壓制至ラザルコトナカリシヲ見テ終ニ斯ノ如キ説ヲ爲セシモノナラン、
又從來ノ有神論者ハ、宗教ハ道德ニ關係シタルモノニシテ、宗教ナキトキハ世ノ道
徳ヲ維持シ又之ヲ進歩スルコト能ハズト論スレトモ、ヒュームハ之ニ反對シテ、宗

教ハ決シテ世ノ道德ニ關係シタルモノニアラス、何トナレバ神ガ賞罰ヲ立テ、善行ヲナセバ之ヲ賞シ、惡行ヲナセバ之ヲ罰スルト云フカ如キハ、實ニ世ノ道德ヲ幫助セザルノミナラス、却リテ人ヲシテ戰々競々トシテ、神ニ媚ヲ呈シ、只管ラ愛ヲ求め、トシテ其局自己ノ獨立ヲ失ヒ卑屈ニ陥ラ合ルモノ故、世ノ道德ヲ破壊スルモノナレバナリト論セリ、是ニ至リ氏ハ其論ヲ結ンテ曰ク、斯ノ如キ宗教ハ其起元ヨリ見ルモ、發達ヨリ見ルモ、又理論ヨリ見ルモ實際ヨリ見ルモ、決シテ道理ニ合シタルモノニアラス、

以上ハ氏ノ宗教上ニ於ケル議論ナルガ、氏ガ有神論者ノ宗教ハ道理ニ基キテ起リタルモノナリト云フヲ駁シテ、宗教ハ道理ニ因リア生シタルモノニアラスシテ、人ノ空想ニ基クモノトセシハ至當ノ議論ナレド、宗教ニハ徹頭徹尾道理ノ分子ヲ含マズト云フニ至リテハ、實ニ極端ノ論ト云ハザルベカラズ、何トナレバ宗教ハ氏ノ言フ如ク、其初メ人ノ空想ヨリ起リタルモノナル故、其當時ニハ道理ナキモノナルニモセヨ、後ニハ必ズ幾分ノ道理加リテ人ニ真理トシテ崇メラル、ニ至ルモノナレバナリ、然リ而シテ其後ニ生スル所ノ道理ハ宗教ノ内部ヨリ發生セシモノナル

宗 教 哲 學

宗 教 哲 學

カ、將タ外部ヨリ附加セシモノナルカ容易ニ知ルベカラズト雖モ、深ク考察スルトキハ、其外部ヨリ附加シタルモノニアラスシテ、内部ヨリ發生セシモノナルコトヲ知ルニ足ル、之ヲ譬ヘバ、艸木ノ初メテ萌芽ヲ發スルヤ、未タ枝葉モ花實モ無シト雖モ、漸次生長スルニ隨ヒ、從前アラザリシ枝葉モ花實モ自然ニ生スルニ至ル、然レド其ノ枝葉ヤ花實ヤ外ヨリ之ヲ加ヘタルニアラスシテ、萌芽ノ中ニ含蓄セシモノカ發生シタルモノナル如ク、宗教モ其初メニハ道理モ真理モナクレド、漸次發達スルニ隨ヒ、道理モ真理モ共ニ生スルニ至ル、是其初起ノ時ニ既ニ含蓄セシモノガ發生セシコト明ナリ、

斯ノ如ク宗教ノ道理ハ其内部ヨリ發生シタルモノナルニモ拘ラズヒ、ユーム以前ノ有神學者ハ外部ニ向テ道理ヲ求メ、其道理ニ由リテ宗教ヲ組成セントセシ故ヒ、ユームハ力ヲ奮テ之ヲ駁撃セリ、然レトモ惜ヒ哉ヒユームノ駁撃セシ所ハ、唯外部ノ道理ニアリテ内部ノ道理ニスラザルナリ、氏ニシテ今一步進ミタランニハ、内部ノ道理ヲ發見シテ、眞誠ノ宗教哲學ヲ組織セシモノナルニ、氏ノ之ヲ發見スルコト能ハザリシトコソ却リテ、獨逸宗教哲學者ノ驥足ヲ伸ス所トハナレルナリ、之ヲ要

宗 教 哲 學

スルニヒユームノ懷疑教出テザレバ、カントノ批判教モ出テザルナリカントノ批判教出テ、宗教哲學ノ光彩ヲ増セシハ、偏ヘニヒユーム懷疑教ノ餘澤ト云ハザルベカラズ、之ヲ喻フルニヒユームハカント氏ノ先驅ヲナシタルモノナリ故ニヒユームノ哲學上若クハ宗教上ニ於ケル功勳ハ決シテカントニ讓ラサルナリ、世ノ哲學ヲ學フモノハ宜ク此ニ注目スベキナリ、

以下ハ再ヒ前ニ回リテ獨逸宗教哲學者ノ系統ヲ講述セシ、獨逸宗教ハカントニ至リ初メテ真正ノ道理ニ基キテ解釋スルニ至レリ、カントハライプニツ、ウォルフノ兩氏ニ影響セラル、所ナキニアラザレバ、右兩氏ノ説ハ曾テ英國ニ入り、一時該國有神學者ノ由リテ基ク所トナリシガ、ヒユームノ有神學者ノ説ヲ駁スルノ際共ニ之ヲ破斥シ盡クシタレバカント更ニ兩氏ノ上ニ立チテ此ニ一新機軸ヲ出シ、真正ノ宗教哲學ヲ講スルニ至レリ、サレバ是ヨリ直チニカントノ宗教哲學ヲ講述スベキナレトモ其前ニレッシングノ學ヲ略辨スルヲ要スルナリ、

レッシング (Gothold Ephraim Lessing)

氏ハ當時學者ノ宗教論ノ淺薄ナルヲ排斥シテ、一步之ヲ進テ高尚ニセリ、乞フ其説

宗 教 哲 學

ノ概略ヲ述ベシ、氏ハ當時ノ有神論者ガ宗教ノ真理ハ經典中ニアリトシテ經典ヲ開テ真理ヲ求メントスルノ誤謬ナルヲ破斥スルト同時ニ、又世ノ懷疑學派ガ經典若クハ傳説中ニ存スル道理ヲ破斥シ去リテ、以テ道理アリト信スルノ非ナルヲ論破セリ、氏ノ考ニ由レバ、耶蘇教ノ真理ハ經典中ノ文字言語ヲ以テ拘束セラレタルモノニアラス、言語文字ニ拘束セラレタルモノハ、死物ニシテ真理ニアラス、真理ハ必ス言語文字ノ外ニ存スルモノナリ、又歴史傳説ノ如キモノニ向テ、決シテ得ベカラザルモノナリト論スルモノ、如シ、氏ノ言ニ曰ク、經典ハ耶蘇教ニアラズシテ死物ナリ、何トナレバ經典ノ世ニ出ルニ先テ、既ニ宗教ノ道理存シ、經典ナキモ宗教ハ道理ニ由リ、信向ニ由リテ成立スルヲ得レバナリ、又縱ヒ「バイブル」ヲ以テ宗教ノ實典トスルモ、其中ニハ道理ノミ存スルニアラスシテ不道理ノ「モ無シト云フベカラズ、且ツ「バイブル」ニハ表面ノ文字ト裡面ノ意味トアルコトナレバ、之ヲ指シテ直チニ宗教ト云フベカラズ、斯ノ如ク「バイブル」ハ直ニ宗教ニアラザル故、世ノ有神學者ガ之ニ向テ道理ヲ求メントスルノ誤謬ナルヲ知ルト同時ニ、又世ノ懷疑學者ガ只管テ其論鋒ヲ傳説若クハ經典ニ向ケテ之ヲ駁撃スルノ非ナルヲ知ル、凡ソ歴

史上ノ事實若クハ經典上ノ證據ハ、宗教者ガ他ノ反對者ニ對スルトキ、證據トナルニ過キズシテ之ニ因リテ、宗教發達シ、之ニヨリテ宗教成立スルニアラス、故ニ縱ヒ歴史カ經典ノ上ニ基督ガ死人ヲ蘇生セシメシコアルモ、又基督ガ自ラ呼テ神子ナリト云ヒシコアルモ未ダ之ヲ以テ、基督ヲ神子ナリト信スルヲ能ハズ、何トナレハ吾人ノ宗教ヲ信スルハ、經典ニ因ルニアラス、歴史ニ因ルニアラス、直チニ吾思想ニ訴ヘテ眞理ナリト思フモノヲ信スルニアレバナリ、宗教必然ノ道理ハ吾思想中ニアリテ存スルモノナリ、如何ゾ歴史經典中ニ存スル二三ノ事實ガ、斯ノ如キ必然ノ道理ヲ定ルヲ得ンヤ、果シテ然ラハ歴史經典ナルモノハ、宗教ノ本源ニスラザルト同時ニ之ニ由リテ道理ヲ求ムベキモノニアラサルナリ、氏ガ經典ヲ捨テ、吾思想上ニ道理ヲ求メシハ恰カモ我國ノ佛教者ガ鎌倉以前ニアリテハ其研究スル所唯ダ經文上ノ言語詞章ノ間ニ彷徨シテ其外ニ眞理ノ存スルコトヲ知ラザリシカハ此ニ禪宗起リテ佛教從來ノ研究法ヲ變シ經外別傳不立文字直指人心見性成佛ト説クニ至リシモノト其跡ヲ同フセリ亦奇ト云フベシ

斯ノ如ク氏ハ世ノ宗教者ガ經典若クハ歴史ニ就テ宗教ノ道理ヲ發見セントスル

宗 教 者 學

ヲ破スト同時ニ、又懷疑學者ガ經典若クハ歴史ノミニ就テ之ヲ駁スルノ非ナルヲ破シ去リテ、此ニライブニツノ元子發達論ヲ宗教上ニ適用シテ、宗教心ノ發達ヲ既明セリ、レシノク曰ク、凡ソ發達ト云フコトハ外界ノ艸木ノミニ局ルコトニアラスシテ、内界ノ思想モ亦發達スルモノナリ、既ニ内界ノ思想ニシテ發達スルモノナルトキハ、其中ニ含有スル宗教思想モ亦發達セサルヘカラス、而シテ眞誠ノ宗教思想ナルモノハ、至リテ深遠高妙ナルモノナレトモ、之ニ反シテ世ノ經典并ニ歷史上ニ顯示セラレテアル宗教ハ、極テ淺薄卑近ナルモノナリ、斯ノ如ク二者相異ナルト雖モ、是レ唯ダ發達ノ度ヲ異ニスルノミニシテ、其躰異ナルニアラザルナリ、故ニ世ノ淺薄卑近ナル宗教中ニハ、彼ノ深遠高妙ナル宗教ノ道理ヲ含有スルヲ以テ淺近ナル宗教モ、終ニハ進テ深遠ノ宗教トナルナリト論シテ、古來ノ學者例ヘハスピノザモライブニツノ如キモ、未ダ之ヲシテ一致セシムルヲ能ハサリシ、道理的宗教ト通俗的宗教トヲ一致セリ、

前述ノ如ク氏ハ眞誠ノ宗教ノ人ノ思想ニ基クモノニシテ、歴史經典ニ基クモノニアラズト論シタレトモ、歴史經典ヲ以テ無用物トナセシニアラス、何トナレハ深遠

宗 教 者 學

宗 教 哲 學

高妙ナル宗教ハ、歴史經典ノ上ニ基キタル淺薄ナル宗教ニ由リテ發達スル者ナレバ、淺近ノ宗教ハ、取リモ直サズ深遠高妙ノ宗教ヲ開發スル所ノ階梯ナル者ナリ、氏ハ又「バイブル」ハ人ノ宗教思想ヲ發達セシムル教育書ナルコトヲ示サン爲メニ、人間一生涯ヲ分チテ三段トナシ、第一期幼稚ノ時ニハ永遠ノ目的ナクシテ、唯々眼前ノ快樂ヲ望ムノ外ナシ、第二期少年ノ時ニハ五感ノ快樂ヲ望ムノ外未來ノ善若クハ德若クハ名譽等ヲ望ムモノナリ、第三期成年ノ時ニハ別ニ未來ニ望ム有セストモ、社會ニ處シ他人ニ交ルニハ、互ニ約諾ヲ守リ、義務ヲ重セサルヘカラサルコトヲ知ルナリ、斯ノ如ク人ノ發達ニハ三段アル故、其發達ヲ幫助スルニハ經典ヲ用弗ルニ如カズト論シテ、經典ノ人世教育上ニ必要ナル所以ヲ述ヘタリ、

以上論スル所之ヲ一見スレハ氏ノ說ハ極テ淺薄ナルカ如クナレトモ、其實高尙ナルモノナリ、何トナレバ氏ノ目的ハ淺近ノ宗教信者ヲ導キテ、高尙ナル宗教信者トナサシメントスルニアリシヲ以テ、高尙ナル身軀ヲ掩フニ却テ淺近ナル衣服ヲ以テセシモノ、如シ夫レ然リ、氏ハ斯ノ如キ目的ナリシヲ以テ、世ノ無智輩ノ信スル天啓奇跡等モ之ヲ眞正ナリト許容シ、以テ高尙ナル宗教ニ誘導スルノ媒介トセ

宗 教 哲 學

リ果シテ然ラハ世ノ天啓顯示教ニ人智發達上ニハ極テ必要ナルモノニシテ、若シ之ナキトキハ無智ノ輩ハ變シテ高尙ノ宗教ニ入ルコトアタハサルナリ、是レ氏ガ「バイブル」ハ人ノ宗教思想ヲ發達養成スル爲メノ要具トシテ、神ノ說キ置キシモノナリト云フ所以ナリ、

氏ハ又論シテ曰ク、太古ニアリテハ人々一神教ヲ信奉セシモ、人智漸ク開クルニ隨ヒ、臆說想像ヲ以テ種々ノ道理ヲ附加シ、終ニ之ヲシテ多神教ニ變形セシメタリ、然ルニ神ハ一神教ノ隱滅センヲ恐レ、早クモ「イスラエル」人即チ猶太教ノ人種ヲ教育シテ之ヲ保持セシメタリ、是天啓教ナリ、(舊約全書ニ載スル處ノ神ハ絶對的理想的ノ神ニハアラサレトモ多神教ニハアラサシテ唯一神教ナリ、是レ「イスラエル」人ノ世ニ信奉セシ神ニシテ此神ハ更ニ「イスラエル」人ニ由リテ保持セラレタリト云フヘシ)之ニ反シテ別ニ天啓ニ由ラズシテ、知識道理ニ由リテ一種ノ宗教ヲ信奉セシモノアリ、波斯人希臘人等ノ如キ是ナリ、斯ノ如ク二者其基源ヲ異ニスト、雖モ後ニハ互ニ相依リ相助ケテ、天啓教ノ長所ヲ以テ自然教ノ短所ヲ補ヒ、自然教ノ長所ヲ以テ天啓教ノ短所ヲ補ヒ、此ニ一種高尙ナル宗教出テタリ、然ルニ一方ニハ彼ノ

宗 教 哲 學

天啓教ヲ奉スルイスラエル人中ニイエスキリストナル者出テ、先キノ天啓教ヨリハ一層深遠高妙ナル宗教ヲ組織スルニ至レリト、斯ノ如ク宗教ハ其ノ初メ真理ナリト信セラレシモ、後ニハ之ヲ不真理ナリトシテ排斥スルモノアルニ至リタリト雖モ、宗教ニハ深遠高妙ナル道理アルモノナレバ、之ヲ開發シ之ヲ發達セシメテ、以テ淺薄ノ宗教ヨリ高尙ナル宗教ヲ開示スルニ至レリト論スルナリ、

斯ノ如ク氏が世人ノ排斥シテ顧ミサリシ所ノ宗教ヲ取リテ、其中ヨリ一種高妙ナル真理ヲ發見セントセシハ、余ノ最モ敬服スル所ナリ、何トナレハ凡ソ普通ノ人ハ過去未來ヲ洞見スルノ明ナキ故、唯常ニ世人ノ言フ所作ス所ニ隨ヒ、世人ノ是非スル所ヲ是非シ、世人ノ好惡スル所ヲ好惡シ、世人ガ真理トスレバ之ヲ真理トシ、世人ガ然ラズトスレハ之ヲ然ラズトシテ、獨立一定ノ見識ナキモ、レシテノ如キハ之ト異リ、世人ガ不道理ナリ不真理ナリトシテ排斥セシ宗教ヲ取リテ、其中ヨリ一種高妙ノ真理ヲ發見セントセシ其卓見ハ決シテ常人ノ及フ所ニアラサルナリ、余ハ常ニ吾國學者社會ノ有様ヲ見テ、毎ニ嘆スル所ノモノアリ、見ヨ吾國維新以來文物大ニ勃興シテ舊來ノ面目ヲ改メタリト雖モ、之ト同時ニ吾國在來ノ文學技術ハ頓

宗 教 哲 學

ニ衰ヘテ人ノ之ヲ顧ミルモノナク、特ニ宗教上ノ事ニ至リテハ概シテ之ヲ研究スル者無ク、縱ヒ之アルモ徒ラニ表面ノミニ止リテ、裡面ニ如何ナル真理アルカヲ知ラズ、甚キニ至リテハ宗教ヲ以テ無用ノ長物トスルニ至ル、豈ニ嘆ズベキノ至リナラズヤ、斯ノ如ク世人ハ之ヲ捨テ、顧ミサルモ、學者ハ之ヲ取リテ研究スヘキノ責任ヲ有スルナリ、何トナレハ世人ノ捨テ、顧ミザル宗教モ、取リテ之ヲ研究スルトキハ、其中ヨリ如何ナル真理ヲ發見スルヤアルヤ未ダ知ルベカラス、縱ヒ真理ヲ發見スルコトナキモ、之ヲ研究センガ爲メニ一種高妙ノ智識ヲ獲得スルコトナシト云フベクンヤ、例ヘバ佛教中ニアル須彌說ノ如キ、之ヲ現今ノ地球說ニ比スレバ一見不理論ナルガ如クナレドモ、深ク之ヲ研究スルトキハ其内ニ或ハ古人未發ノ真理アルモ未ダ知ルベカラス、又古來希臘ニ行レシ天文說ノ一種タル彼ノ太陽ヲ以テ宇宙間ノ熱ヲ吸收シ、復ヒ之ヲ宇宙ニ反射スルモノナリトノ說ヲモ、研究シテ其中ニ就テ真理ノ有無ヲ正サトルベカラス、果シテ然ラバ世ノ學者タルモノハ現今ノ道理ノミヲ以テ甘ンゼズ進テ其反對ノ地ニ想像ヲ廻ラシ、一種特別ノ真理ヲ發見セサルベカラズ、

宗 教 哲 學

上來講述セシカ如クレシングノ宗教論ハ、彼ノ天啓經典等ハ人ヲ教育シテ其本性固有ノ宗教心ヲ開發セシムル方便媒介ニ適キズ、而シテ人ヲ教育スル目的ハ未來ノ賞罰ヲ以テ爲スベキモノニアラズシテ、人間自爲ノ天性ヲ開發スルニアリ、故ニ未來ノ賞罰ヲ以テ、外部ヨリ教育スル宗教ノ如キハ、深遠高尙ノ宗教ニアラズシテ、吾人本性ノ道德心若クハ道德心ヲ開發スルモノヲ以テ、深遠高尙ノ宗教トナスナリト論セリ、斯ノ如ク氏ノ説ハ當時ノ説ニ反シテ、眞誠ノ宗教ハ吾人ノ心中ニ固有スル宗教心ヲ開發スルニアリトセシム、全ク理想的宗教論ニシテヘーゲルノ理想論ヲ喚起スルノ端緒ヲ開キタリト云フヘシ、凡ソ世ノ理想的宗教ヲ説クモノハ、唯々理想ノ一方ニ偏シテ、外部ノ事情例ヘバ天啓ノ如キ經典ノ如キ儀式ノ如キモ、悉ク拋棄スルト雖モレシングハ之ヲ拋棄セスシテ、内部ノ宗教心ヲ開發スルニ必要ナル媒介トシテ、宗教ノ精神ト外形トヲ結合セリ、サレハ氏ノ説ハ天啓ト道理トヲ一致セシメ、天啓ヲ以テ道理ヲ開發スル手段トスルニアリ、而シテ從來ノ有神學者ノ説ニハ、耶蘇ヲ以テ人間トスルモノト、人間以上ノ者トスルノ兩説アル中、レシングハ前説ヲ取リテ耶蘇ハ之ヲ經典ニ徵スルモ、歴史ニ考フルモ、人間以上ノ者ニア

宗 教 哲 學

ラスシテ人間ナレハ、其教ユル所モ亦人間ノ倫理道德ニ外ナラスト論シテ、人間ノ倫理道德ヲ基礎トスルモノヲ以テ眞誠ノ宗教トセリ、之ヲ要スルニ氏ガ宗教心ヲ以テ人心内ニ胚胎スルモノトナシ、之ヲ開發スルヲ以テ宗教ノ目的ト論セシム、實ニカント及ヒヘーゲルヲ喚起スル指導者タルニ相違ナキナリ、上來陳述セシ所ニ由ルニ、レシングノ説ハライブニツノ説ニ關係アルハ勿論中ニハ往々スピノザニ關係スル所アレバ、其大略ヲ左ニ陳述スベシ、レシングハ一切方有ハ神ヲ離レテ成立スルモノニアラスシテ、神ノ上ニ成立スルモノナレハ、方有ノ本體ハ即チ神ナリト説キシハ、全クスピノザノ方有神教ニ由リシモノナリ、又神ト此世界トノ關係ニ就テ、氏ハ神ヲ以テ外部ノ上ニ立テズシテ主觀ノ上ニ立テ、二元ノ上ニ立テズシテ一元ノ上ニ立タリ、故ニ神ノ世界ニ及ホス關係ハ、遠ク此世界ヲ離レタル外部ノ上ヨリ及スニアラスシテ、内部ヨリ及スモノナリト説キシモ、亦スピノザノ説ニ基キシモノナリ、又レシングガ外部ノ目的論ヲ排斥セシムモ、亦スピノザニ一致スル點ナリ、次ニハレシングノライブニツニ關係スル點ヲ陳述セシ、レシングハ上ニモ述ル如

ク、外部ノ目的論ハ排斥シタレトモ、然レトモ内部ノ目的論ハ之ヲ取リタリ、是ライ
 プニツノ目的論ニ一致スル點ナリ、ライプニツハ神ガ此世界ヲ創造スル時、既ニ來
 ヲ万々世ノ後ニ至ルマテ其目的ヲ定メタレバ、吾人ハ其目的ニ隨テ進向セサルヘ
 カラス、然レトモ外部ノ目的ニ隨フニアラスシテ、神ガ吾人ニ賦與セシ所ノ一定ノ
 規律ニ隨テ進向スルモノナレハ、即チ内部ノ目的ニ隨フテ進向スルナリト、是レシ
 ノクノ内部目的論ノ由リテ基ク所ナリ、
 又レシノクハライプニツノ原子ハ個々ニ獨立シテ發達スルモノナリトノ說ヲ取
 リテ、個人ノ發達完全ヲ說キタリ、之ヲ譯言スレハ、吾人ハ自然ノ本性ヲ發達シテ一
 個人ノ完全ヲ得ルヲ目的トスルモノニシテ、個人ニシテ完全ニ進メハ社會モ之ニ
 從テ完全ニ達シ、社會ノ完全ハ一個人ノ完全ヲ發達シタルモノニ過キス、是ヲ以テ
 道德モ宗教モ其目的タル三個人ノ完全發達ニアリ、而シテ此ノ完全ナルモノハ無
 限ノモノニシテ、一朝一夕ニ達シ得ヘキモノニアラス、幾多ノ歲月ヲ經テ初テ達シ
 得ヘキモノナレハ、吾人ハ本ト無限ノ生活ヲ有スル故、幾度ト無ク生レ變リテ之ニ
 達セザルベカラズト論セリ

レシノクハ又自由說ト必然說トノ中必然說ヲ取リタリ、是スピノザニ一致スル點
 ナリ、然レトモレシノクハ必然ヲ以テ神ノ豫定ニ歸セシ故、ライプニツニモ一致ス
 ル所アリト云フベシ、ライプニツハ自由論者ナレトモ、通俗ノ自由論トハ異リテ必
 然的自由論者ナレバ、必然ヲ以テ神ノ前定トスルモノナリ、サレハレシノクノ必然
 說ト異ナルヲナクシテ一致スルモノナリ、
 之ヲ要スルニレシノクノ宗教論ハスピノザノ万有神教、并ニ必然因果說ニライプ
 ニツノ天帝豫定說、並ニ原子發達論ヲ加ヘテ組織シタルモノニシテ、其長所ハ人
 間ニ固有スル宗教心ヲバ、教育ノ媒介ニ由リテ開發スルヲ以テ唯一ノ主義トナセ
 シニアリ、斯ノ如ク氏ガ宗教心ヲ以テ人間固有ノモノトナシ、眞誠ノ宗教ハ之ヨリ
 發達スルモノナリト論セシ故、カントハ之ニ據リテ主觀的宗教論ヲ學理ノ上ニ立
 テタリ、抑モ當時ノ宗教論ハ極メテ淺薄ニシテ、見ルニ足ルベキモノ一モナキ有様
 ナリシカバ、レシノクハ之ヲ貶斥シテ、斯ノ如キ淺薄ナル宗教ヲ取ルヨリモ、寧ク保
 守的獨斷宗教ヲ取ルニ如カズト云ヘリ、カントモ亦斯ノ如キ淺薄ナル宗教論ヲバ
 悉ク排斥シテ、此ニ新ナル道理的批判宗教學ヲ組織セリ、サレハ近世期ノ宗教哲學

ハカントニ至リテ初メテ完備ナリト云フベキカ、

カント氏宗教哲學

カント氏ノ宗教哲學ヲ講スルニ當リテ、先ツ氏ガ哲學ノ全系ニ就テ其梗概ヲ陳述セザルベカラズ、氏ハ近世哲學中興ノ祖ト稱セラル、人ニシテ、自家獨得ノ見ヲ以テ從來ノ哲學ヲ論破シ、新ニ一機軸ヲ出シテ確固タル基礎ノ上ニ一家ノ哲學ヲ組織シタルモノナリ、勿論氏ガ哲學ノ起因ハ其以前ノ諸說ニ基ツキタルモノナレド、モ、從來ノ哲學タル其基礎ノ鞏固ナラサルカ爲ニ、往々論點ノ動搖ヲ免カレザリシカバ、氏ハ更ニ堅牢ナル基礎ノ上ニ其哲學ヲ築キタリ、蓋シ氏以前ノ哲學ハ概シテ二派ニ分レ、一ヲ獨斷學派ト云ヒ一ヲ經驗學派ト云フ、獨斷學派ニ於テハ人ノ知識道理ハ正確ナルモノニシテ總テ思想上ニ顯ハル、モノハ決シテ疑フヘカラサルモノナリト假定シ、經驗學派ニ於テハ之ニ反シ凡テ外界ノ事物ハ眞正ナルモノニシテ之ニヨリテ生スル所ノ知識ハ決シテ誤ルコトナシト假定シ、各其哲學ヲ組織セリ、此ノ如ク一ハ思想ヲ確實ナリト獨斷シ、一ハ經驗ヲ眞正ナリト假定シ、以テ其論法ヲ進ムルガ故ニ、各一方ニ偏ズルノ弊アリ、從テ其論礎亦極メテ鞏固ナラズ、彼等

ハ思想ハ正確ナリト信シテ思想其者ノ如何ヲ知ラス經驗ハ誤謬ナシト考ヘテ經驗其者ノ成立ヲ顧ミズ、是ニ於テカントハ此等ノ欠點ヲ看破シ、一新面目ヲ哲學界中ニ開キタリ、但シ氏ノ以前ニ在リテ英國ノヒューム既ニ此等ノ弊ヲ破斥シ、以テ一新說ヲ立テ、コトヲ企テシモ、惜ムベシ其說遂ニ懷疑ニ陥リ、完全ナル哲學ヲ組織スルコト能ハザリキ、又當時佛獨等ノ諸國ニ於テハ、其初メ高尙ナリシ哲學モ、漸次通俗ニ傾キ、淺近ニ流レ、委微振ハサルノ有様トナリシガ、カント出テ、此類勢ヲ挽回シ、尙一層高尙深奥ノ度ニ進メタリ、之ニ加フルニ、氏ハ從來論争ノ絶ユルコトヲ關和スルヲ得サル兩學派ヲ折衷シ、其相一致スル點ヲ發見シ、以テ兩者ヲ成立セシムルコトヲ得タリ、以上ノ諸點ハ即チカントガ近世哲學中興ノ稱アル所以ナリ、茲ニ主觀ト客觀トアリ、經驗學派ハ曰ク、主觀ハ客觀ニ附屬シ、常ニ之カ爲ニ支配制限セラル、モノナリト、獨斷學派ハ曰ク、客觀ハ主觀ニ屬シ、常ニ之カ爲ニ支配制限セラル、モノナリト、其說全ク相反シテ氷炭相容レサルノ有様ナリ、カントハ此兩說ヲ折衷シ、主觀的ノ我心ハ實際上ヨリ云ヘバ、自由ノ力ヲ有シ、外界ノ事物ヲ制限シ得ルモノナリ、然レドモ理論上ヨリ論スルトキハ、主觀ハ客觀ノ制限ヲ受ケ、外物

ヲ待チテ初メテ成立ツモノナリトス。故ニ氏ノ哲學ハ理論ト實際トノ二方ヨリ成
リ、其理論ニ屬スルモノヲ純正道理批判(純理批判)ト云ヒ、其實際ニ屬スルモノヲ實
際道理批判(實理批判)ト云フ

純理批判ヨリ見レバ吾人ノ心ハ外界ノ制限ヲ受ク、外界ノ事物我心ニ入りテ始メ
テ知識ヲ生ス、故ニ外界ハ能動ニシテ内界ハ所動ナリ、又實理批判ヨリ云ヘバ主觀
ハ能動ニシテ自由ノ力ヲ有シ、外界ヲ支配スルヲ得ルモノナリ。且ツ理論上ニ於
テモ主觀ノ我心ハ外界ノ材料ヲ待チテ始メテ知識思想ヲ生スルモノナレドモ、其
所謂知識ニハ主客兩觀ヲ含有セリ、何トナレバ吾人ガ一物ヲ一物トシテ認識スル
ヲ得ルハ主觀ノ我ト客觀ノ事物ト結合シテ成リ立ツモノナレバナリ、而シテ其
外物ヲ認識スル所ノ力ハ、我心内ニ先天的ニ存在セルモノナリ、此ノ如クシテカン
トハ知識經驗ハ如何ニシテ生スルモノナリヤト云フニ論及シ、以テ從來諸家ガ
假定セシモノヲ尙一層深ク批評審査スルノ目的ヲ以テ講究セリ。故ニ氏ノ哲學ヲ
批判哲學ト云フ。又氏ノ哲學ヲ稱シテ超理的哲學(Transcendental philosophy)トモ云
フ。超理的トハ吾人ガ我知識ヲ以テ外界ノ事物ヲ研究スルニ、外物其者ノ本體ニ到

宗 教 哲 學

レバ思想更ニ一步モ進ムヲ得ズ、却リテ後ロニ反戻セラル、ノ感アリ。故ニ物ノ本
體ハ思想外ニ超然タルモノニシテ、吾人ノ知識ハ只外界ノ現象ヲ包括スルニ過キ
ス。然レモ亦敢テ物ノ本體ハ我知識ヲ以テ全ク搜索スヘカラサルニアラス、唯我知
識ハ現象ト本體トノ境界ニ達シテ其本體アルヲ望見スルノミニテ其境遇ニ超入
スルヲ能ハサルナリ。

又カントノ說ニヨルニ吾人ノ知識ニハ形ト質トアリ、即チ知識其者ヲ組立ツル所
ノ形式ト、之ヲ滿タス所ノ體質トアリテ始メテ知識ヲ生ス。而シテ其所謂形式ハ先天
的ニ存在スル者ニシテ、體質ハ五官ヲ經テ入ル所ノ外界ノ現象是ナリ。故ニ知識ハ
主客兩觀相結合シテ生スルナリ。氏ハ又心ヲ覺性悟性ノ二種ニ區別シ、其二者ニ亦
何レモ外界ヨリ得來タル後天的ノモノト、先天的ニ内界ニアルモノトノ二種アリ
トス

先ツ覺性ニ就テ云ヘバ、吾人ガ五感ノ媒介ヲ經テ外界ノ事物ヲ感覺スルヲ得ル
ハ主觀ニ於テ時間空間ノ先天的形式アルヲ以テナリ。論者或ハ時間空間ヲ以テ外
物ニ屬スルモノナリト云フ人アリ、若シ果シテ外物ニ屬スルモノナラバ外物ノ滅

宗 教 哲 學

スト同時ニ時間空間モ滅スベシ。然ルニ吾人ノ思考中ニ於テ外物ノ悉皆消滅シテ宇宙無一物ノ世界ニ達スト云フコト之ヲ考ヘ得ベキモ、時間空間ノ消滅ハ到底考察スルヲ得ス、而カモ如何ナル事物ヲ問ハズ之ヲ感覺スルニハ時間空間ノ關係セサルモノナシ。故ニ時間空間ハ吾人ノ心アル以上ハ決シテ心ヲ離ル、コトナク外物ニ先チテ先天的ニ存在シ、且ツ無限ナルモノナリ。又氏ハ悟性ノ上ニ十二ノ原則ヲ考定シ、吾人カ感覺上或ハ見或ハ聞キ或ハ觸レテ其冷暖堅柔方圓等ノ性狀ヲ結合シ以テ單一トナシ此レハ一物ナリト吾心ニ認識スルカハ先天的ニ存在セルモノナリトシ、覺性悟性共ニ先天的形式ノ存在セルコトヲ論定セリ。然ラバ外界ノ事物ハ吾人ノ知識ヲ以テ果シテ知り盡ステ得ベキカ、曰ク否吾人ノ知ル所ノモノハ唯其外物ノ現象ナリ。外界ハモト時間空間ヨリ成立セルモノニシテ、其時間空間ハ吾心ノ上ニアアルモノナレバ、若シ吾心ノ上ニ時間空間ヲ取除カバ外物ナル者ナシ。故ニ外界ノ現象ハ吾心ノ上ニ顯ハレタルモノノミ。然レドモ其外物ノ本體ニ至テハ吾人ノ知識ノ得テ窺ヒ知ル所ニアラズト。

カントノ純理批判ニ於テ論スル所ハ大略上ニ述フル如クニシテ、神及ヒ道德上ノ

ル則ノ如キハ悉ク之ヲ排斥セリ。然レドモ實理批判ニ於テハ主觀ヲ以テ能動トスルモノナレバ神ナルモノヲ立テ道德上ノ原則モ定メタリ。故ニ純理批判ト實理批判トハ二者全ク相異リテ恰モ一手ノ表裏ヲ顯ハスガ如シ、而シテ此兩者ノ結論ヲ爲セシハ斷定批判ナリ。此實理批評ハ宗教哲學ニ關係ヲ有スルヲ以テ後ニ細論セントス。今聊カカント氏ノ年代ヲ舉クレハ氏ハ千七百二十四年四月廿二日ヲ以テ獨逸クノヒバルフニ生レ、長シテ其地ノ大學教授トナレリ。其著書タル純理批判ハ一千七百八十一年ニ、實理批判ハ千七百八十七年ニ、斷定批判ハ千七百九十年ニ發行シ、一千八百〇四年二月十二日ヲ以テ遠逝セリ。

次ニカントノ宗教哲學ヲ講スル前ニ、尙ホ從來宗教哲學上ニ各哲學者カ論究セシ順序ヲ略述セサルヘカラス。抑モ宗教ヲ哲學的ニ論セシハ、スピノザヲ以テ其嚆矢トス。勿論哲學全體ノ上ヨリ云ヘハデカートヲ以テ首祖トスト。雖モ、氏ノ宗教說タル耶蘇教ニ立ツル神ヲ用ヒシモノナレバ哲學トシテ考フヘキ價值ナシ。然ルニスビノザハ宗教ヲ哲學ノ上ニ説キ純然タル宗教哲學ヲ組織シタルモノナレバ、氏ハ實ニ宗教哲學ノ元祖ト云ハサルベカラズ。氏ノ説ハ萬有神教ノ上ニ論シ出シ、世界

宗 教 哲 學

万有ノ本躰ヲ以テ神トシ、物ト心トハ、神即チ本質ノ上ニ顯ハレタル屬性トナシ、其結局吾人ガ神ニ達スルハ、外ニ求ムルヲ要セズ、内ニ省ミテ心内ノ極メテ高尚ナル道理想ノ思想ノ本躰ニ到達セバ、神ト合一スルヲ得ベシト云ヘリ、故ニ氏ノ説ハ内界ニ偏スル宗教論トナリ、外物ノ上ニ欲念ヲ起ストテ抑制シ、單ニ内界ノ清淨高尚ナルヲ願求シ、遂ニハ遁世脱俗ノ風ヲ起サシムルニ至レリ。之ニ反シテ外界ニ神ヲ立テシハライブニツナリ、氏ハ外界ニ神ノ存在スルヲ唱フレドモ、其説耶蘇教ニ説ク所トハ異リ、道理ヲ以テ基本トシテ耶蘇教ノ神ヲ説明セシナリ、故ニスピンザトライブニツトハ其説全ク相反シテ内外ノ區別ヲナシ、前者ハ厭世ニ過キ、後者ハ樂天愛世ニ傾クニ至レリ。サレバ耶蘇教者ハライブニツテ得テ大ニ理論ノ援助ヲ得タリシガ如ク、佛教家モスピノザノ説ヲ研究セバ得ル所亦タ鮮少ナラザルベシ。此ノ如ク二氏反對ノ地ニ立チテ相争ヒシガ、其ノ以後漸次淺近ニ流レ、獨逸ニアリテハウツルフ、ライブニツテ襲ヒシモ却テ淺薄トナリ、佛國モ亦タ絶エテ高尚ナル理論ヲ唱フルモノナク、英國ノ唯心派ハ元來宗教上ニ高尚ノ理論ヲ用ヒザルモノナレバ其説亦通俗ニシテ元ヨリ論スルニ足ラズ。然ルニカントノ以前ニ當リテ再ヒ宗

宗 教 哲 學

教哲學ヲシテ高尚ナラシメ、カントニ向テ其講究ノ道ヲ開キシモノハ英國ノヒューム、獨逸ノレッシングナリ。ヒュームハ從來ノ諸説ヲ悉ク破壊シ、消極的ニ其道ヲ開キタリ、當時英國ノ唯心論者ハ經典ノ文字、歷史上ノ事實等ノ上ニ於テノミ論争セシガ、ヒュームハ歴史經典ヲ以テ神ノ在否ヲ考定スルカ如キハ固ヨリ無用ノ争論トシ、且ツ學理上ノ論究モ未タ以テ信スルニ足ラストシテ之ヲ排斥シテ曰ク吾人ガ實際ノ上神アリト信スルハ原因結果ノ規則ニ從ヒ、此世界アレバ必ス能造ノ神アリト想像スルニ由ルモノナリ、然レドモ是レ吾人ガ目撃スル陝隘ナル境遇ニ於テ經驗上發見セシ事實ノミ、之ヲ如何シテ經驗外ナル神ノ上ニ適用スルヲ得ンヤト其極遂ニ懷疑ニ陷レリ、然レドモ氏が破壊セシ爲ニ再ヒ新基礎ノ上ニ更ニ新家屋ヲ改築セサルヲ得ザル場合トハナレリ、又レッシングハ之ニ異リテ積極的ニ其道ヲ開キ、直接ニカントノ前驅ヲナセリ、氏ハ從來ノ學者ガ文字言語ノ上ニ宗教ヲ説キシテ非難シ、宗教ハ文字ノ上ニアルニアラス、宗教ハ尙ホ深キ處ニ宗教ノ源アリテ、經典ハ深キ處ニアル宗教心ヲ開發スル所ノ教育的ノモノニ過キズト論セリ、是即チカントニ講究ノ道ヲ與ヘシモノニシテ、レッシングガ宗教ハ人心中ニアリト云ヒシヲカ

ソトハ更ニ進ミテ如何ニシテ人心中ニ宗教ノ存在スルカヲ講究シ、確然タル基礎ノ上ニ學理上ノ組織ヲ以テ宗教哲學ヲ論セリ。

カントノ哲學ハ之ヲ批判哲學ト云ヒ、其宗教哲學モ亦批判的宗教哲學ト云フ。而ソカントノ説ハ其源スピノザ、ライプニツヨリ起リシモノナレバ批判的宗教哲學ハスピノザニ始マリテカントニ至リ大成シタルモノト云フベシ。

上來カント哲學ノ大綱ヲ説キシガ、其宗教説タル大ニ知識論ト關係スルヲ以テ、今將ニ其宗教哲學ヲ講セントスルニ當リテモ尙幾分カ知識論ヲ混説セサルヘカラス。依テ余ハ既ニ其大體ヲ述ヘシニモ關ハラズ、茲ニ再ヒ其要ヲ摘ミテ知識論ヲ講スベシカントノ知識論ハ二種ノ本原ヨリ成ル、一ハ經驗一ハ思想ナリ。即チ物ト心トノ二者相待チテ知識ヲ生スルナリ。英國ノロツクハ知識ハ經驗ヨリ來ルトナシ、獨逸ノライプニツハ知識ハ文來具ハレル者トナセシガ、カントハ此兩説ヲ取り、一部分ハ本來具有シ、一部分ハ外界ノ經驗ヨリ得ルモノトヒリ。而シテ心ヲ覺性(感覺)ト悟性(理解)トニ分チ、二者共ニ先天性アリトス。即チ覺性ニハ時間空間ヲ以テ先天性直覺トナシ、悟性ニハ十二ノ原則ヲ以テ先天性思想トス。抑モ吾人ノ心ニアリテ

宗 教 哲 學

宗 教 哲 學

感覺經驗スル所ノモノハ時間空間ノ先天的直覺ヲ離ル、トナク、又吾人が一物ヲ一物トシテ認識スルハ個々別々ナルモノヲ集メテ一物トスル先天性思想ノ力アルヲ以テナリ。故ニ外界ノ現象ハ總テ心ノ上ニ顯ハレタルモノナリトス。是ニ於テカントノ説唯心論ニ傾クカ如シ。然レトモ外界ノ事物其者ノ本體ニ至リテハ吾心ヲ離レテ獨立現存スルモノナリ。其本體ト現象トノ間ニハ之ヲ隔離スル所ノ一ノ界線アリテ吾人ノ覺性悟性此點ニ至レハ直ニ反戻セラレ、如何ナル方法ヲ以テスルモ本體ノ如何ハ到底之ヲ窺ヒ知ルヲ得ズ。然ラハ其本體ノ實存セリト云フ。トハ如何ニシテ知ルヲ得ヘキカ、氏ハ之ニ答フルニ消極的ノ説明ヲ以テシ吾人ノ知識本體ヲ探ラントシテ其界線ニ至リ反戻セラル、ハ此レ本體ノ反射ニシテ本體アルノ證ナリト。然レトモカント哲學ノ難問ハ實ニ此點ニアリテ、本體ハ知ルベカラザルモノトシナカラ何ヲ以テ其ノ現在ヲ知り得ルカ既ニ知ルヲ得ズ何ヲ以テ知識ト本體トノ分界ヲナスヤ、氏モ亦此點ニ於テハ其説明十分ナラス。氏ノ考ニヨルニ凡ソ現象アルモノハ必ス其本體アルヘシ、吾人ノ心中ニ先天ノ事情アルガ故ニ、能ク外界ノ事物ヲ經驗スルヲ得、ト同シク物ノ現象アル以上ハ、又其本體ノ存

宗 教 哲 學

ヒサル理ナシト然レドモ或ル場合ニ於テハ氏自身モ其本體ノ存生ヲ疑ヒ判然其
 決心ナキカ如ク見ユル所アレドモ、兎ニ角結論ニ至リテハ本體アリト定メタリ。
 カントノ純理批判ニ於テノ長所ハ先天性ノ存在ヲ吾人ニ示セシニアリ。コハ既ニ
 其要領ヲ畧述セシガ思想上ノ先天性ニハ氏ハ十二ノ原則ヲ立テ之ヲ數理ニヨリ
 テ證明セリ。數理ハ吾人が實際上外物ニ適用スルニ際シ、若シ事實ノ數理ニ齟齬
 ルコトアルハ、必ス事實ヲ以テ誤レリトシ、再ヒ事實ヲ驗スルニ皆然ラサルハナシ。
 例ヒバ三角ノ和ハ二正角ニ等シトハ吾心ニ具ハレル數理ナルガ、若シ事實上三角
 ノ和二正角ニ全シカラザレバ必ス事實ニ於テ誤リアルヲ發見スベシ。是レ數理ハ
 吾心ニ固有シテ普遍必要ノ性質ヲ具フルモノナレバナリ。普遍トハ何ノ處何ノ場
 合ヲ問ハズ同シク一ト二ト合シテ三トナレルガ如ク、必要トハ如何ニスルモ必ス
 然ラザルヲ得サルモノヲ云フ。此普遍必要ノ二性ヲ具フルモノヲ以テ眞理トス。今
 二ト三トヲ合シテ五トナルハ正確疑フベカラザルコトナリ。然レトモ二ト三トヲ五
 ニ比スルニ五ヲ以テ多シトス。何トナレバ實際上二ト三トヲ其儘ニシテ五トナル
 ニハアラス。二ト三トヲ吾心ニ於テ先天的統合ノ力ヲ以テ統合シテ五トスルガ故
 ニ五トナルナリ。サレバ五ヲ以テ二ト三トヨリハ多シトセサルヘカラス。彼ノ英國
 派ノ學者ハ常ニ經驗ヲ口ニス。雖モ經驗ノミニテ知識ニ生スルニアラス。之ヲ統
 合シテ知識トナスハ實ニ我心ノ上ニアリ。

宗 教 哲 學

前述セシ如ク、カントハ吾人が外界ノ事物ヲ感覺經驗シ之ヲ我心ノ上ニ結合スル
 ヲ得ルハ畢竟我心ノ本體一ナルガ故ナリトシ、此主觀ノ本體ヲ名クテ自覺ノ本體ト
 云フ。而シテ主觀ト客觀トハ並立スルモノナレハ、主觀ニ於テ自覺アリト云フト同
 時ニ外界現象ノ本體ナルモノハ存在セサルベカラス。假令之ヲ知ルヲ得サルモ其
 存在ハ明了ニシテ疑フベカラスト云ヘリ。由此觀之、氏ノ說ハ人ノ知識感覺經驗ハ
 皆自覺ノ上ニ顯ハレタル主觀的ノモノニシテ客觀事物ノ本體ハ別ニ我心ヲ離レ
 テ存在ストシタルナリ。然レトモ氏ハ既ニ外物ノ本體ハ或ル限界ノ爲ニ遮斷セラ
 レ之ヲ知ルヲ得ズト唱ヘナガラ、外物ノ本體アルハ疑フベカラスト云ヒシハ氏カ
 哲學ノ一大缺點ニシテ論理上ノ撞着ヲ免レズ。蓋シ氏ハ從來ノ二元論トハ相異ナ
 リト雖モ亦一種ノ二元論ヲ主唱セシ人ニシテ、其以前ノ二元論ハ單ニ物心ノ現象
 上ニ說キタルモノナリシモ氏ハ本體ノ上ニ二元ヲ分ツニ至レリ。若シ果シテ本體